

**2020年度  
大学院経済学研究科  
講義概要（シラバス）**



**法政大学**

# 科目一覽

【発行日：2020/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

【X3000】	経済学基礎 A [倪 彬] 春学期前半/Spring(1st half) . . . . .	1
【X3001】	経済学基礎 B [倪 彬] 春学期後半/Spring(2nd half) . . . . .	2
【X3006】	実証経済学基礎 A [池上 宗信] 春学期授業/Spring . . . . .	3
【X3007】	実証経済学基礎 B [河村 真] 秋学期授業/Fall . . . . .	4
【X3008】	統計学基礎 A [菅 幹雄] 春学期前半/Spring(1st half) . . . . .	5
【X3010】	経済史 A [牧野 文夫] 春学期授業/Spring . . . . .	6
【X3011】	経済史 B [長原 豊] 秋学期授業/Fall . . . . .	7
【X3012】	計量経済学 A [明城 聡] 春学期授業/Spring . . . . .	8
【X3013】	計量経済学 B [濱秋 純哉] 秋学期授業/Fall . . . . .	9
【X3014】	社会経済学 A [佐藤 良一] 春学期授業/Spring . . . . .	10
【X3015】	社会経済学 B [原 伸子] 秋学期授業/Fall . . . . .	11
【X3016】	マクロ経済学 A [森田 裕史] 春学期前半/Spring(1st half) . . . . .	12
【X3017】	マクロ経済学 B [宮崎 憲治] 秋学期授業/Fall . . . . .	13
【X3018】	ミクロ経済学 A [篠原 隆介] 春学期授業/Spring . . . . .	14
【X3019】	ミクロ経済学 B [佐柄 信純] 秋学期授業/Fall . . . . .	15
【X3020】	応用マクロ経済学 A [森田 裕史] 春学期前半/Spring(1st half) . . . . .	16
【X3021】	応用マクロ経済学 B [蓮見 亮] 秋学期授業/Fall . . . . .	17
【X3022】	応用ミクロ経済学 A [池上 宗信] 春学期授業/Spring . . . . .	18
【X3023】	応用ミクロ経済学 B [佐柄 信純] 秋学期授業/Fall . . . . .	19
【X3028】	経済学史 A [平瀬 友樹] 秋学期後半/Fall(2nd half) . . . . .	20
【X3032】	ジェンダー経済論 A [原 伸子・山本 真鳥・板井 広明] 秋学期前半/Fall(1st half) . . . . .	21
【X3033】	ジェンダー経済論 B [原 伸子・山本 真鳥・板井 広明] 秋学期後半/Fall(2nd half) . . . . .	22
【X3034】	地域経済論 I A [河村 哲二] 秋学期前半/Fall(1st half) . . . . .	23
【X3035】	地域経済論 I B [河村 哲二] 秋学期後半/Fall(2nd half) . . . . .	24
【X3038】	統計学 A [伊藤 伸介] 春学期授業/Spring . . . . .	25
【X3039】	統計学 B [伊藤 伸介] 秋学期授業/Fall . . . . .	26
【X3040】	日本経済論 A [小崎 敏男] 春学期授業/Spring . . . . .	27
【X3041】	日本経済論 B [牧野 文夫] 秋学期授業/Fall . . . . .	28
【X3043】	法と経済学 B [菅 富美枝] 秋学期授業/Fall . . . . .	29
【X3045】	企業経済学 B [砂田 充] 秋学期授業/Fall . . . . .	30
【X3050】	国際金融論 A [ブー・トウンカイ] 春学期授業/Spring . . . . .	31
【X3051】	国際金融論 B [ブー・トウンカイ] 秋学期授業/Fall . . . . .	32
【X3056】	環境政策論 A [西澤 栄一郎] 春学期前半/Spring(1st half) . . . . .	33
【X3057】	環境政策論 B [西澤 栄一郎] 春学期後半/Spring(2nd half) . . . . .	34
【X3058】	経済政策 A [濱秋 純哉] 春学期授業/Spring . . . . .	35
【X3062】	公共経済学 A [篠原 隆介] 春学期授業/Spring . . . . .	36
【X3066】	都市経済政策論 A [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall . . . . .	37
【X3067】	都市経済政策論 B [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall . . . . .	38
【X3072】	上級マクロ経済学 A [宮崎 憲治] 春学期前半/Spring(1st half) . . . . .	39
【X3073】	上級マクロ経済学 B [宮崎 憲治] 春学期後半/Spring(2nd half) . . . . .	40
【X3076】	ミクロ計量分析 A [明城 聡] 春学期授業/Spring . . . . .	41
【X3077】	ミクロ計量分析 B [明城 聡] 秋学期授業/Fall . . . . .	42
【X3078】	特別講義 I A [清水 由美] 春学期授業/Spring . . . . .	43
【X3079】	特別講義 I B [清水 由美] 秋学期授業/Fall . . . . .	44
【X3080】	特別講義 II A [清水 由美] 春学期授業/Spring . . . . .	46
【X3081】	特別講義 II B [清水 由美] 秋学期授業/Fall . . . . .	47
【X3082】	特別講義 III A [大場 理恵子] 春学期授業/Spring . . . . .	48
【X3083】	特別講義 III B [大場 理恵子] 秋学期授業/Fall . . . . .	49
【X3301】	応用マクロ経済学 D A [森田 裕史] 春学期前半/Spring(1st half) . . . . .	50
【X3302】	応用マクロ経済学 D B [蓮見 亮] 秋学期授業/Fall . . . . .	51
【X3303】	応用ミクロ経済学 D A [池上 宗信] 春学期授業/Spring . . . . .	52
【X3304】	応用ミクロ経済学 D B [佐柄 信純] 秋学期授業/Fall . . . . .	53
【X3309】	経済学史 D A [平瀬 友樹] 秋学期後半/Fall(2nd half) . . . . .	54

【X3313】	ジェンダー経済論DA [原 伸子・山本 真鳥・板井 広明] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	55
【X3314】	ジェンダー経済論DB [原 伸子・山本 真鳥・板井 広明] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	56
【X3315】	地域経済論IDA [河村 哲二] 秋学期前半/Fall(1st half) .....	57
【X3316】	地域経済論IDB [河村 哲二] 秋学期後半/Fall(2nd half) .....	58
【X3319】	統計学DA [伊藤 伸介] 春学期授業/Spring .....	59
【X3320】	統計学DB [伊藤 伸介] 秋学期授業/Fall .....	60
【X3321】	日本経済論DA [小崎 敏男] 春学期授業/Spring .....	61
【X3322】	日本経済論DB [牧野 文夫] 秋学期授業/Fall .....	62
【X3324】	法と経済学DB [菅 富美枝] 春学期授業/Spring .....	63
【X3326】	企業経済学DB [砂田 充] 秋学期授業/Fall .....	64
【X3331】	国際金融論DA [ブー・トウンカイ] 春学期授業/Spring .....	65
【X3332】	国際金融論DB [ブー・トウンカイ] 秋学期授業/Fall .....	66
【X3337】	環境政策論DA [西澤 栄一郎] 春学期前半/Spring(1st half) .....	67
【X3338】	環境政策論DB [西澤 栄一郎] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	68
【X3339】	経済政策DA [濱秋 純哉] 春学期授業/Spring .....	69
【X3343】	公共経済学DA [篠原 隆介] 春学期授業/Spring .....	70
【X3347】	都市経済政策論DA [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall .....	71
【X3348】	都市経済政策論DB [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall .....	72
【X3353】	上級マクロ経済学DA [宮崎 憲治] 春学期前半/Spring(1st half) .....	73
【X3354】	上級マクロ経済学DB [宮崎 憲治] 春学期後半/Spring(2nd half) .....	74
【X3357】	ミクロ計量分析DA [明城 聡] 春学期授業/Spring .....	75
【X3358】	ミクロ計量分析DB [明城 聡] 秋学期授業/Fall .....	76

ECN501C1-1

**経済学基礎 A**

倪 彬

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ミクロ経済学では、経済活動の担い手である消費者や企業の行動を学び、それらを結びつける市場（しじょう）の役割について考えます。本講義では、ミクロ経済学の基礎的な概念、理論的枠組みを学ぶことを通じて、経済学的なものの方や考え方を身につけていきます。ひいては、経済社会に対する洞察力、判断力を養うことを目指します。

**【到達目標】**

1. ある財の需要と供給を一致させる価格の調整メカニズムについて説明できる。
2. 市場の効率性を判断するための余剰分析について理解できる。
3. 経済学の基礎的な知見に基づき、市場における政府の役割について自分なりの意見を述べるができる。
4. 需要曲線と供給曲線がそれぞれどのように導かれているのかを説明できる。
5. 上記 1～4 をはじめとして、ミクロ経済学の基礎的な概念を理解し、重要な専門用語を適切に用いることができるとともに、適切な計算方法と関連付けることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

講義形式により、言葉による直観的説明を重視しながら、基礎的な経済理論を解説します。講義ノートは事前にアップし、学生自分でダウンロードやプリントアウトしてもらいます。授業後演習問題を適宜に与えるので、それを通じて学生の理解度を高めてもらいます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】****春学期前半**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	ミクロ経済学とは
第 2 回	需要と供給 (1)	需要曲線
第 3 回	需要と供給 (2)	供給曲線
第 4 回	市場均衡	価格調整メカニズム
第 5 回	市場の効率性と政府介入 (1)	社会厚生と余剰分析
第 6 回	市場の効率性と政府介入 (2)	課税がもたらす非効率性
第 7 回	市場の失敗と政府の役割 (1)	外部性
第 8 回	市場の失敗と政府の役割 (2)	公共財
第 9 回	企業行動と財の供給 (1)	生産と費用
第 10 回	企業行動と財の供給 (2)	完全競争市場における企業
第 11 回	企業行動と財の供給 (3)	独占
第 12 回	消費者行動と財の需要 (1)	消費者の嗜好、最適消費
第 13 回	消費者行動と財の需要 (2)	所得・価格の変化と財需要
第 14 回	ゲーム理論	入門

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前学習：日頃から意識的に経済ニュースに触れるように努めてください。取っ掛かりとしては、以下で参考書として掲げる新書のような、一般向けに書かれた経済学の啓蒙書を手にとってみることもお勧めです。

事後学習：前回までの講義内容を復習したうえで各回の講義に臨むようにしてください。

また、経済学に使う経済数学の演習（や復習）もしっかりやって貰いたいです。必要な学習時間：目安として、4 時間/回。

**【テキスト（教科書）】**

特になし

**【参考書】**

古澤泰治・塩路悦朗 (2012) 『ベーシック経済学－次につながる基礎固め』、有斐閣

マンキュー 経済学 I ミクロ編 (第 3 版)、東洋経済新報社

**【成績評価の方法と基準】**

学期末の定期試験期間中に実施する定期試験（70 点相当）、授業期間中に 2 回実施する宿題（15 点 + 15 点 = 計 30 点）によって評価します。期末試験問題は、講義中の小テストや宿題で扱った内容をベースに作成されます。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【その他の重要事項】**

私は慎重なこと。

面談などはメールで事前にアポを取ってください: bin@hosei.ac.jp

**【担当教員の専門分野等】**

&lt;専門領域&gt;

&lt;研究テーマ&gt;

&lt;主要研究業績&gt;

**【Outline and objectives】**

In this course we will study the basic concepts and frameworks of microeconomics.

ECN501C1-2

**経済学基礎 B**

倪 彬

【Outline and objectives】

We will learn the basic knowledge and frameworks of macroeconomics.

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

マクロ経済学では、一国の経済状況の重要な指標である総生産（GDP）や物価水準、利率といった概念を学び、それらが決定されていく仕組みについて考えます。本講義では、マクロ経済学の基礎的な概念、理論的枠組みを学ぶことを通じて、経済学的なものの方見方や考え方を身につけていきます。ひいては、経済社会に対する洞察力、判断力を養うことを目指します。

**【到達目標】**

1. 名目と実質、フローとストック、長期と短期の違いや三面等価の原則について説明できる。
2. 総生産や物価水準、利率が決定される仕組みについて理解するとともに、経済学の基礎的な知見に基づき、政府による財政政策や金融政策の効果を分析し、説明することができる。
3. 最近の日本・世界経済における重要な出来事を理解する。
4. 長期にわたる持続的経済成長の実現について、経済成長理論の基本モデルであるソロー・モデルから得られる含意を理解できる。
5. 上記 1～4 をはじめとして、マクロ経済学の基礎的な概念を理解し、重要な専門用語を適切に用いることができるとともに、適切な計算方法と関連付けられることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

スライドを使って、講義形式により、言葉による直観的説明を重視しながら、基礎的な経済理論を解説します。

授業後演習問題を適宜に与えるので、それを通じて学生の理解度を高めてもらいます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】****春学期後半**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	講義の概要、マクロ経済学とは
第 2 回	基本概念 (1)	名目と実質 GDP、三面等価の原則
第 3 回	基本概念 (2)	各種マクロ経済指標とグラフの読み方
第 4 回	マクロ経済モデル入門	長期モデル
第 5 回	財市場の役割	45 度線分析、IS 曲線
第 6 回	貨幣市場の役割	貨幣・金融の機能、LM 曲線
第 7 回	財政・金融政策の効果	流動性の罍
第 8 回	マクロ経済モデル入門	短期モデル
第 9 回	経済成長 (1)	ソロー・モデルの基本
第 10 回	経済成長 (2)	ソロー・モデルの拡張、内生的成長理論
第 11 回	経済成長 (3)	経済成長と所得分配、成長会計
第 12 回	日本経済概観	戦後からバブル経済と失われた 20 年
第 13 回	為替レートとアジア通貨危機	為替レートとアジア通貨危機
第 14 回	地域経済統合	地域経済統合と世界金融危機

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前学習：日頃から意識的に経済ニュースに触れるように努めてください。取っ掛かりとしては、以下で参考書として掲げる新書のような、一般向けに書かれた経済学の啓蒙書を手にとってみることもお勧めです。

事後学習：前回までの講義内容を復習したうえで各回の講義に臨むようにしてください。

また、経済学に使う経済数学の演習（や復習）もしっかりやって貰いたいです。必要な学習時間：目安として、4 時間/回。

**【テキスト（教科書）】**

特になし

**【参考書】**

斎藤誠他 (2016) 『マクロ経済学 新版』、有斐閣  
古澤泰治・塩路悦朗 (2012) 『ベーシック経済学－次につながる基礎固め』、有斐閣  
(※ 本講義で扱うのは第 II 部のみ)  
マンキュー マクロ経済学 (第 3 版) 1 入門篇、東洋経済新報社

**【成績評価の方法と基準】**

学期末の定期試験期間中に実施する定期試験 (70 点相当)、授業期間中に 2 回実施する宿題 (15 点 + 15 点 = 計 30 点) によって評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>  
<研究テーマ>  
<主要研究業績>

ECN504C1-1

**実証経済学基礎A**

池上 宗信

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

経済学の各分野で頻出する、回帰分析、ランダム化比較試験、操作変数法などの実証分析の手法を学びます。

各手法の概要を理解し、各手法を用いてデータを分析することで、論文のアイデア探しに活用できるようになることを目指します。

**【到達目標】**

1つ目の目標は、各学生の研究分野で、この講義で学んだ各実証分析手法を用いた論文が出てきたときに、手法がわからないことが原因でつまづかないようになることです。

2つ目の目標は、各実証分析手法を考慮しながら、学生各自の論文の間、アイデアを探ることができるようになることです。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。教員による講義が中心になりますが、授業中に学生に演習問題を解いてもらいます。

情報実習室と呼ばれる、各学生に1台ずつデスクトップパソコンが用意された教室を用いる予定です。

演習問題、試験には統計計算ソフトRを用いた問題が含まれます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
第1回	統計の基礎知識	母集団と標本、無作為抽出
第2回	確率論の基礎	確率変数、期待値、条件付き期待値、中心極限定理
第3回	回帰分析の基礎	最小二乗法
第4回	推測統計の基礎	仮説検定、信頼区間
第5回	相関関係と因果関係	相関関係と因果関係
第6回	外生変数と内生変数	省略変数、測定誤差、同時性
第7回	中間試験	前回までの内容を復習。試験。
第8回	ランダム化比較試験	選択性バイアス
第9回	操作変数法	2段階最小二乗法
第10回	固定効果	パネルデータ
第11回	差の差の分析	並行トレンドの仮定
第12回	不連続回帰デザイン	連続性条件
第13回	マッチング	条件付独立性、オーバーラップ条件
第14回	期末試験	前回までの内容を復習。試験。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

予習として事前に指定した箇所20ページほどを読んできてもらいたいと思います。

授業、演習問題の内容を必要に応じて復習してください。

講義の後に学生が自分でさらに調べたいような授業を目指したいと思います。

**【テキスト（教科書）】**

星野匡郎、田中久稔(2016)『Rによる実証分析: 回帰分析から因果分析へ』オーム社

各手法を用いてデータを分析する部分およびパネルデータの分析手法の部分は、以下の参考書などで補完します。

**【参考書】**

アングリスト、ピスケ(2013)『「ほとんど無害」な計量経済学』NTT出版

伊藤公一朗(2017)『データ分析の力』光文社新書

今井耕介(2018)『社会科学のためのデータ分析入門 上・下』岩波書店

田中隆一(2015)『計量経済学の第一歩』有斐閣

中室牧子、津川友介(2017)『「原因と結果」の経済学』ダイヤモンド社

西山慶彦、新谷元嗣、川口大司、奥井亮(2019)『計量経済学』有斐閣

森田果(2014)『実証分析入門』日本評論社

山本勲(2015)『実証分析のための計量経済学』中央経済社

Angrist and Pischke(2014)Mastering 'Metrics. Princeton University Press

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

中間試験40%、期末試験40%、平常点20%で評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>

開発ミクロ経済学

<研究テーマ>

家計の異時点間の意思決定と貧困動学、東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険

<主要研究業績>

① “Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” American Journal of Agricultural Economics, Volume 101, Issue 3, pp. 672-691. 2019.

② “Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. The Economics of Poverty Traps, chapter 6. pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

③ “Experimental Evidence on the Drivers of Index-Based Livestock Insurance Demand in Southern Ethiopia.” World Development, Vol. 78, pp.324-340. 2016.

**【Outline and objectives】**

We will study econometrics methods such as regression, randomized controlled trial, and instrument variable method, which appear frequently in each field of Applied Microeconomics.

We will aim to understand each method roughly and apply each method to data so that we will become able to look for paper ideas with keeping each empirical method in our mind.

ECN504C1-2

## 実証経済学基礎B

河村 真

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学「生産者の理論」の応用計量経済分析（規模の経済性の計測）

## 【到達目標】

導入科目として、ミクロ経済学の「生産者の理論」の生産要素需要の説明およびその延長線上にある費用関数に関する説明を復習し、理解する。さらに、費用関数の推定および規模の経済性の計測を実習を通じて行い、最小二乗推定量の基本的な理解とパネルデータを用いる際の推定結果の基本的な診断および改善に関する手続きを各自で行えるようにすること。併せて、費用関数の推定、仮説検定に用いる統計学ソフト `stata` の基本的なコマンドを使えるようになることおよび計測結果の出力を各自で行えるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

ミクロ経済学の「生産者の理論」における生産要素需要の決定と費用関数の導出を解説する（主にミクロ経済学の復習）。公益事業のデータを用いて、ミクロ経済学の理論で提示されている費用関数と整合的な費用関数の推定を統計ソフト `stata` を用いて体験してもらう。それに基づき、規模の経済性の計測値を求め、その計測値のミクロ経済学的な解釈を説明する。講義の目的は、簡単なミクロ経済学の理論を用いても、計量経済学による計測結果を政策的な課題の判断材料として提示できることを体感してもらうことにある。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明と注意
第2回	費用関数および生産関数の計測を通じた応用軽量経済学の研究成果	規模・範囲の経済性の計測、代替弾力性の計測の過去のサーベイ
第3回	利潤最大化行動と生産要素需要関数	ミクロ経済学の「生産者の理論の復習」：利潤最大化行動に基づく生産要素需要の決定の解説
第4回	要素需要と要素価格フロンティア	要素需要の決定と要素価格フロンティアとの対応
第5回	費用関数の性質	要素需要関数と整合的な費用関数の性質
第6回	生産関数と双対な費用関数の性質と関数の特定化	生産関数と双対な費用関数の導出、費用関数の特定化に関する解説
第7回	費用関数の推定に用いる計量経済学（I）	最小二乗推定量の基礎の復習（標準誤差、F-検定、t-検定の解説）
第8回	費用関数の推定に用いる計量経済学（I）	最小二乗推定量の基礎の復習（標準誤差、F-検定、t-検定の解説）
第9回	費用関数の推定に用いる計量経済学（II）	最小二乗推定量に基づく推定結果の改善（系列相関、分散不均一などの簡単な解説）
第10回	費用関数の推定・規模の経済性の計測の実習（I）	計量経済学のソフト <code>stata</code> を用いた費用関数の推定および推定結果の問題点の検出
第11回	費用関数の推定・規模の経済性の計測の実習（I）	計量経済学のソフト <code>stata</code> を用いた費用関数の推定および推定結果の問題点の検出

第12回	費用関数の推定・規模の経済性の計測の実習（II）	<code>fixed effects model</code> および <code>random effects model</code> の推定さらに、規模の経済性の推定値の統計学的解釈
第13回	費用関数の推定・規模の経済性の計測の実習（II）	<code>fixed effects model</code> および <code>random effects model</code> の推定さらに、規模の経済性の推定値の統計学的解釈

## 第14回 レポート作成指導

レポート作成の質問等に答える

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特に定めず、各教員が参考文献を示す。

## 【参考書】

奥野正寛、鈴木興太郎『ミクロ経済学I』（モダンエコノミックスシリーズ）岩波書店 計量経済学入門の教科書やそれ以外等は、講義中に示す。

## 【成績評価の方法と基準】

実習での費用関数に関わる推定及び検定の `stata` プログラミング作業に関する評価に40%及び期末レポートの評価に60%のウェイトを付け、評価を行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

貸出ノートパソコン（`stata` インストール済み）、および、授業支援システムを利用する。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 応用計量経済学

<研究テーマ> 規制産業の規模の経済性、全要素生産性の計測

<主要研究業績> "Estimates of Optimal Public Capital Stocks in Japan Using a Public Investment Discount Rate Framework", *Empirical Economics* 24, 1999. (根本二郎氏、釜田公良氏と共著) 「大都市公営バス事業の密度の経済とサイズの経済の計測」『季刊理論経済学』44巻3号, pp.269-274, 1993

## 【Outline and objectives】

The first aim of the course is to understand duality of profit maximizing problem and cost minimizing problem for determining factor demand. By using this duality, cost function could be derived at certain function from production function. Certain cost function could be specified. Then, the cost function would be estimated by OLS estimator, using Japanese Metropolitan Bus operation data, assigned for the students. The estimation is conducted by STATA. Finally, the hypothesis that Japanese Metropolitan bus operation shows scale economy could be statistically tested.

ECN505C1-1

**統計学基礎 A**

菅 幹雄

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

統計学の基礎を学び、実証分析へ進めるようになること。

**【到達目標】**

統計学の問題を正しく解答できるようになること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

毎回の授業において、前回の授業内容に関係する小テストを実施する。授業では最初に統計学の理論を説明し、それに関係する例題を解く。授業開始日：4月21日

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	データの整理（1）	記述統計学と測定尺度、度数分布とヒストグラム
第2回	データの整理（2）	平均、分散と標準偏差、質的データの代表値、相関係数
第3回	確率分布（1）	確率分布、二項分布から正規分布へ
第4回	確率分布（2）	正規分布の便利な性質、標準化と偏差値、正規分布に関する統計量とポアソン分布
第5回	不偏推定量と標本分布（1）	推測統計学、統計記号と不偏推定量
第6回	不偏推定量と標本分布（2）	平均の標本分布、標本分布のバラツキ、まとめと標本平均の標準化
第7回	信頼区間の推定（1）	大数の法則と中心極限定理、信頼区間の推定の基礎
第8回	信頼区間の推定（2）	正規分布による区間推定、t分布による区間推定
第9回	カイ2乗分布とF分布（1）	カイ2乗分布、母分散の区間推定
第10回	カイ2乗分布とF分布（2）	F分布、特別なF値
第11回	検定の基本	検定の概要、仮設の設定、仮設の検定、標準正規分布やt分布の利用
第12回	2群の平均の差の検定（1）	最もよく使われる検定手法、対応関係、仮設設定と検定統計量
第13回	2群の平均の差の検定（2）	対応のある2群の差の検定、等分散の検定、両側検定と片側検定
第14回	まとめと試験	まとめと試験

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の授業のはじめに、前回の授業の内容について小テスト（30分）を実施するので、授業の内容をよく復習しておくこと。予習時間と復習時間は各2時間とする。

**【テキスト（教科書）】**

栗原伸一『入門統計学』オーム社、2400円

**【参考書】**

白砂堤津耶『例題で学ぶ初歩からの統計学 第2版』日本評論社、2750円

**【成績評価の方法と基準】**

小テスト 50%、期末試験 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

前年度、前々年度に授業を担当していないのでアンケート結果がない。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>  
<研究テーマ>  
<主要研究業績>

**【Outline and objectives】**

Study the basics of statistics and proceed to the empirical analysis.

<主要研究業績> 本学の学術データベースで確認して下さい。

**【Outline and objectives】**

Reading a textbook for the political economy and institutional analysis of economic development of nations

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

経済制度と経済発展の比較史に関するテキストを輪読する。

**【到達目標】**

各国の経済発展の正否と経済制度、政治との関係を具体的事例をもとに理解することを目的とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

受講者が割り当てられたテキスト各章の要約報告と問題提起を行い、それにもとづき議論する。ただし武漢ウィルスの感染急増にともない、第1回目（5月11日）以降しばらくの間は、教室での授業は実施せず、学習支援システムの機能選択項目の中の「課題」を通じて教科書を使ったレポート課題を出す。授業内容に関する質問は、学習支援システムの掲示板内のスレッド「授業への質問コーナー」に投稿すること。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	テキスト第1章	問題の提起
第2回	テキスト第2章	従来の理論仮説
第3回	テキスト第3章	制度が如何にして繁栄と貧困を生みだすか
第4回	テキスト第4章	経済発展の歴史依存性
第5回	テキスト第5章	収奪・貧困と制度
第6回	テキスト第6章	制度自身の発展
第7回	テキスト第7章	発展への転換点
第8回	テキスト第8章	発展への障壁
第9回	テキスト第9章	旧ヨーロッパ植民地の貧困
第10回	テキスト第10、11章	繁栄の広がり発展の好循環
第11回	テキスト第12章	貧困の悪循環
第12回	テキスト第13章	現在の国家の衰退
第13回	テキスト第14章	国家による制度改革の試み
第14回	テキスト第15章	総括

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキストおよび参考文献の予・復習各2時間。

**【テキスト（教科書）】**

ダロン・アセモグル and J.A. ロビンソン『国家はなぜ衰退するのか』上・下巻、早川書房（文庫本、中古本等が廉価で購入可能）

**【参考書】**

- 1) 青木昌彦『経済システムの進化と多元性：比較制度分析序説』東洋経済新報社。
- 2) E.L. ジョーンズ『ヨーロッパの奇跡』名古屋大学出版会。
- 3) D. ランデス『「強国」論—富と覇権の世界史』三笠書房。

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、後日発表する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特に指摘された項目はありません。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域> 日本の経済発展  
<研究テーマ> 所得と資産の分配

ECN512C1-2

## 経済史 B

長原 豊

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業概要：近代とその土台である資本主義の形成過程を「史実」と「論理（あるいは理論）」という2つの視点から整理する。  
 授業目的と意義：現代という観点から歴史を俯瞰的かつアクチュアルに捉え、他者に説明できるようになることを目的とする。

## 【到達目標】

到達目標は以下の2点である。

- (1) 「歴史的近代」が「資本主義的近代」へと具体化していく過程を「資本」形成の視点から大掴みにできるようにする。
- (2) またそのさい、具体的「史実」とその「理論-論理」的理解を説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

- (1) テキストに基づいて、基本的知識を講義する。
- (2) 必要に応じて、周辺領域についてのレジュメを配布し、テキストを補完する。
- (3) 前回の復習を講義の冒頭で行う。
- (4) 講義毎に、前回の講義についての小論文を提出させる（「成績評価の方法と基準」を参照せよ）。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	東西文化の興隆	Local History の時代について講義する。
第2回	東西世界の対決と交流	Interregional History への移行期について講義する。
第3回	東西世界の融合	Interregional History の時代について講義する。
第4回	資本主義の生成と「近代」社会の登場	National History の勃興について講義する。
第5回	資本主義による世界の再編成	National History から International History への移行を講義する。
第6回	資本主義世界経済体制の転回	International History の時代を講義する。
第7回	第2次世界大戦後の経済社会の展開	International History から Transnational History への移行を講義する。
第8回	市場経済の拡張とその限界	「市場」概念の歴史的再把握について講義する。
第9回	信用システムの生成と展開	経済活動と信用の歴史的展開について講義する。
第10回	市場の発達とその応用	市場と（経営）組織の史的展開について講義する。
第11回	市場の失敗とその克服	政策の史的意義について講義する。
第12回	近現代市場経済の諸問題と国家介入	政策と国家について講義する。
第13回	「福祉」と社会	市場と社会保障との史的関係について講義する。
第14回	総括	学問としての経済史について講義する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【授業の進め方と方法】で示したように

- (1) 「講義毎の核心的論題についてのエッセーを次週に提出する」という課題を課す。
- (2) (1) 執筆に当たって必要とした文献の一覧も提出する。
- (3) 以上2点にかかわって、本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

金井雄一・中西聡・福澤直樹編『世界経済の歴史:グローバル経済史入門』名古屋大学出版会、2010年、2,800円+税

## 【参考書】

- (1) 小野塚知二『経済史：いまを知り、未来を生きるために』有斐閣、2018年、4,000円+税
- (2) ケネス・ポメラント『大分岐』川北稔ほか訳、名古屋大学出版会、2015年、5,500円+税
- (3) D.C. ノースほか『暴力と社会秩序』杉之原真子訳、NTT出版、2017年、5,500円+税

## 【成績評価の方法と基準】

以下の2つをもって成績を評価する。

- (1) 最終回を除く13回の「講義毎の核心的論題についてのエッセー」の提出とその内容についての評価を50%
- (2) 学期末のレポート（4000字以上）の評価を50%

## 【学生の意見等からの気づき】

院生からの質問に単に答（答）えるのではなく、受講生全体にとっての「論題」として議論することが生産的であることが分かった。つまり講義にとってもっとも必要な点は相互性であることが分かった。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【その他の重要事項】

なし

## 【専門分野】

日本経済史・経済理論・社会思想

## 【研究テーマ】

経済史・経済史方法論・経済理論・社会思想

## 【主要業績】

『天皇制国家と農民』日本経済評論社、1989年  
 『われら瑕疵ある者たち』青土社、2008年  
 『ヤサグレたちの街頭』航思社、2015年  
 『敗北と憶想』航思社、2019年

## 【Outline and objectives】

- (1): Our class aims at understanding the modernity so-called and the formation processes of Capitalism associated with it in terms of the two viewpoints: "the historical facts" and "the theories (or logics).
- (2) Based on (1), our class is to guide students to actually grasp the economic histories and then become to be able to explain to others what is learned in the class.

ECN515C1-1

## 計量経済学 A

明城 聡

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

計量経済学の基礎と標準的な分析手法の習得  
 ※本年度は教室での授業が出来ないため、ビデオ会議形式で授業を行います。

詳しくは学習支援システムのお知らせをご覧ください。

## 【到達目標】

統計学の基礎を復習するとともに計量経済学で用いられる手法の理論を学ぶ。特に古典的回帰モデルの推定方法と検定について学ぶとともに、必要となる仮定が成り立つかどうかを判断できる知識をつける。また仮定が成り立たない場合の対応方法についても学習する。（本講義は計量経済学の理論を学ぶので、実際にデータを使った分析を学ぶには合わせて「マイクロ計量分析」を履修することが望ましい）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

授業は配布資料や教科書を用いた通常の講義形式で行う。また適宜、練習問題や宿題を行うことで講義内容の理解を深める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・ 授業内容の紹介 ・ 成績評価
第 2 回	統計学の復習 (1)	・ 確率の概念
第 3 回	統計学の復習 (2)	・ 確率変数と離散型確率分布
第 4 回	統計学の復習 (3)	・ 期待値オペレータ ・ 結合確率分布
第 5 回	統計学の復習 (4)	・ 連続型確率変数
第 6 回	計量経済学の基礎 (1)	・ 母集団、標本、母数 ・ 標本抽出
第 7 回	計量経済学の基礎 (2)	・ 標本平均の統計的性質 ・ 推定と推定量の性質
第 8 回	計量経済学の基礎 (3)	・ 計量経済学とは ・ 最小二乗法 (1)：データの整理、最小二乗法と回帰直線
第 9 回	計量経済学の基礎 (4)	・ 最小二乗法 (2)：回帰直線の当てはまりの尺度、計算手順のまとめ
第 10 回	計量経済学の基礎 (5)	・ 単純回帰分析 (1)：単純回帰モデル、推定量の期待値と分散、最良線形不偏推定量と一致性
第 11 回	計量経済学の基礎 (6)	・ 単純回帰分析 (2)：推定量の分散の推定、単回帰モデルの仮説検定、変数選択と $t$ 検定
第 12 回	計量経済学の基礎 (7)	・ 重回帰分析 (1)：多重回帰分析、多重回帰分析の推定値の解釈、多重共線性
第 13 回	計量経済学の基礎 (8)	・ 重回帰分析 (2)：自由度調整済み決定係数、変数の過不足とその影響、定数項を持たない回帰モデル、
第 14 回	計量経済学の基礎 (9)	・ モデルの関数形と特殊な変数 ・ $F$ 検定と構造変化の検定 ・ 標準的仮定の意味と不均一分散

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

講義資料を配布する。

## 【参考書】

・ 浅野哲・中村二郎「計量経済学」第 2 版、有斐閣  
 ・ J. H. Stock and M. W. Watson, Introduction to Econometrics, 3rd eds., Pearson

## 【成績評価の方法と基準】

・ 期末試験 (100%)

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 >

実証産業組織論、応用統計学

< 研究テーマ >

企業合併、規制緩和、および政府補助金等の効果についての構造推定と統計的分析手法の開発

< 主要研究業績 >

1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.

2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

## 【Outline and objectives】

Standard basic econometrics is covered in this course. Students are required to master basic statistics and econometric skills and utilize them to well understand the empirical data.

ECN515C1-2

## 計量経済学 B

濱秋 純哉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、マイクロ計量経済学の手法を、理論と応用の両面から解説する。マイクロ計量経済学は、個人・世帯あるいは企業レベルのデータ（個票データ）を分析するために用いられる統計的手法である。個票データを用いる分析では、しばしば被説明変数の定義域に制約がある量的変数（制限従属変数）や離散的な値をとる変数（質的従属変数）が対象となるが、これらの変数に最小二乗法を適用するのは不適切である。この授業では、各変数の性質に応じた手法について、その推定方法や結果の解釈の方法を説明する。

## 【到達目標】

この授業のテーマは、経済変数を用いた実証分析において問題となる説明変数の内生性への対処法の一つである操作変数法、及び質的従属変数や制限従属変数を扱う際に必要となるマイクロ計量経済学の理論とその応用方法を学ぶことである。マイクロ計量経済学の学習を通じて、実証論文を正確に理解する力及び個票データを自力で分析する力を身に付けることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

数式による説明だけでなく、具体例を交えながら、講義形式でマイクロ計量経済学のトピックを解説する。また、授業内容の理解を深めること（及び、計算力の向上とデータ分析のやり方を身に付けること）を狙いとして、数回の宿題を課す。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	マイクロ計量経済学とは何か
第2回	操作変数法 (1)	説明変数の内生性
第3回	操作変数法 (2)	操作変数の満たすべき性質
第4回	最尤法	最尤法の考え方と推定量の性質
第5回	二値選択モデル (1)	LPM/プロビット/ロジット
第6回	二値選択モデル (2)	限界効果とあてはまりの尺度
第7回	多項選択モデル (1)	多項ロジットの対数尤度関数
第8回	多項選択モデル (2)	多項ロジットの限界効果と IIA
第9回	順序選択モデル	順序選択モデルの対数尤度関数
第10回	区間回帰モデル	区間回帰モデルの対数尤度関数
第11回	トービットモデル (1)	トービットモデルの対数尤度関数
第12回	トービットモデル (2)	トービットモデルの限界効果
第13回	標本選択モデル	標本選択の原因、ヘックマンの二段階推定法
第14回	まとめと期末試験	まとめと期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

1. Stock, James H and Mark W. Watson. 2018. "Introduction to Econometrics (4th Edition)," Pearson Education.
2. Winkelmann, Rainer and Stefan Boes. 2009. "Analysis of Microdata," Springer.

## 【参考書】

1. 西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮, 2019年, 『計量経済学』, 有斐閣。
2. Wooldridge, Jeffrey M. 2019. "Introductory Econometrics: A Modern Approach (7th Edition)," Cengage Learning.

3. Hensher, David A., John M. Rose and William H. Greene. 2015. "Applied Choice Analysis (2nd Edition)," Cambridge University Press.
4. Train, Kenneth E. 2009. "Discrete Choice Methods with Simulation (2nd Edition)," Cambridge University Press.
5. 鹿野繁樹, 2015年, 『新しい計量経済学 データで因果関係に迫る』, 日本評論社。
6. 末石直也, 2015年, 『計量経済学 ミクロデータ分析へのいざない』, 日本評論社。
7. 浅野哲・中村二郎, 2009年, 『計量経済学 (第2版)』, 有斐閣。
8. Cameron, A. Colin and Pravin K. Trivedi. 2005. "Microeconometrics: Methods and Applications," Cambridge University Press.

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60%) と 4 回の宿題 (40%) によって評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

データ分析を行う際に統計ソフトを使えば、自分で計算しなくても推定結果が得られる。しかし、推定結果が意味することを正確に解釈したり、自分の問題意識と整合的なデータ分析を行うための最適な方法を検討したりする際には、自分である程度の計算を行わなくてはならない場面もある。このような力を付けるために授業内で計算を行う時間をとったり、宿題を課したりする。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを通じて資料の配布や宿題のアップロードなどを行う。この際に、受講者に通知のメールが届くようにするので、授業支援システムに登録されているメールアドレスを通常使用しているものに更新しておくことを勧める。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

公共経済学・応用計量経済学

<研究テーマ>

家計行動のマイクロ計量分析

<主要研究業績>

- (1) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, and Keiko Murata 2019, "The Intra-family Division of Bequests and Bequest Motives: Empirical Evidence from a Survey on Japanese Households," Journal of Population Economics, Vol. 32, No. 1, pp. 309 - 346.
- (2) 上野綾子・濱秋純哉, 2017年, 「2009年度介護報酬改定が介護従事者の賃金、労働時間、離職率に与えた影響」, 『医療経済研究』, Vol.29, No.1, 33 - 57頁。
- (3) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Keiko Murata, 2014, "Intergenerational transfers and asset inequality in Japan: Empirical evidence from new survey data," Asian Economic Journal, Vol.28(1), pp.41-62.
- (4) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Saeko Maeda, Keiko Murata, 2013, "How does the first job matter for an individual's career life in Japan," Journal of the Japanese and International Economies, Vol.29, pp.154-169.
- (5) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Saeko Maeda, Keiko Murata, 2012, "Changes in the Japanese employment system in the two lost decades," Industrial and Labor Relations Review, Vol. 65, No. 4, pp.810-846.

## 【Outline and objectives】

This course explains microeconomic methods from both a theoretical and practical perspective. Microeconometrics is a statistical approach used to analyze individual- and household-level as well as firm-level (micro)data. Analyses using microdata often focus on limited dependent variables (that is, quantitative variables whose range of possible values is restricted) or on qualitative dependent variables (variables that take discrete values), for which the use of ordinary least squares (OLS) techniques is inappropriate. This course presents the appropriate estimation techniques for these different types of variables and explains how the estimation results are interpreted.

ECN511C1-1

## 社会経済学 A

佐藤 良一

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

資本主義という経済システムを分析するための基本的方法・必要な基礎概念を検討する。

### 【到達目標】

専門誌に掲載された論文を批判的に読み解く力を身につける。  
自らが設定したテーマで short paper を執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの 開講となる。それにとりまう各回の授業 計画の変更については、学習支援システムでその 度提示する。本授業の 開始日は4月25日 とし、具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
第1回	社会経済学の課題	新古典派経済学との対比において社会経済学の課題を明確にする
第2回	社会経済学の理論的源泉	社会経済学の理論的源泉が何に/誰に求められるかを検討する
第3回	人々の選好と社会	人々の選好がどのように形成されるかを検討する
第4回	生産と剰余	剰余が存在するための条件は何かを軸に生産をめぐる基礎概念を検討する
第5回	社会の再生産	社会が再生産されるために満たされねばならない条件を検討する
第6回	経済システムとしての資本主義	資本主義というシステムの特徴は何かを〈再考〉する
第7回	市場の働き	市場のもつ〈潜勢力〉は何かを検討する
第8回	資本主義的生産と利潤	利潤が存在する条件は何かを検討する
第9回	賃金と労働	賃金率がどのように決定されるかを検討する
第10回	技術と統制	資本主義的企業における技術選択の問題を検討する
第11回	総需要と雇用	ラディカル派マクロモデルを検討する
第12回	マクロ政策のジレンマ	完全雇用と実質賃金率上昇を同時に実現する可能性を検討する
第13回	資本主義の今後	資本主義に〈代わる〉経済システムの可能性を検討する
第14回	テーマ報告と議論	受講生のテーマ報告をめぐって議論する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に定めない。適宜 Handout を配布する。

### 【参考書】

1. Bowles. S., R.Edwards, F. Roosevelt and M. Larudee (2018), Understanding Capitalism: Competition, Command, and Change,4th ed.. Oxford University Press

2. 中谷武・佐藤良一他『資本主義がわかる経済学』大月書店、2019年  
3. 植村博恭・磯谷明徳・海老塚明『新版社会経済システムの制度分析』名古屋大学出版会、2007年

上記以外については講義の中で適宜指定する

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加についての積極性、貢献度 20%  
期末レポート (Term paper) 12,000 字 80%

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生との意見交換を軸に授業を展開する。一方向の講義に終始するのではなく、受講生が自由に発言する機会を確保する。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

理論経済学

<研究テーマ>

ラディカル派経済学の理論的展開過程

<主要研究業績>

(編著)『市場経済の神話とその変革』法政大学出版局

(共著)『資本主義がわかる経済学』大月書店

(共訳)ボウルズ『不平等と再分配の新しい経済学』大月書店

### 【Outline and objectives】

Political Economy is a body of knowledge to understand capitalist system. This course the topics as follows: values in political economy, the labor value, the surplus product, the origin of profit, the instability of equilibrium growth, and so on.

ECN511C1-2

## 社会経済学 B

原 伸子

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会経済学 B の目的は、マルクス経済学における経済学批判の方法にもとづいて現代資本主義を理論的に分析することです。今年度はデヴィッド・ハーヴェイ『資本の< 謎>』（原題：The Enigma of Capital and the Crises of Capitalism, 2010）を教材に用いて、グローバル資本主義における資本循環と経済危機について学びます。

## 【到達目標】

1. 社会経済学の歴史・理論・政策を体系的に学ぶ。
2. 経済学批判の方法を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

1. 受講者は与えられた課題に対してレジュメを作成しプレゼンすること。
2. 与えられたテーマに関して、質疑応答を行うこと。
3. それぞれが期末にレポートを作成すること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の目的・課題・対象・方法の説明
第 2 回	1 金融恐慌の原因	2018 年リーマン・ショックの原因
第 3 回	2 恐慌の帰結	2018 年リーマン・ショックの波及
第 4 回	3 資本主義的生産関係	本源的蓄積と資本蓄積
第 5 回	4 資本主義的生産メカニズム	労働力商品と失業
第 6 回	5 資本主義的生産と物質代謝	自然の利用とその限界
第 7 回	6 資本主義と市場問題	生産と消費の矛盾
第 8 回	7 産業循環の理論	恐慌論
第 9 回	8 資本主義的生産の領域	資本主義共進化の活動領域
第 10 回	9 資本主義の動態	資本主義の断続的發展
第 11 回	10 資本主義と地理学	資本主義の地理的環境
第 12 回	11 資本主義と空間的分析	資本主義の空間的分析
第 13 回	12 地理的不平等発展の政治経済学	資本主義における時空間編成の矛盾
第 14 回	13 おわりに—オルタナティブ	地理的不平等発展の政治経済学

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

デヴィッド・ハーヴェイ著、森田誠也訳『資本の< 謎>』作品社、2012 年。  
（授業時に適宜、関連文献を指示します）

## 【参考書】

カール・マルクス著『資本論』（大月書店、岩波書店、新日本新書など）  
デヴィッド・ハーベイ著、森田誠也他約『< 資本論> 入門』作品社  
デヴィッド・ハーベイ著、渡辺治監訳『新自由主義』作品社、2007 年。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点：授業への積極的貢献度 50 %
- ・期末レポート 50 %

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケートはとっていないが、対話型の授業を目指していくつもりです。

## 【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > 社会経済学、経済学史、ジェンダー経済論  
< 研究テーマ > 福祉国家とジェンダーの理論的分析  
< 主要研究業績 >

- ・原伸子『ジェンダーの政治経済学』（有斐閣、2016 年）
- ・法政大学大原社会問題研究所/原伸子編著『福祉国家と家族』（法政大学出版社、2012 年）
- ・共著『現代経済と経済学（新版）』（有斐閣、2007 年）
- ・共訳、ダンカン・フォーリー著『資本論を理解する』（法政大学出版社、1990 年）

## 【Outline and objectives】

The aim of the lecture is to examine the relationship between the Marxian political economy and the global- neoliberal capitalism from the theoretical and methodological point of view. By reading the David Harvey's The Enigma of Capitalism and the Crises of Capitalism, the lecture focuses on finding the cause and background of global financial crisis in 2008-9 and making clear what is the boundary of capitalism.

ECN514C1-1

## マクロ経済学 A

森田 裕史

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学院レベルのマクロ経済モデルであみくろ経済学的基础付けを持つ動学的一般均衡モデルを学ぶ。

## 【到達目標】

動学マクロ経済モデルを用いた研究論文の内容を理解し、自ら経済モデルを設定し、位相図を用いた動学分析を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

板書、スライドを用いた講義形式。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 春学期前半

回	テーマ	内容
第 1 回	ソロー経済成長モデル①	動学マクロ経済モデルの構造について
第 2 回	ソロー経済成長モデル②	ソローモデルの基本方程式の導出、与件の変化と定常状態の変化
第 3 回	ラムゼーモデル①	家計の最適化問題とオイラー方程式の導出
第 4 回	ラムゼーモデル②	位相図と鞍点経路
第 5 回	ラムゼーモデル③	技術ショックと経済の動学について
第 6 回	動的計画法①	Policy function の導出： Value function iteration
第 7 回	動的計画法②	Policy function の導出： Guess and Verify
第 8 回	世代重複モデル①	世代重複モデルの構造
第 9 回	世代重複モデル②	動学的非効率性と賦課方式の年金制度
第 10 回	実物的景気循環モデル①	労働供給を内生化した動学モデル
第 11 回	実物的景気循環モデル②	実物的景気循環モデルの位相図と与件の変化について
第 12 回	サーチモデル①	マッチング関数とサーチモデルの構造
第 13 回	サーチモデル②	サーチモデルの位相図と与件の変化について
第 14 回	期末試験	期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

## 【参考書】

- [1] 二神孝一、『動学マクロ経済学 成長理論の発展』、日本評論社、2012 年。  
 [2] 齋藤誠、『新しいマクロ経済学—クラシカルとケインジアン—の邂逅』、有斐閣、2006 年。  
 [3] McCandless, G., "The ABCs of RBC: An Introduction to Dynamic Macroeconomic Models", Harvard University Press, 2008.  
 [4] 今井亮一・工藤教考・佐々木勝・清水崇、『サーチ理論—分権的取引の経済学』、東京大学出版、2007 年。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）に基づいて評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

課題の解答例を試験までに公表することで、受講者が試験対策を行いやすいように配慮する。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

基本的な数学の知識を身につけていることを前提にして講義を行います。また、受講者は大学院レベルのマクロ経済学の授業であることを事前に理解して履修すること。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>マクロ経済学、時系列分析

<研究テーマ>時系列モデルを用いた金融財政政策の効果についての実証分析

<主要研究業績>"Regime Switches in Japan's Fiscal Policy: Markov-Switching VAR Approach," (joint work with Jun-Hyung Ko) forthcoming in The Manchester School.

## 【Outline and objectives】

In this course, the students study the dynamic (stochastic) general equilibrium model with micro-economic foundation, such as Solow, Ramey, OLG, RBC and Search models.

ECN514C1-2

## マクロ経済学B

宮崎 憲治

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ的基礎付けのものと確率が含まれるマクロ経済モデルについて講義する。

## 【到達目標】

この講義を受講すれば、最近のマクロモデルについて論文を理解することができ、自分で確率が含まれるマクロ経済モデルを構築することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

レクチャーノートにしたがって講義する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	時系列分析	時系列データの確率的性質について講義する
第 2 回	制約条件付き最適化	制約条件付き最適化について講義する
第 3 回	資本財なし完全競争市場モデル	資本財なし完全競争市場モデルについて講義する
第 4 回	資本財なし独占競争市場モデル	資本財なし独占競争市場モデルについて講義する
第 5 回	資本財あり完全競争市場モデル 1	資本財あり完全競争市場モデルについて均衡条件の導出まで講義する。
第 6 回	資本財あり完全競争市場モデル 2	資本財あり完全競争市場モデルについて対数線形近似の導出まで講義する。
第 7 回	Dynare の使い方	Dynare の使い方について講義する。
第 8 回	価格硬直性あり資本財なし独占競争モデル 1	価格硬直性あり資本財なし独占競争モデルについて均衡条件の導出まで講義する。
第 9 回	価格硬直性あり資本財なし独占競争モデル 2	価格硬直性あり資本財なし独占競争モデルについて対数線形近似の導出まで講義する。
第 10 回	価格硬直性あり資本財あり独占競争モデル 1	価格硬直性あり資本財あり独占競争モデルについて均衡条件の導出まで講義する。
第 11 回	価格硬直性あり資本財あり独占競争モデル 2	価格硬直性あり資本財あり独占競争モデルについて対数線形近似の導出まで講義する。
第 12 回	投資の調整費用モデル	投資の調整費用モデルについて講義する。
第 13 回	消費の習慣形成モデル	消費の習慣形成について講義する。
第 14 回	まとめ	講義全体をまとめる

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定しない。

## 【参考書】

George McCandless (2008), *The ABCs of RBCs: An Introduction to Dynamic Macroeconomic Models*, Harvard University Press.

Jordi Galí (2015), *Monetary Policy, Inflation, and the Business Cycle: An Introduction to the New Keynesian Framework and Its Applications*, Princeton Univ Press.

Carl E. Walsh (2010), *Monetary Theory and Policy*, MIT Press.

Jianjun Miao (2014), *Economic Dynamics in Discrete Time*, MIT Press.

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・期末試験 (60%)

## 【学生の意見等からの気づき】

とくになし

## 【学生が準備すべき機器他】

Dynare について講義する際にはノートパソコン持参することが望ましい。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マクロ経済学・計量経済学

<研究テーマ>

マクロ経済学・計量経済学

<主要研究業績>

Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), *Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan*, *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol. 25 (2), pp. 81-106. (査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003)

## 【Outline and objectives】

When you take this course, you can explain several macroeconomic models with microeconomic foundations.

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義では、ゲーム理論の中でも、特に重要である完備情報の静学・動学両ゲームを学習する。完備情報の静学ゲームでは、標準型ゲームによる経済問題の定式化と、支配戦略、被支配戦略の逐次消去法、ナッシュ均衡を学ぶ。これらの応用として、寡占市場等の分析を行う。動学ゲームでは、展開型ゲームによる経済問題の定式化と、サブゲーム完全均衡を学習する。これらの応用として、関税と国際競争等の分析を扱う。最後に、完備情報ゲームの理論を発展させ、情報不完備ゲーム分析を定式化し、寡占市場分析に応用する。

**【到達目標】**

ゲーム理論の基本概念である標準型ゲームと展開型ゲームを理解すること。Gibbons (1992) の該当箇所を徹底的に理解し、練習問題を解くことができること。公共経済学や産業組織論等、応用ミクロ経済学分野の研究論文を読むことができること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

Gibbons (1992) に沿って、完備情報の静学・動学ゲームを中心に講義する。講義で使用するスライドは、学習支援システムにアップロードする。

新型コロナウイルス (COVID-19) 感染拡大への対処のため、教室での講義が禁止されている間は、オンライン教材を用いて講義を行う。教材の視聴に関する指示や補助資料の配布は、すべて学習支援システムを通して行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
1	「ゲーム理論」とは何か	ミクロ経済分析におけるゲーム理論の役割について
2	静学ゲーム (1)	標準型ゲームとは、支配戦略と被支配戦略の逐次消去法
3	静学ゲーム (2)	最適反応とナッシュ均衡、ナッシュ均衡とパレート効率性
4	クールノー寡占市場の分析 (1)	被支配戦略の逐次消去法による分析
5	クールノー寡占市場の分析 (2)	ナッシュ均衡による分析
6	その他の応用問題	ベルトラン寡占市場、共有地の悲劇
7	混合戦略とナッシュ均衡	混合戦略とは、ナッシュ均衡の存在定理
8	完全情報の動学ゲーム	動学ゲームとは、逆向き推論とその応用
9	完全情報の動学ゲームの応用問題	シュタッケルベルグ寡占、企業と労働組合の交渉
10	不完全情報の動学ゲーム	サブゲーム完全性と逆向き推論
11	不完全情報の動学ゲームの応用問題	銀行の取り付け問題、関税と不完全国際競争
12	動学ゲームの一般的な定式化	展開型ゲームとは、サブゲーム完全均衡
13	不完備情報ゲーム理論	静学ベイジアンゲームとベイジアンナッシュ均衡

**14 不完備情報ゲーム理論 非対称情報下のクールノー寡占市場の応用****【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

基本的な微分・積分、確率計算の知識を身につけていない者は、自主学習して欲しい。また、学部レベルのミクロ経済学の知識を前提として講義をするので、各自、復習するなり、他の講義で補うなどして講義に参加して欲しい。講義の時間は限られているので、問題演習を講義中に行うことは、ほぼ無い。自主学習として、参考書などで、問題演習を行うこと。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を目安とするが、講義内容をより深く理解するためには、より多くの時間を費やすことが望ましいことは言うまでもない。

**【テキスト（教科書）】**

Robert Gibbons (1992) *Game Theory for Applied Economists*, Princeton University Press.

教科書購入の必要性については、初回の講義で話しをする。

**【参考書】**

・ロバート・ギボンズ (1995) 『経済学のためのゲーム理論入門』(福岡正夫、須田伸一翻訳) 創文社【教科書の翻訳本】

・岡田章 (2014) 『ゲーム理論・入門 新版—人間社会の理解のために』有斐閣【教科書よりも難易度低い】

・岡田章、加茂知幸、三上和彦、宮川敏治 (2015) 『ゲーム理論ワークブック』有斐閣【練習問題集】

・神取道宏 (2014) 『ミクロ経済学の力』日本評論社【後半のゲーム理論の部分】

・神取道宏 (2018) 『ミクロ経済学の技』日本評論社【後半のゲーム理論の部分】

**【成績評価の方法と基準】**

学期末試験 (100 %) により成績評価を行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

本講義は、大学院のゲーム理論の講義としては、難易度は高くありませんので、授業時間外に、十分に時間を使い自主学習をして、講義についていく努力をしてください。講義の内容を理解するには、自主学習が必要不可欠であることを理解してください。

**【担当教員の専門分野等】**

<https://researchmap.jp/read0131683/> を参照のこと。

**【Outline and objectives】**

This course deals with Game theory at an intermediate level. The contents are mainly the theory of static and dynamic game under complete information and its applications. As an extension of this subject, the students learn the static game under incomplete information.

ECN513C1-2

## ミクロ経済学B

佐柄 信純

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般均衡分析による経済の描写は様々な問題に応用可能であるだけでなく、市場メカニズムの功罪を考える際にも有用な参照基準を提供します。本講義では、消費者行動、企業行動、市場均衡の特質に内容を厳選した上で  $l$  財  $m$  消費者  $n$  企業の一般均衡分析として、伝統的な価格理論を体系的に講義します。

## 【到達目標】

一般均衡理論の視点から伝統的な価格理論の基本的な道具を習得し、市場経済の様々な現象に対する各自の問題意識に応じて、自分でモデルを組み、理論分析を行えるようになることを最終目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

教科書は使用せず、講義ノートにもとづき授業を進めます。必要に応じて、問題演習を行います。初等的な微積分、線形代数にある程度習熟していることを前提にします。これらの予備知識が不足している受講者は、事前に必要な数学を独習した上で受講して下さい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	消費者の理論 (1)	財空間、消費集合、選好
第 2 回	消費者の理論 (2)	選好と効用関数
第 3 回	消費者の理論 (3)	効用最大化と需要の決定
第 4 回	消費者の理論 (4)	需要関数の性質
第 5 回	生産者の理論 (1)	生産集合
第 6 回	生産者の理論 (2)	生産関数と等量曲線
第 7 回	生産者の理論 (3)	利潤最大化と供給の決定
第 8 回	生産者の理論 (4)	要素需要と費用関数
第 9 回	市場メカニズムと経済厚生 (1)	純粋交換経済
第 10 回	市場メカニズムと経済厚生 (2)	競争均衡とパレート効率性
第 11 回	市場メカニズムと経済厚生 (3)	パレート効率的配分の解法
第 12 回	市場メカニズムと経済厚生 (4)	資源配分の衡平性
第 13 回	不確実性と市場 (1)	状態依存財、完備市場
第 14 回	不確実性と市場 (2)	証券の役割、不完備市場

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。

## 【参考書】

- [1] T. Ichiishi, *Microeconomic Theory*, Wiley-Blackwell, Hoboken, 1997.
- [2] D.G. Luenberger, *Microeconomic Theory*, McGraw-Hill, New York, 1995.
- [3] A. Mas-Coell, M.D. Whinston, and J.R. Green, *Microeconomic Theory*, Oxford Univ. Press, Oxford, 1995.
- [4] H.R. Varian, *Microeconomic Analysis*, 3rd edn., W.W. Norton, New York, 1992.
- [5] 浦井憲・吉野昭彦『ミクロ経済学』（ミネルヴァ書房、2012年）

- [6] 奥野正寛・鈴木興太郎『ミクロ経済学 I・II』（岩波書店、I：1985年、II：1988年）
- [7] 武隈愼一『ミクロ経済学（新版）』（新世社、2016年）
- [8] 西村和雄『ミクロ経済学』（東洋経済新報社、1990年）
- [9] 山崎昭『ミクロ経済学』（知泉書館、2006年）

## 【成績評価の方法と基準】

受講者は講義の最後に演習問題を解き、毎回それを提出することで平常点が与えられます。最終講義に試験を行います。平常点（20%）、試験（80%）の総合評価。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します。

## 【担当教員の専門分野】

<専門領域>

函数解析学、最適制御理論

<研究テーマ>

一般均衡理論、協力ゲーム理論、最適成長理論、数理マルクス経済学

<主要研究業績>

- [1] "Subdifferentials of value functions in nonconvex dynamic programming for nonstationary stochastic processes, joint with Boris S. Mordukhovich, *Communications on Stochastic Analysis* **13** (2019), 1–19.
- [2] "Subdifferentials of nonconvex integral functionals in Banach spaces with applications to stochastic dynamic programming", joint with Boris S. Mordukhovich, *Journal of Convex Analysis* **25** (2018), 643–673.
- [3] "Relaxation and purification for nonconvex variational problems in dual Banach spaces: The minimization principle in saturated measure spaces", *SIAM Journal on Control and Optimization* **55** (2017), 3154–3170.

## 【Outline and objectives】

In this course basic topics of microeconomics are lectured. Theory of consumers and producers, market equilibria and economic welfare are the main theme.

ECN522C1-1

## 応用マクロ経済学 A

森田 裕史

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、マクロ経済の計量分析で用いられる時系列モデル、及び、それを推計する手法としてのベイズ推定について学習する。ベイズ推定の基本的な方法に加えて、(1)VAR モデル、(2) 状態空間モデル、(3) マルコフ転換モデル、平滑推移モデルの時系列モデルを取り上げる。

## 【到達目標】

ベイズ推定の方法、及び、各種の時系列モデルを理解するとともに、実際のデータに推計手法を応用し、自ら分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

板書を用いた講義を行うとともに、適宜、Matlab を用いた実習を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 春学期前半

回	テーマ	内容
第 1 回	ベイズ推計 (1)	確率論の復習
第 2 回	ベイズ推計 (2)	事後分布の計算方法
第 3 回	線形回帰モデルのベイズ推計 (1)	事前共役であるケースの事後分布
第 4 回	線形回帰モデルのベイズ推計 (2)	事前共役でないケールの事後分布
第 5 回	線形回帰モデルのベイズ推計 (3)	Matlab を用いた線形回帰モデルのベイズ推定
第 6 回	VAR モデル (1)	VAR モデルとは
第 7 回	VAR モデル (2)	構造 VAR モデル
第 8 回	VAR モデル (3)	Matlab を用いた VAR モデルのベイズ推定
第 9 回	状態空間モデル (1)	カルマンフィルタとカルマンスマーザー
第 10 回	状態空間モデル (2)	Matlab を用いた状態空間モデルのベイズ推定
第 11 回	マルコフ転換モデル (1)	マルコフ転換モデルの構造
第 12 回	マルコフ転換モデル (2)	Matlab を用いたマルコフ転換モデルのベイズ推定
第 13 回	平滑推移モデル (1)	平滑推移モデルの構造
第 14 回	平滑推移モデル (2)	Matlab を用いた平滑推移モデルのベイズ推定

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

## 【参考書】

Kim, C-J., Nelson, C.R. (1999). State-Space Models with Regime Switching. The MIT Press.

## 【成績評価の方法と基準】

授業で取り上げた手法を用いて自ら分析を行った結果をまとめたタームペーパーに基づいて成績を評価する。(100 %)

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

Matlab を PC にインストールしておいて下さい。

## 【その他の重要事項】

この授業では、ベイズ推計を用いた実証分析の手法を講義します。ベイズ推計についての事前知識は不要ですが、統計学や計量経済学の知識を理解した上で授業を履修して下さい。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>マクロ経済学・時系列分析

<研究テーマ> 日本の金融財政政策の効果に関する分析

<主要研究業績> Morita, H., "The Effects of Anticipated Fiscal Policy Shock on Macroeconomic Dynamics in Japan," The Japanese Economic Review Vol.68 No.3 September, pp.364-393, 2017.

## 【Outline and objectives】

In this course, the students learn about the estimation method of the time-series model using Bayesian analysis, which are widely employed in the macro-econometric analysis. In addition to a basic Bayesian estimation method, the topics introduced in this lecture are the VAR model, state-space model, Markov switching model and smooth transition model.

ECN522C1-2

## 応用マクロ経済学B

連見 亮

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、経済政策の現場では、「新しいケインジアンのマクロ経済モデル」を念頭に置いて議論する方向にあります。この授業では、トピックを絞った上で最適化理論（家計の効用最大化、企業の利潤最大化）に基づくマクロ経済学の考え方を学んでいきます。

数式を使った解説がメインになりますが、それぞれの変数の持つ意味がイメージできれば、図のみに頼るよりもかえって理解がはかどるはずです（全くの数式アレルギーの人には薦められませんが）。網羅的な説明は目標としないので、極力やさしく丁寧に解説します。理解を深めるために、必要に応じてコンピュータによる数値計算などの結果も示します。

例えば学生が経済政策の立案者となったとき、適切な提言をするための知識を習得すること、あるいは将来企業の企画立案者や経営者となったとき、企業経営に関する重要な意思決定する際の判断の基礎とすべき基本的な概念と考え方を習得することを目的とします。

## 【到達目標】

マクロ経済学の基礎的な概念の理解に基づき、応用的なモデルを用いた政策分析を行えるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義形式を主とします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
1.	イントロダクション	マクロ経済モデルの基本的な考え方
2.	ソローモデル（1）	経済成長、生産関数、資本ストックの蓄積、消費と投資のトレードオフ
3.	数学の準備	指数関数・対数関数、偏微分、テイラー展開
4.	ソローモデル（2）	定常状態の計算、成長会計
5.	ラムゼイモデル（1）	効用関数
6.	ラムゼイモデル（2）	ラグランジュの未定乗数法、オイラー方程式の導出
7.	ラムゼイモデル（3）	定常状態への経路の計算
8.	税制モデル	税制の変更シミュレーション
9.	RBC モデル（1）	技術ショック、労働供給の内生化
10.	RBC モデル（2）	技術ショックに対するインパルス応答、景気循環
11.	ニューケインジアン・モデル（1）	独占的競争モデル
12.	ニューケインジアン・モデル（2）	ニューケインジアン・フィリップス曲線、IS 曲線
13.	ニューケインジアン・モデル（3）	解の存在条件、最適金融政策
14.	まとめと復習	講義を振り返り、最適化理論に基づくマクロ経済学の体系を確認します。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中にも解説しますが、高校数学程度の指数関数・対数関数、微分・積分、数列を復習しておいてください。また、余力があれば、極限、自然対数、 $e$ （ネイピア数）を予習しておいてください。

週3時間程度の準備学習・復習が単位認定の目安となります。

## 【テキスト（教科書）】

連見 亮 (著) 『動学マクロ経済学へのいざない』、日本評論社、2020 年 必要に応じて授業支援システム経由で講義ノートを配布します。

## 【参考書】

特になし（授業中に指示します）。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点40%、割り当てた練習問題の解答のプレゼンテーション60%の配点で成績評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につき該当なし。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マクロ経済学、計量経済学（ベイズ統計学）

<研究テーマ>

マクロ経済モデルによるシミュレーション分析

<主要研究業績>

Ono, Arito, Ryo Hasumi, and Hideaki Hirata, “Differentiated use of small business credit scoring by relationship lenders and transactional lenders: Evidence from firm-bank matched data in Japan”, *Journal of Banking & Finance* 42, 371-380, 2014.

Hasumi, Ryo and Hideaki Hirata, “Small Business Credit Scoring and Its Pitfalls: Evidence from Japan”, *Journal of Small Business Management* 52, 555-568, 2014.

Hasumi, Ryo, Hirokuni Iiboshi, and Daisuke Nakamura, “Trends, Cycles and Lost Decades – Decomposition from a DSGE Model with Endogenous Growth”, *Japan & The World Economy* 46, 9-28, 2018.

Hasumi, Ryo, Hirokuni Iiboshi, Tatsuyoshi Matsumae, and Daisuke Nakamura. “Does a Financial Accelerator Improve Forecasts during Financial Crises?: Evidence From Japan with Prediction-pool Methods”, *Journal of Asian Economics*, 60, 45-68, 2019.

## 【Outline and objectives】

In recent years, macroeconomic policy has often been discussed in line with New Keynesian macroeconomic models. In this class, we will learn a macroeconomic theory based on optimization, which includes utility maximization of households and profit maximization of firms.

ECN521C1-1

## 応用ミクロ経済学 A

池上 宗信

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用ミクロ経済学の各分野で頻出する、リスクと不完全情報を学びます。リスク、アドバース・セレクション、スクリーニングの応用例として保険、シグナリングの応用例として就学、モラル・ハザードの応用例として、経営者と信用の借り手を取り上げます。

## 【到達目標】

学生各自の応用ミクロ経済学の分野に関連する経済問題をリスクと不完全情報の理論、手法を応用しながら考察、議論できるようになることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。教員による講義が中心になりますが、授業中に学生に演習問題を解いてもらいます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	リスク 1	期待値、期待効用、リスクプレミアム、確実性同値額
第2回	リスクと保険 1	状態空間分析、保険需要、保険会社の期待利潤
第3回	リスクと保険 2	独占的な保険会社、完全競争保険市場
第4回	アドバース・セレクション 1	完全情報のケース、不完全情報のケース、保険の例
第5回	スクリーニング	保険の例
第6回	アドバース・セレクション 2	信用市場の例
第7回	中間試験	前回までの内容を復習。試験。
第8回	シグナリング 1	就学・労働市場の例、分離均衡
第9回	シグナリング 2	就学・労働市場の例、一括均衡
第10回	モラル・ハザード 1	株主と経営者の例
第11回	モラル・ハザード 2	信用市場の例
第12回	モラル・ハザード 3	効用関数の逆関数
第13回	モラル・ハザード 4	モラル・ハザードのコスト
第14回	期末試験	前回までの内容を復習。試験。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは指定しませんが、予習として読んできてもらう20ページほどの文章を事前に指定します。

## 【参考書】

神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社  
 神戸伸輔（2004）『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社  
 Laffont, J.-J., and Martimort, D. (2002) *The Theory of Incentives: The Principal-Agent Model*. Princeton University Press.

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

中間試験 40%、期末試験 40%、平常点 20% で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

本講義を担当するのは2019年度に続き2回目です。2019年度の学生からは講義の方法などについて特に意見はありませんでした。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

開発ミクロ経済学

<研究テーマ>

家計の異時点間の意思決定と貧困動学、東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険

<主要研究業績>

① “Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” *American Journal of Agricultural Economics*, Volume 101, Issue 3, pp. 672-691. 2019.

② “Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. *The Economics of Poverty Traps*, chapter 6. pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

③ “Experimental Evidence on the Drivers of Index-Based Livestock Insurance Demand in Southern Ethiopia.” *World Development*, Vol. 78, pp.324-340. 2016.

## 【Outline and objectives】

We will study risk and incomplete information, which appear frequently in each field of Applied Microeconomics. We will study insurance as application of risk, adverse selection, and signaling, schooling as application of signaling, manager and credit as applications of moral hazard. Our target is that each of us will become able to study each own's research topic in Applied Microeconomics by applying theory of risk and incomplete information.

ECN521C1-2

## 応用ミクロ経済学B

佐柄 信純

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学Bで扱えなかった応用分野の問題を題材を厳選して講義します。顕示選好理論、労働市場、異時点間の意思決定、不確実性下の意思決定、協力ゲームの理論などを扱います。

## 【到達目標】

ミクロ経済学でモデル化されていない経済現象や応用問題を明確に意識し、どのように理論を拡充する必要があるかを、自分の頭で考え、研究を進められるようになることを最終目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

教科書は使用せず、講義ノートにもとづき授業を進めます。必要に応じて、問題演習を行います。初等的な微積分、線形代数にある程度習熟していることを前提にします。これらの予備知識が不足している受講者は、事前に必要な数学を独習した上で受講して下さい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	顕示選好理論(1)	顕示選好の弱公準
第2回	顕示選好理論(2)	顕示選好と価格指数
第3回	労働市場の分析(1)	効用最大化と労働需要
第4回	労働市場の分析(2)	利潤最大化と労働供給
第5回	労働市場の分析(3)	賃金の決定と非自発的失業
第6回	異時点間の意思決定(1)	2期間モデル
第7回	異時点間の意思決定(2)	世代重複と景気循環
第8回	異時点間の意思決定(3)	公債発行と財政政策
第9回	不確実性下の意思決定(1)	期待効用と危険に対する態度
第10回	不確実性下の意思決定(2)	資産選択、保険、モラル・ハザード
第11回	不確実性下の意思決定(3)	情報の非対称性と逆選択
第12回	不確実性下の意思決定(4)	教育とシグナリング
第13回	協力ゲーム(1)	譲渡可能効用ゲーム、譲渡不可能効用ゲーム
第14回	協力ゲーム(2)	市場ゲームのコア

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。

## 【参考書】

開講時にリーディング・リストを提示する。

## 【成績評価の方法と基準】

受講者は講義の最後に演習問題を解き、毎回それを提出することで平常点が与えられます。最終講義に試験を行います。平常点(20%)、試験(80%)の総合評価。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します。

## 【担当教員の専門分野】

<専門領域>

函数解析学、最適制御理論

<研究テーマ>

一般均衡理論、協力ゲーム理論、最適成長理論、数理マルクス経済学

<主要研究業績>

[1] "Decomposability, convexity and continuous linear operators in  $L^1(E)$ : The case for saturated measure spaces", *Linear and Nonlinear Analysis* **5** (2019), 113–119.

[2] "Recursive variational problems in nonreflexive Banach spaces with an infinite horizon: An existence result", *Discrete and Continuous Dynamical Systems - Series S* **11** (2018), 1219–1232.

[3] "Fatou's lemma, Galerkin approximations and the existence of Walrasian equilibria in infinite dimensions", joint with M. Ali Khan, *Pure and Applied Functional Analysis* **2** (2017), 317–355.

## 【Outline and objectives】

In this course several topics of applied microeconomics are lectured. Revealed preferences, utility maximization and labor supply, intertemporal decisions, decisions under uncertainty, cooperative games are the main theme.

ECN534C1-1

## 経済学史 A

平瀬 友樹

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、経済理論の歴史について解説を行うものである。なお、経済史ではなく、経済学＝理論分析の歴史を扱う科目であることに注意すること。

## 【到達目標】

現代の経済学は、新古典派を中心とする主流派とポストケインジアンやマルクス経済学といった非主流派とに分かれて、それぞれの研究を行っている。学生は、本科目を履修することによって、これらの主流派と非主流派の対立軸にのみ目を奪われるという狭い思考に陥ることなく、それぞれの研究成果を十分に活用していきける広い視野もつことができるはずである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義は、①主流派だけではなく非主流派についても詳細な解説を行う、②対象の学説と最新の理論との関連性についても明らかにする、という2つの観点から構成されている。これは、その歴史が新しい（異質な）思考の「積み重ね」というよりも、いくつかの思考の「繰り返し」として表現されうるためである。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 秋学期後半

回	テーマ	内容
第1回	学説史研究の意義	大学での研究および社会教育における本講義の意義
第2回	アダム・スミスおよびそれ以前の経済理論について	重商主義と重農主義について
第3回	リカードの経済理論について	差額地代論、比較生産費説を中心に
第4回	ミルとマルクスの経済理論	リカード経済学の展開
第5回	新古典派経済学の成立と限界革命について	現代的な価値論の確立・科学革命とは何か
第6回	新古典派経済学に対する挑戦	独占的競争市場の分析を中心に
第7回	ケインズ革命以前のマクロ経済思想	オーストリア学派について
第8回	ケインズ革命の普及	ヒックスによる IS - LM 分析・その功績と功罪について
第9回	ケインズ革命にみる理論と実際	消費関数および投資関数をめぐる論争、理論と現実の捉え方
第10回	ケインズ自身の経済理論と後継者たちとの差異について	名目賃金の硬直性をめぐる論争
第11回	新古典派総合の終焉	自然失業率仮説とスタグフレーション
第12回	新しいマクロ経済学の誕生 ルーカス批判とは何か	新自由主義との関連について
第13回	現代の経済学について	ルーカス批判を超えて・RBCを中心に
第14回	総復習	授業内試験およびその解説・この講義で学んだことをどう活かすか

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。また、本科目は経済史ではなく、経済学＝理論の歴史である。そのため、現代経済学関連科目をすでに履修済みか、あるいはミクロ経済学・マクロ経済学について大学院レベルの予備知識があることを前提とした講義を行う。

## 【テキスト（教科書）】

追って指示する。

## 【参考書】

井上義朗『コア・テキスト 経済学史』新世社

その他にも必要に応じてその都度指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

学期末試験(60%)および平常点(40%)によって評価する。ただし、受講者数に応じて、記述試験をレポートや研究発表に代えることがある。

## 【学生の意見等からの気づき】

開講初年度につき該当しない。

## 【その他の重要事項】

周りの迷惑になるので私語は厳禁とします。

## 【Outline and objectives】

This course introduces the history of economic thought to students taking this course. In addition, the aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand economic theory, especially micro economics and Marxian economics.

ECN532C1-1

## ジェンダー経済論 A

原 伸子・山本 真鳥・板井 広明

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の主題は、ジェンダーの概念を経済学に適用したときに、どれだけ新しい分析視点を切り開くことができるのかを示し、それを既存の経済学の再検討につなげることである。そのためにジェンダー概念の基礎的検討も行う。ジェンダー概念は本来、学際的性格をもっている。経済学専攻のみならず、他専攻からの履修をおおいに歓迎する。

## 【到達目標】

受講者は本講義において、まずはじめにフェミニズム思想とジェンダー概念の形成史を学んだ後に、日本のジェンダー開発に関する国際的評価と男女共同参画、経済人類学、そして経済理論におけるジェンダー問題を学ぶ。そのことによって、広いパースペクティブを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

ジェンダー経済論 A・B は秋学期集中で行われ、3 人の教員によるオムニバス形式をとっている。パワーポイントやビデオを用いながら授業を行う。受講者は A と B の両方を連続して受講することがぞましい。なお、授業理解度を高めるために、受講生には毎回リアクション・ペーパーを提出してもらう予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

## 秋学期前半

回	テーマ	内容
1 回	ジェンダー概念について (1) (担当：板井)	20 世紀中葉にジェンダー概念が生まれた歴史的経緯やセクシュアリティ概念などの相違について、概説する。
2 回	ジェンダー概念について (2) (担当：板井)	20 世紀中葉にジェンダー概念が生まれた歴史的経緯やセクシュアリティ概念などの相違について、概説する。
3 回	ジェンダーと歴史 (1) (担当：板井)	ジェンダー概念の前史としての 18 世紀末以降の英仏のフェミニズムの歴史について概説する。
4 回	ジェンダーと歴史 (2) (担当：板井)	ジェンダー概念の前史としての 18 世紀末以降の英仏のフェミニズムの歴史について概説する。
5 回	ジェンダーと社会 (1) (担当：板井)	ジェンダーに関連する文化、表象、メディアの諸問題を取り上げる。
6 回	ジェンダーと社会 (2) (担当：板井)	ジェンダーに関連する文化、表象、メディアの諸問題を取り上げる。
7 回	ジェンダーと資本主義 (1) (担当：板井)	フェデリーチ『キャリバンと魔女』の資本主義成立期における女性の排除、スミス『国富論』などに見られるジェンダー概念の欠如について、フェミニスト経済学の観点から経済学史を振り返る。
8 回	ジェンダーと資本主義 (2) (担当：板井)	フェデリーチ『キャリバンと魔女』の資本主義成立期における女性の排除、スミス『国富論』などに見られるジェンダー概念の欠如について、フェミニスト経済学の観点から経済学史を振り返る。
9 回	日本のジェンダー開発に関する国際的評価 (担当：山本)	ジェンダー開発指数と CEDAW
10 回	ジェンダーと学術 (担当：山本)	日本学術会議の男女共同参画調査から
11 回	経済人類学と女性の仕事 (1) (担当：山本)	経済人類学の考え方とジェンダー役割分担
12 回	経済人類学と女性の仕事 (2) (担当：山本)	女性の仕事の特殊性・普遍性
13 回	ジェンダーの越境	トランスジェンダーという存在
14 回	女性と近代化 (担当：山本)	女性の割礼・性器切除とフェミニズム、サティ（寡婦自殺）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

とくに指定しない。必要な文献は授業で適宜指示する。

## 【参考書】

・山本真鳥編著『性と文化』法政大学出版社、2004 年。  
・板井広明編『金融化、雇用、ジェンダー不平等：国際シンポジウム』お茶の水女子大学ジェンダー研究所、2017 年。  
・原伸子著『ジェンダーの政治経済学－福祉国家・市場・家族』有斐閣、2016 年。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 25 %、討論への参加 25 %、期末レポート 50 %。

## 【学生の意見等からの気づき】

前回のアンケートでは受講生からとくに意見はありませんでしたが、積極的な参加型の授業にしていきたいと思っています。

## 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、ビデオ使用

## 【担当教員（原）の専門分野等】

＜専門領域＞経済理論、経済学説史  
＜研究テーマ＞福祉国家と家族の政治経済学  
＜主要業績＞原伸子『ジェンダーの政治経済学』有斐閣、2016 年。

## 【担当教員（板井）の専門分野等】

＜専門領域＞経済学、経済学説・経済思想、社会思想史  
＜研究テーマ＞18 世紀末ブリテンにおける女性論の諸相：功利主義的フェミニズムの可能性  
＜主要業績＞

「古典的功利主義における多数と少数」『功利主義の逆襲』ナカニシヤ出版、2017 年。

編著『金融化、雇用、ジェンダー不平等：国際シンポジウム』お茶の水女子大学ジェンダー研究所、2017 年。

Itai Hiroaki, Inoue Akira, Kodama Satoshi, "Rethinking Nudge: Libertarian Paternalism and Classical Utilitarianism", *The Tocqueville Review* 37(1) 81-98, Jul 2016.

## 【担当教員（山本）の専門分野等】

＜専門領域＞文化人類学  
＜研究テーマ＞ジェンダーと交換理論  
＜主要業績＞編著『性と文化』法政大学出版社、2004 年、「サモア社会における女性の仕事の復興」原伸子編『市場とジェンダー』法政大学出版社、2005 年、「グローバル化する互酬性」弘文堂、2018 年。

## 【Outline and objectives】

The focus is on the application of the gender perspective on economic analyses, which is rather new in the tradition of economics as a discipline and is expected to provide a new development in this field. In order to realize the ambitious endeavor, it is important to achieve the basic gender concepts. Gender studies is interdisciplinary in itself and we welcome students in other departments.

ECN532C1-2

## ジェンダー経済論B

原 伸子・山本 真鳥・板井 広明

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の主題は、ジェンダーの概念を経済学に適用したとき、どれだけ新しい分析視点を切り開くことができるのかを示し、それを既存の経済学の再検討につなげることである。そのためにジェンダー概念の基礎的検討も行う。ジェンダーは本来、学際的性格をもっている。経済学専攻のみならず、他専攻からの履修をおおいに歓迎する。

## 【到達目標】

受講者は本講義において、まずはじめにフェミニズム思想とジェンダー概念の形成史を学んだ後に、日本のジェンダー開発に関する国際的評価と男女共同参画、経済人類学、そして経済理論におけるジェンダー問題を学ぶ。そのことによって、広いパースペクティブを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

ジェンダー経済論A・Bは秋学期集中で行われ、3人の教員のオムニバス形式をとっている。パワーポイントやビデオなども利用しながら講義を行う。受講者はAとBの両方を連続して受講することが望ましい。なお、授業の理解度を高めるために、受講生には毎回アクション・ペーパーを提出してもらう予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期後半

回	テーマ	内容
1回	女性とセックスワーク	セックスワークとフェミニズム、人権
2回	開発とジェンダー・理論 (担当：山本)	開発のジェンダーへの取組の歴史と理論
3回	開発とジェンダー・ケース・スタディ(1) (担当：山本)	マイクロクレジット
4回	開発とジェンダー・ケース・スタディ(2) (担当：山本)	女子労働と所得創出プログラム
5回	経済理論とジェンダー(1) (担当：原)	経済理論とジェンダー (授業全体の見取り図)
6回	経済理論とジェンダー(2) (担当：原)	市場と家族①「新家庭経済学」と家族
7回	経済理論とジェンダー(3) (担当：原)	市場と家族②新制度学派と家族
8回	経済理論とジェンダー(4) (担当：原)	市場と家族③フェミニスト経済学とケア
9回	経済理論とジェンダー(5) (担当：原)	市場と家族④フェミニスト経済学と家族
10回	経済理論とジェンダー(6) (担当：原)	社会的再生産とケア①シチズンシップとケア
11回	経済理論とジェンダー(7) (担当：原)	社会的再生産とケア②労働のフレキシビリティとケア
12回	経済理論とジェンダー(8) (担当：原)	社会的再生産とケア③ケアレジーム論
13回	経済理論とジェンダー(9) (担当：原)	ワーク・ライフ・バランス①福祉国家と変容と家族
14回	経済理論とジェンダー(10) (担当：原)	ワーク・ライフ・バランス②日本における雇用政策と少子化対策

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

とくに指定しない。必要な文献は授業で適宜指示する。

## 【参考書】

・山本真鳥編著『性と文化』法政大学出版局、2004年。  
・板井広明編『金融化、雇用、ジェンダー不平等：国際シンポジウム』お茶の水女子大学ジェンダー研究所、2017年。  
・原伸子著『ジェンダーの政治経済学－福祉国家・市場・家族』有斐閣、2016年。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点25%、討論への参加25%、期末レポート50%。

## 【学生の意見等からの気づき】

前回のアンケートでは受講生からとくに意見はありませんでしたが、積極的な参加型の授業にしていきたいと思っています。

## 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、ビデオ使用

## 【担当教員（原）の専門分野等】

＜専門領域＞経済理論、経済学説史  
＜研究テーマ＞福祉国家と家族の政治経済学  
＜主要業績＞原伸子『ジェンダーの政治経済学』有斐閣、2016年。

## 【担当教員（板井）の専門分野等】

＜専門領域＞経済学、経済学説・経済思想、社会思想史  
＜研究テーマ＞18世紀末ブリテンにおける女性論の諸相：功利主義的フェミニズムの可能性  
＜主要業績＞

「古典的功利主義における多数と少数」『功利主義の逆襲』ナカニシヤ出版、2017年。

編著『金融化、雇用、ジェンダー不平等：国際シンポジウム』お茶の水女子大学ジェンダー研究所、2017年。

Itai Hiroaki, Inoue Akira, Kodama Satoshi, "Rethinking Nudge: Libertarian Paternalism and Classical Utilitarianism", *The Tocqueville Review* 37(1) 81-98, Jul 2016.

## 【担当教員（山本）の専門分野等】

＜専門領域＞文化人類学  
＜研究テーマ＞ジェンダーと交換理論  
＜主要業績＞編著『性と文化』法政大学出版局、2004年、「サモア社会における女性の仕事の復興」原伸子編『市場とジェンダー』法政大学出版局、2005年、『グローバル化する互酬性』弘文堂、2018年

## 【Outline and objectives】

The focus is on the application of the gender perspective on economic analyses, which is rather new in the tradition of economics as a discipline and is expected to provide a new development in this field. In order to realize the ambitious endeavor, it is important to achieve the basic gender concepts. Gender studies is interdisciplinary in itself and we welcome students in other departments.

ECN565C1-1

## 地域経済論 I A

河村 哲二

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦後世界経済の中心を占めてきたアメリカ経済について、資本主義経済の発展の歴史と現状の位相を解明する「段階論」の理論と方法の視点から、バックス・ブリタニカ段階と並ぶバックス・アメリカナ段階の中心部分を解明し、その変質局面としてグローバル経済の現状と変容の主な特質をとらえるをめざす。

## 【到達目標】

アメリカ経済の長期的な発展構造の変遷とその特質を学び、1970年代を境にした戦後バックス・アメリカナ全盛期の構造からの大きな再編と転換がアメリカおよび世界にもつ意味を、長期・歴史的な視点から理解することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義スライドを用い、講義形式で進める。適宜指示する関連文献とあわせて、毎回の講義内容のまとめのレポート（A4版1頁程度）を作成し、定期的な小レポートにまとめて提出する。随時、受講生の質疑と議論のセッションを設けて、議論と講義内容の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期前半

回	テーマ	内容
第1回	序論 資本主義の現状と発展の歴史過程をとらえる方法 (1) 資本主義の歴史的展開の概要と中間理論・歴史理論	資本主義の歴史的展開過程の概要：純粋理論の限界と段階論の意義。 宇野弘蔵「三段階論」の純粋理論・歴史理論の方法。
第2回	(2) 原理論・段階論の方法と制度形成の理論	「資本のロジック」と制度形成の理論。資本主義の歴史過程・現実分析の理論と方法。
第3回	I バックス・ブリタニカ段階のもとのアメリカ資本主義の発展 <概観>	近代資本主義の生成とバックス・ブリタニカ段階の概観。
第4回	第1章 バックス・ブリタニカ段階とその概要	イギリスを中心とする近代新主義の世界体制の形成と確立（概要）
第5回	(1) バックス・ブリタニカのもとのアメリカ資本主義の登場、	植民地期～南北戦争期：アメリカ資本主義の登場と発展（その1）。
第6回	(2) アメリカの初期の経済発展	植民地期～南北戦争期：アメリカ資本主義の登場と発展（その1）。
第7回	第2章 バックス・ブリタニカ・システムの変質とアメリカ資本主義の発展 (1) 南北戦争後の工業発展・農業発展	バックス・ブリタニカ・システムの変質のもとのアメリカ資本主義の発展。南北戦争後の工業発展と農業発展の特徴（その1）
第8回	(2) ビッグビジネスの登場と主要農産物地帯の形成	南北戦争後の工業発展と農業発展の特徴（その2）
第9回	II バックス・アメリカナ段階への過渡期 (1) 第1章 第一次大戦と戦間期資本主義	バックス・ブリタニカ段階からバックス・アメリカナ段階への移行の概要。第一次大戦と資本主義世界編成の変質。
第10回	(2) 1920年代のアメリカ経済発展の特徴とその限界	1920年代のアメリカの「耐久消費財ブーム」の特徴とその限界・各部しきぶりの発展と崩壊。
第11回	第2章 世界大恐慌とそのインパクト (1) アメリカ発の世界大恐慌	世界大恐慌の発生とアメリカ経済への影響・世界的インパクトと資本主義世界編成の解体。
第12回	(2) 「大恐慌」と1930年代「ニューディール」	世界大恐慌の影響とそのもとの「ニューディール」政策の展開とその限界
第13回	第3章 第二次大戦の戦時経済	第二次大戦期アメリカの戦時経済システムの特徴と実態
第14回	小括 戦後バックス・アメリカナへの展望	戦時経済の戦後再転換と戦後バックス・アメリカナ・システムの形成。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外学習時間は以下について、毎回4時間以上：

(1) 毎回の講義スライドと関連文献の予習を行う。

(2) 毎回の講義内容を、講義スライド、ノート、関連文献を用いて復習し、質問事項を含めて、小レポートにまとめて定期的に提出する。

## 【テキスト（教科書）】

講義全体を通して使用するテキストは指定しないが、山口他編『経済学Ⅱ』（有斐閣、1980年）、河村哲二『バックス・アメリカナの形成』（東洋経済新報社、1995年）、同『現代アメリカ経済』（有斐閣、2003年）、その他関連文献の必要箇所を適宜指示して使用する。

## 【参考書】

SGCIME編・河村哲二他著『グローバル資本主義の変容と中心部経済』（日本経済評論社、2015年）、同『現代経済の解読第3版』（御茶の水書房、2017年）、『グローバル資本主義と段階論』（御茶の水書房、2016年）など。その他、適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の最終レポートを中心に評価する（70%）。これに毎回の講義トピックスに関する小レポート（定期的に提出）（20%）、毎回の講義の議論への参加の程度（10%）を加味して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムのアップロードされる講義資料を事前にプリントアウトし、予習・講義中・復習に使用すること。

## 【その他の重要事項】

社会経済学 A、経済史および地域経済論 IB を合わせて履修することが望ましい。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>アメリカ経済論、グローバル経済論、理論経済学

<研究テーマ>バックス・アメリカナの転換とグローバル資本主義の諸相の解明

<主要研究業績>『グローバル資本主義と段階論』（共著、御茶の水書房、2016年）『持続的将来の探求』（共編著、御茶の水書房、2014年）、『「3.11」からの再生』（共編著、御茶の水書房、2013年）、『Hybrid Factories in the United States under the Global Economy, Oxford University Press, 2011』、『アメリカ経済入門』（共著、幻冬舎、2009年）、『グローバル経済下のアメリカ日系工場』（編著、東洋経済新報社、2005年）、『現代アメリカ経済』（単著、有斐閣、2003年）、『制度と組織の経済学』（編著、日本評論社、1996）、『バックス・アメリカナの形成』（単著、東洋経済新報社 1995年）など。その他著書・論文多数。

## 【Outline and objectives】

This lecture elucidates the specific futures of the U.S. post-war economy that lead the world economy, from a long-term perspective of its historical development. Through the whole lecture of A and B, it aims at deepening the understanding of the contemporary states and problems of the U.S. economy in the 2000s. It discusses the important topics of the current issues of the U.S. economy, including the global financial and economic crisis in the late 2000s and the "Trump phenomenon".

ECN565C1-2

## 地域経済論 I B

河村 哲二

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地域経済論」I Aに引き続き、資本主義経済の発展の歴史と現状の位相を解明する「段階論」の視点から、戦後世界経済の中心を占めてきたアメリカ経済について、ボックス・ブリタニカ段階と並ぶボックス・アメリカナ段階の中心部分を解明し、その変質局面としてアメリカのグローバル資本主義化とグローバル経済の現状と変容の主要な特質をとらえる。

## 【到達目標】

アメリカおよび世界経済の現状をボックス・アメリカナ段階の変質局面としてとらえ、主に次の3点を中心に解明することを目指す。

1. 1970年代を画期とするアメリカ経済の戦後ボックス・アメリカナ・システムの転換と再編という視点から、アメリカ経済のグローバル資本主義化と「グローバル成長連関」への成長構造のシフトの特徴と問題点について学ぶ。
2. 2000年代末に発生したアメリカ発のグローバル金融危機・経済危機の原因とプロセスおよびその特徴について理解を深める。
3. グローバル金融危機・経済危機の影響のもとで、「トランプ現象」の意味を含めて、アメリカ経済の回復過程の現状と問題点を理解し、日本経済および世界経済の行方を展望する視点を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義スライドを用い、講義形式で進める。適宜指示する関連文献とあわせて、毎回の講義内容のまとめのレポート（A4一枚程度）を作成し、定期的に、小レポートにまとめて提出する。随時、受講生の質疑と議論のセッションを設けて、議論と講義内容の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期後半

回	テーマ	内容
第1・2回	序論-1 アメリカ経済の現状とグローバル金融危機・経済危機をとらえる視点	2000年代末のアメリカ発のグローバル金融危機・経済危機の意義を解明する基本視点とは何か？
第3・4回	序論-2 アメリカ経済のグローバル化の意義	戦後ボックス・アメリカナ・システムの衰退とアメリカ経済のグローバル資本主義化の意義。
第5・6回	第1章「グローバル成長連関」の出現 (1) 企業・金融・情報のグローバル化と新自由主義	アメリカ経済のグローバル資本主義化の主要経路とそのダイナミズム。
第7・8回	(2) グローバル・シティと新帝国循環-「グローバル成長連関」の出現	「グローバル成長連関」の出現：グローバル・シティの発展とアメリカを焦点とする国際的資金循環構造の出現。
第9・10回	第2章 グローバル成長連関とアメリカ経済 (1)1990年代の長期好況と「ニューエコノミー」・「ITブーム」	1990年代の長期好況の特徴と問題点。グローバル成長連関と新興経済。
第11・12回	(2)1990年代長期好況の限界と「住宅ブーム」 (3) アメリカ発のグローバル金融危機・経済危機とそのインパクト	1990年代長期好況の終焉と2000年代「住宅ブーム」の発展。シャドウバンキングシステムの発展とその問題点。 *サブプライム危機からグローバル金融危機への発展
第13・14回	第3章 グローバル金融危機の「第一幕」・「第二幕」 (1) 緊急経済対策 (2) ユーロゾーン危機 まとめと展望	グローバル金融危機の「第一幕」と「第二幕」のインパクトと対策。 アメリカ経済の回復過程の特徴と今後の展望。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外学習時間は以下について、毎回4時間以上：

- (1) 毎回の講義スライドと関連文献の予習を行う。
- (2) 毎回の講義内容を、講義スライド、ノート、関連文献を用いて復習し、質問事項を含めて、小レポート（A4版1頁程度）にまとめて定期的に提出する。

## 【テキスト（教科書）】

河村哲二『現代アメリカ経済』（有斐閣、2003年）。その他、同『現代経済の解説』（御茶の水書房、2013年）などの必要箇所を適宜指示して使用する。

## 【参考書】

SGCIME 編・河村哲二他著『グローバル資本主義の変容と中心部経済』（日本経済評論社、2015年）、河村哲二著『現代経済の解説第3版』（御茶の水書房、2017年）、『グローバル資本主義と段階論』（御茶の水書房、2016年）、河村哲二編著『グローバル金融危機の衝撃と新興経済の変貌』（ナカニシヤ出版、2018年）など。その他、適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の最終レポートを中心に評価する（70%）。これに毎回の講義トピックスに関する小レポート（毎回提出）（20%）、毎回の講義での議論への参加の程度（10%）を加味して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムのアップロードされる講義資料を事前にプリントアウトし、予習・講義中・復習に使用すること。

## 【その他の重要事項】

「地域経済論 IA」を履修していることが望ましい。社会経済学 B、経済史をあわせて履修することが望ましい。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>アメリカ経済論、グローバル経済論、理論経済学。

<研究テーマ>ボックスアメリカナ転換とグローバル資本主義の諸相の解明

<主要研究業績>『グローバル資本主義と段階論』（共著、御茶の水書房、2016年）、『グローバル資本主義の現局面』I、II（共著、日本経済評論社、2015年）、『持続的将来の探求』（共編著、御茶の水書房、2014年）、『「3.11」からの再生』（共編著、御茶の水書房、2013年）、*Hybrid Factories in the United States under the Global Economy*（編著、Oxford University Press, 2011）、『アメリカ経済入門』（共著、幻冬舎、2009年）、『グローバル経済下のアメリカ日系工場』（編著、東洋経済新報社、2005年）、『現代アメリカ経済』（単著、有斐閣、2003年）、『制度と組織の経済学』（編著、日本評論社、1996）、『第2次大戦アメリカ戦時経済の研究』（御茶の水書房、1997年）、『ボックス・アメリカナ形成』（単著、東洋経済新報社 1995年）など。その他著書・論文多数。

## 【Outline and objectives】

Following the discussions in the lecture of the U.S. Economy A, this lecture aims at elucidating specific features and the problems of the U.S. economy after the 1980s, from a perspective of the decline and transfiguration of the postwar Pax Americana system and its transformation into the "Global Capitalism", including the U.S.-centered global financial and economic crisis and the "Trump Phenomenon", thereby giving a prospect of the future of the Pax Americana system.

ECN523C1-1

## 統計学 A

伊藤 伸介

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計学の基本的な知識を習得した上で、統計データ分析の基礎を学習する。

## 【到達目標】

記述統計学と推測統計学の基礎知識を習得することによって、実証分析を行う上で必要な基本的な統計的手法を身につける。それによって、社会経済に関する実証研究を進める上で求められる統計学に関する方法的な考え方を養うことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行うが、必要に応じて統計解析用ソフトウェアを用いた演習を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	記述統計学と推測統計学
第 2 回	度数分布と代表値の計測	度数分布とヒストグラム、中心を表す代表値（平均、中位数、最頻値等）と散らばりを表す代表値（分散、標準偏差等）
第 3 回	クロス集計表と相関係数	クロス集計表の見方と相関係数の計測
第 4 回	確率変数と確率分布	離散型確率変数と連続型確率変数、正規分布と二項分布
第 5 回	母集団と標本分布	標準正規分布と t 分布、標本誤差と標準誤差
第 6 回	いろいろな確率分布	カイ 2 乗分布と F 分布
第 7 回	統計的推定 (1)	母平均における信頼区間の推定
第 8 回	統計的推定 (2)	母比率と母分散における信頼区間の推定
第 9 回	統計的仮説検定 (1)	正規分布と t 分布を用いた仮説検定
第 10 回	統計的仮説検定 (2)	カテゴリカルデータとカイ 2 乗検定
第 11 回	統計的仮説検定 (3)	分散分析と F 検定、順位データとマン・ホイットニーの U 検定
第 12 回	回帰モデルと最小 2 乗法	回帰モデルにおける回帰係数の推定
第 13 回	単回帰モデルにおける結果の評価	回帰係数の有意性の検証
第 14 回	重回帰モデルにおける分析上の注意点	偏回帰係数の解釈とモデルの適合度検定

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

栗原伸一『入門統計学』オーム社、2011 年  
配布資料も用いながら講義を行う。

## 【参考書】

森田優三・久次智雄『新統計概論 改訂版』日本評論社、1993 年  
田中勝人『統計学』新世社、1998 年  
宮川公男『基本統計学（第 3 版）』有斐閣、1999 年

## 【成績評価の方法と基準】

レポート (50%) に加え、授業中の参加の度合、課題 (50 %) を考慮し、総合的に判断する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコンを用意すること。

## 【その他の重要事項】

統計学 B も合わせて受講すること。

## 【担当教員の専門分野等】

&lt;専門領域&gt;

経済統計学

&lt;研究テーマ&gt;

政府統計マイクロデータを用いた実証的な社会経済研究

&lt;主要研究業績&gt;

伊藤伸介「公的統計マイクロデータの利活用における匿名化措置のあり方について」『日本統計学会誌』第 47 巻第 2 号、2018 年、77～101 頁

Ito, S., Yoshitake, T., Kikuchi, R., Akutsu, F. “Comparative Study of the Effectiveness of Perturbative Methods for Creating Official Microdata in Japan”, Josep Domingo-Ferrer and Francisco Montes (eds.) Privacy in Statistical Databases: UNESCO Chair in Data Privacy, International Conference, PSD 2018, Valencia, Spain, September 26 – 28, 2018, Proceedings (Lecture Notes in Computer Science), July, 2018, Springer, pp.200-214,

Shinsuke Ito, Naomi Hoshino, Fumika Akutsu “Potential of Disclosure Limitation Methods for Census Microdata in Japan”, Paper presented at Privacy in Statistical Databases 2016, Dubrovnik, Croatia, 14th September, 2016, pp.1-14

伊藤伸介「諸外国における政府統計マイクロデータの提供の現状とわが国の課題」、『中央大学経済研究所年報』第 48 号、233～249 頁、2016 年

伊藤伸介・出島敬久「企業業績が個別労働者の賃金に与える効果に関するマイクロデータ分析—企活と賃金センサスのデータリンケージをもとにして—」、『経済学論纂（中央大学）』第 56 巻第 1・2 合併号、13～37 頁、2015 年

## 【Outline and objectives】

The aim of this class is to provide a foundational knowledge of statistics and statistical data analysis.

ECN523C1-2

## 統計学 B

伊藤 伸介

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主として推測統計学に焦点を当て、統計的手法の応用を学習するだけでなく、実証分析における分析能力の向上を目指す。

## 【到達目標】

社会経済に関する統計データや調査個票データを用いて計量分析を行う上で必要な統計的手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行うが、必要に応じて統計解析用ソフトウェアを用いた演習を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	実証分析の考え方
第2回	信頼区間の推定	不偏推定量と標本誤差、大標本と小標本における信頼区間の推定
第3回	2つのグループ間の検定	母平均と母比率における差の検定、分散比
第4回	標本抽出と乗率の処理	線型乗率と比推定乗率の取り扱い
第5回	単回帰分析におけるパラメータの推定と検定	OLSと回帰係数の有意性検定
第6回	重回帰分析における結果の解釈	回帰係数の評価とF値を用いたモデルの適合度検定
第7回	重回帰分析の応用(1)	ダミー変数、交差項を用いた回帰
第8回	重回帰分析の応用(2)	対数変換、2乗項を用いた回帰
第9回	質的従属変数における回帰(1)	プロビットモデルと最尤法
第10回	質的従属変数における回帰(2)	ロジットモデルによる回帰と限界効果の計測
第11回	回帰分析における注意点(1)	回帰分析における変数選択
第12回	回帰分析における注意点(2)	回帰分析における外れ値や欠損値の取り扱い
第13回	多変量解析の考え方(1)	主成分分析と因子分析
第14回	多変量解析の考え方(2)	クラスター分析と判別分析

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

配布資料を用いながら講義を行う。

## 【参考書】

森田優三・久次智雄『新統計概論 改訂版』日本評論社、1993年  
 田中勝人『統計学』新世社、1998年  
 宮川公男『基本統計学（第3版）』有斐閣、1999年  
 栗原伸一著『入門統計学』オーム社、2011年

## 【成績評価の方法と基準】

レポート(50%)に加え、授業中の参加の度合、課題(50%)を考慮し、総合的に判断する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコンを用意すること。

## 【その他の重要事項】

統計学 A も合わせて受講すること。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

経済統計学

<研究テーマ>

政府統計マイクロデータを用いた実証的な社会経済研究

<主要研究業績>

伊藤伸介「公的統計マイクロデータの利活用における匿名化措置のあり方について」『日本統計学会誌』第47巻第2号、2018年、77～101頁、

Ito, S., Yoshitake, T., Kikuchi, R., Akutsu, F. “Comparative Study of the Effectiveness of Perturbative Methods for Creating Official Microdata in Japan”, Josep Domingo-Ferrer and Francisco Montes (eds.) Privacy in Statistical Databases: UNESCO Chair in Data Privacy, International Conference, PSD 2018, Valencia, Spain, September 26 – 28, 2018, Proceedings (Lecture Notes in Computer Science), July, 2018, Springer, pp.200-214

Shinsuke Ito, Naomi Hoshino, Fumika Akutsu “Potential of Disclosure Limitation Methods for Census Microdata in Japan”, Paper presented at Privacy in Statistical Databases 2016, Dubrovnik, Croatia, 14th September, 2016, pp.1-14

伊藤伸介「諸外国における政府統計マイクロデータの提供の現状とわが国の課題」、『中央大学経済研究所年報』第48号、233～249頁、2016年

伊藤伸介・出島敬久「企業業績が個別労働者の賃金に与える効果に関するマイクロデータ分析—企活と賃金センサスのデータリンケージをもとにして—」、『経済学論纂（中央大学）』第56巻第1・2合併号、13～37頁、2015年

## 【Outline and objectives】

The aim of this class is the study of inferential statistics, with a focus on the practical application of statistical methods in order to advance students' skills in empirical analysis.

ECN531C1-1

## 日本経済論 A

小崎 敏男

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が経済理論と実証分析を通して、日本経済が理解できることを目標とする。特に、この授業は人口減少（少子化・高齢化）と日本経済の関係を理解し、自分で政府が行う政策等を評価できることを目的とする。

## 【到達目標】

学生が新聞等のマスメディア等で流される情報を、標準的水準の経済理論や実証分析を通して理解出来ることを到達目的としている。その目標到達を達成する手段として、人口減少（少子・高齢化）を中心として日本経済を考察する。「人口減少と日本経済」を考える際、どのような経済理論や実証分析が有効なのか？ また、どこまでが経済理論・実証分析で理解出来、限界なのかを理解することを目標とする。

専門の論文を読み理解出来ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

学生の履修者数により、授業形態をフレキシブルに変えていく。履修人数が少ない場合は、演習形式で毎回発表と討論を行う。人数が20人以上の場合は講義形式で授業を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、この授業の概略等
第2回	わが国の少子・高齢化と日本経済への影響	わが国の少子化の現状と将来予測。それに伴う日本経済への影響(1)
第3回	わが国少子・高齢化と日本経済への影響(2)	わが国の高齢化の現状と将来予測。それに伴う日本経済への影響
第4回	少子化の原因と対策(1)	少子化の理論的考察
第5回	少子化の原因と対策(2)	少子化の対策
第6回	高齢化の原因と対策	高齢化の原因の考察とその対策
第7回	人口減少と外国人労働問題(1)	外国人労働者の受け入れによる国内への影響を理論的に考察
第8回	人口減少と外国人労働問題(2)	外国人受け入れに関する諸外国の実証分析。特に賃金・雇用・失業を中心
第9回	人口減少と外国人受け入れ問題	移民・外国人受け入れに関する諸外国の事例研究
第10回	人口減少と地方創生	人口減少と地方活性化政策：都道府県別分析
第11回	労働力不足の労働市場	人口減少と労働力不足の関係
第12回	労働力不足と日本的雇用慣行	労働力不足が日本的雇用慣行をどのように変化させたか？
第13回	労働力不足と技術革新(1)	技術進歩の関する理論的考察
第14回	労働力不足と技術革新(2)	現在の技術革新と賃金・雇用との関係

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回の授業に関する事項の予習と下調べ。

毎回のテーマに関する予習・復習を各100分行ってください。

## 【テキスト（教科書）】

小崎敏男『労働力不足の経済学』日本評論社。

## 【参考書】

小崎敏男・牧野文夫編（2012）『少子化と若者の就業行動』原書房。

小崎敏男・永瀬伸子編（2014）『人口高齢化と労働政策』原書房。

## 【成績評価の方法と基準】

授業中に出す課題レポート 50 %。

学期末試験 50 %。

## 【学生の意見等からの気づき】

なるべく、分かり易い授業を心掛ける。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>労働経済学

<研究テーマ>人口減少と労働政策

<主要研究業績>

小崎敏男・牧野文夫編（2012）『少子化と若者の就業行動』原書房。

小崎敏男・永瀬伸子編（2014）『人口高齢化と労働政策』原書房。

## 【Outline and objectives】

The goal is for students to understand the Japanese economy through economic theory and empirical analysis. In particular, this class aims to understand the relationship between the declining population (declining birthrate and aging population) and the Japanese economy, and to be able to evaluate the government's policies and the like on its own.

ECN531C1-2

## 日本経済論 B

牧野 文夫

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日中戦争期から現在に至る日本の経済発展を振り返る。

### 【到達目標】

マクロ経済、政府の役割、所得と資産の分配、労働、金融、農業、鉱工業、商業・サービスの各部門における制度変化を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

毎週、テキストの論文を受講生に割り当て、それを要約・コメントしてもらい、それにもとづいて議論を進める。受講予定者は必ず事前にテキストを入手しておくこと。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	成長の概観 1	高度成長期までのマクロ経済（テキスト、第5巻序章第1節）
第2回	政府の役割 1	高度成長期までの政府の役割（テキスト、第5巻序章第2節）
第3回	所得と資産の分配 1	高度成長期までの所得と資産の分配（テキスト、第5巻序章第3節）
第4回	労働と人口 1	高度成長期までの労働と人口（テキスト、第5巻第1章）
第5回	金融 1	高度成長期までの労働と人口（テキスト、第5巻第2章）
第6回	農業 1	高度成長期までの農業（テキスト、第5巻第3章）
第7回	鉱工業・サービス産業 1	高度成長期までの鉱工業・サービス産業（テキスト、第5巻第4-5章）
第8回	成長の概観 2	安定成長期以後のマクロ経済（テキスト、第6巻序章第1節）
第9回	政府の役割 2	安定成長期以後の政府の役割（テキスト、第6巻序章第2節）
第10回	所得と資産の分配 2	安定成長期以後の所得と資産の分配（テキスト、第6巻序章第3節）
第11回	労働と人口 2	安定成長期以後の労働と人口（テキスト、第6巻第1章）
第12回	金融 2	安定成長期以後の金融（テキスト、第6巻第2章）
第13回	農業 2	安定成長期以後の農業（テキスト、第6巻第3章）
第14回	鉱工業・サービス産業 2	安定成長期以後の鉱工業・サービス産業（テキスト、第6巻第4-5章）

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定論文を読む。そこで主張されている諸点の現状を自分で最近のデータで確認してみる。授業外の学習時間として4時間確保すること。

### 【テキスト（教科書）】

深尾・中村・中林（編）『講座 日本経済の歴史』（第5,6巻）岩波書店、2017-18年。

### 【参考書】

『経済白書』『経済財政白書』

### 【成績評価の方法と基準】

報告内容 50%、ディスカッションへの参加度 50%。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講に際しては、事前に日本経済に関する基礎知識を習得していることを必要とする。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 日本経済、経済発展論

<研究テーマ> 近代日本の経済発展と所得分配。日本と中国の比較経済発展。

<主要研究業績>

『講座 日本経済の歴史』（3-6巻）岩波書店、2017-18年（分担執筆）。

『中国経済入門』第4版、日本評論社、2016年（共編著）。

『中国（アジア長期経済統計 第3巻）』東洋経済新報社、2014年（共編著）。

### 【Outline and objectives】

Understanding economic development of Japan after World War II.

ECN533C1-2

## 法と経済学 B

菅 富美枝

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期開講科目である「法と経済学 A」に引き続き、市場の活性化、契約リスクの制御、契約当事者間に存在する交渉力の格差の濫用抑止（つけこみ抑止）にかなった法制度とはどのようなものか。イギリス契約法から、その基本的発想を学ぶ。さらに、消費者の権利向上に向けた EU 法の動きについても学ぶ。

## 【到達目標】

「契約の自由」という概念を体現したイギリス契約法を学ぶことによって、市場の安定性と活性化のために必要な法とはどのようなものかについて、知ることができる。その上で、日本の契約法との比較（相違点）に意識を向けることができる。以て、グローバルな取引の発展と個々人の豊かな消費生活の実現のために、どのような法が今後の日本社会に必要なかを考えることができる。博士後期課程の学生については、具体的に、日本法の改正案について、最終回で発表してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

英語文献を用いるが、授業は日本語で進められる（希望があれば、英語も交える）。EU 消費者法をめぐる最新の議論については、補助教材を配布する。この他、グループディスカッション、受講生による個別プレゼンテーションも予定している。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	イギリス契約法の基本原理
第 2 回	契約法の役割	市場の円滑化と artificial な信頼の創設
第 3 回	市場における取引リスクと契約法	・ 錯誤があった場合の法的対応 ・ 状況に変化があった場合の法的対応
第 4 回	市場における取引上の良心の取り扱い 1	・ 禁反言の原則 ・ 金銭債務の執行に関連して ・ 違約罰条項の是非
第 5 回	市場における取引上の「良心」の取り扱い 2	契約の取消根拠の分析①～イギリス契約法
第 6 回	市場における取引上の「良心」の取り扱い 3	契約の取消根拠の分析②～日本の契約法
第 7 回	市場における取引上の「公正」	消費者の権利と EU 法の影響
第 8 回	契約の自由の限界	契約することが許されないもの
第 9 回	ディスカッション 1	日本の市場において公正性、適切性が疑われる広告、勧誘方法について
第 10 回	プレゼンテーション 1	受講生選択課題
第 11 回	ディスカッション 2	日本の市場において公正性、適切性が疑われる約款内容について
第 12 回	プレゼンテーション 2	受講生選択課題
第 13 回	ディスカッション 3	高齢者が参加できる市場の形成のために必要な法政策とは
第 14 回	総復習	これからの日本の市場のあり方、企業のあり方について

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、指定教科書や事前配布資料を予習した上で、授業に臨むこと（なお、指定教科書については、日本語翻訳も出版されている）。また、ディスカッションやプレゼンテーションの準備に備えること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Nicholas J McBride, Key Ideas in Contract Law (Hart Publishing 2017)

## 【参考書】

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門』（日本経済新聞社）

菅富美枝訳『イギリス契約法』（成文堂）

## 【成績評価の方法と基準】

博士前期課程の学生については、担当回の準備の精度（70%）と、授業内での議論参加度（貢献度）（30%）によって、判定する。博士後期課程の学生については、担当回の準備の精度（70%）と、最終回における改正案についての発表の完成度（30%）によって、判定する。

## 【学生の意見等からの気づき】

前年度同様、黒板の有効な使い方を意識する。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 法学

<研究テーマ> 契約法、イギリス法

<主要研究業績>

新消費者法研究——脆弱な消費者を包摂する法制度と執行体制（成文堂、2018 年）

## 【Outline and objectives】

This course introduces the key ideas in English contract law. The objective of the course is to help students explore what is the most appropriate law to facilitate markets, control transactional risks, and deter exploitation of bargaining power. Furthermore students will learn about the latest movement towards enhancing consumer rights occurring in the EU law.

ECN544C1-2

## 企業経済学B

砂田 充

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、産業組織論（Industrial Organization）・企業経済学（Business Economics）・競争政策の経済学（Antitrust Economics）の基本・応用モデルを学習する。特に価格差別、カルテル、合併および垂直的取引の様々なモデルについて学習する。

## 【到達目標】

産業組織論・企業経済学・競争政策の経済学の基本・応用モデルを自ら構築・解析できる能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

スライドと黒板を使った講義形式がメイン。学生による報告を求められる場合もある。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	オリエンテーション
第2回	寡占市場①	寡占市場の基本モデル（復習）
第3回	寡占市場②	消費者の離散選択モデル/Logit モデル
第4回	価格差別①	価格差別の基礎/グループ別価格
第5回	価格差別②	二部料金/抱き合わせ/メニュー価格
第6回	カルテル①	カルテルの最適化行動と安定性/報復の脅威による協調の維持
第7回	カルテル②	カルテル規制/不当な取引制限
第8回	合併①	企業結合規制/水平的合併と効率性/水平的合併と社会的厚生
第9回	合併②	合併シミュレーション/合併の実証研究
第10回	合併③	垂直的合併と効率性
第11回	垂直的取引①	垂直的取引における最適行動/再販とテリトリー制
第12回	垂直的取引②	垂直的取引の競争制限効果/不正な取引方法
第13回	競争戦略	戦略的行動/競争戦略の分類/コスト優位/差別化優位
第14回	総括	これまでの内容のおさらいと試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムよりDLして予習（2時間程度）、講義後には講義資料および自筆ノート等を使って復習（2時間程度）することが必要である。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

## 【参考書】

小田切宏之『新しい産業組織論：理論・実証・政策』（有斐閣、2001年）、丸山雅祥『経営の経済学 [新版]』（有斐閣、2011年）、Belleflamme, P. and M. Peitz Industrial Organization: Markets and Strategies, Cambridge Univ. Press, 2010、Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Shaefer Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013、Motta, M. Competition Policy: Theory and Practice, Cambridge Univ. Press, 2004、Shy, O. Industrial Organization: Theory and Applications, MIT Press, 1996、Tirole, J. The Theory of Industrial Organization, MIT Press, 1988 他適宜紹介する予定。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（70～95%）、平常点（30～5%）により評価をする。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生が自らの研究テーマについて分析モデルを構築できるように指導を心掛けたい。

## 【担当教員の専門分野等】

&lt;専門領域&gt;

産業組織論・企業経済学・競争政策の経済学

&lt;研究テーマ&gt;

企業の経営戦略と公共政策の経済分析

&lt;主要研究業績&gt;

"Competition among Movie Theaters: An Empirical Investigation of the Toho-Subaru Antitrust Case," Journal of Cultural Economics, Vol. 36, Number 3, pp. 179-206, August 2012.

"Coverage Area Expansion, Customer Switching, and Household Profiles in the Japanese Broadband Access Market," Information Economics and Policy, Vol. 23, Issue 1, pp. 12-23, March 2011 (with Masato Noguchi, Hiroshi Ohashi, and Yosuke Okada).

"Measuring the Cost of Living Index, Output Growth, and Productivity Growth in the Retail Industry: An Application to Japan," Review of Income and Wealth, Vol. 56, Issue 4, pp. 667-692, December 2010.

## 【Outline and objectives】

This course is graduate-level introduction to industrial organization and managerial economics. The goal of this course is that students understand various models in the fields and acquire modeling skills for their own research interests. This course will focus on the topics as follows: pricing strategy, cartel, horizontal and vertical merger, vertical restraints, and so on. Students are expected to have solid comprehension of undergraduate microeconomics.

ECN562C1-1

## 国際金融論 A

## ブー・トウンカイ

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なる通貨を媒介として行われる。本講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。

## 【到達目標】

対外取引の意義や内容、為替市場の仕組みと為替取引、為替レート決定、為替レートと金利や物価、実体経済との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果を理解でき、さらに為替介入や為替制度選択、共通通貨としてのユーロ、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題を知り、経済学的手法を用いて理論的・実証的に分析できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

授業で扱うテキストの各章を受講者間で担当を決め、毎回の授業で最初に受講者が事前に準備した各章の内容を発表し、最後に教員が総括を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際金融論の紹介
2	国際金融の基本的視点の設定	金融取引の意義、国際的視点
3	統計でマクロ経済をみる	国民所得勘定、資金循環勘定
4	統計で対外取引をみる	国際収支表
5	貨幣	貨幣、貨幣需要、貨幣供給
6	貨幣と物価	貨幣市場の均衡、短期と長期における貨幣と物価との関係
7	貨幣と物価に関する理論と実証研究	貨幣需要関数の理論と推定、貨幣と物価との関係の実証分析
8	為替レート	名目為替レート、実質為替レート、実効為替レート、データを用いる実効為替レートの算出
9	外国為替市場	外国為替市場、直物・先物レート、通貨デリバティブ
10	金利と為替レート	金利裁定、カバー付金利平価、カバーなし金利平価、均衡為替レート
11	為替レート決定の理論(1)	貨幣市場と外国為替市場、リスク・プレミアム
12	金利平価の検証	金利平価の実証研究文献、データとパソコンを用いる演習
13	物価と為替レート、及び為替レート決定の理論(2)	生産物裁定と購買力平価、マネタリーモデル
14	購買力平価からの乖離	データでみる実質為替レートの長期的トレンド、労働生産性とバラッサ・サミュエルソン効果

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で毎回の授業までにその前回で学んだ内容を1時間程度で復習しておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

- 『コア・テキスト国際金融論』第2版、藤井英次、新世社 2014年。
- 『MBAのための国際金融』小川 英治・川崎 健太郎、有斐閣 2007年。

## 【参考書】

- “International Finance: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第11版(2018/1/25)(英語) ペーパーバック。
- “International Finance and Open-Economy Macroeconomics,” by Giancarlo Gandolfo, Springer; 2nd Edition (2016/7/12) (ハードカバー)。
- 『新しい国際金融論－理論・歴史・現実』勝悦子、有斐閣 2011年。

## 【成績評価の方法と基準】

以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。

小テスト・宿題：25%、中間レポート：25%、学期末レポート：50%

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を見ながら若干内容を変更することがある。

## 【学生が準備すべき機器他】

コンピュータによるデータ分析の演習があるので、ノートパソコンをもつことが望ましい。

## 【その他の重要事項】

教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際マクロ経済学、国際金融論

<研究テーマ>

開放経済の理論と実証、経済政策の効果、東アジアの為替制度、アジア諸国のマクロ経済問題

<主要研究業績>

- "News Shocks and Japanese Macroeconomic Fluctuations," Japan and the World Economy, Vol.24, Issue 4, pp.292-304, 2012 (with Jun-Hyung Ko and Kensuke Miyazawa).
- 「東アジアの貿易構造と為替制度選択問題に関する理論的考察」, 『アジア太平洋研究』第39巻, pp.149-162, 2014年。
- "Oil Price Fluctuations and the Small Open Economies of Southeast Asia: An Analysis Using Vector Autoregression with Block Exogeneity," Journal of Asian Economics 54 (2018), pp.1-21 (with Hayato Nakata).

## 【Outline and objectives】

International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These international transactions are mainly transactions in goods&services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies.

ECN562C1-2

## 国際金融論 B

## ブー・トウンカイ

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なる通貨を媒介として行われる。本講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。

## 【到達目標】

対外取引の意義や内容、為替市場の仕組みと為替取引、為替レート決定、為替レートと金利や物価、実体経済との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果を理解でき、さらに為替介入や為替制度選択、共通通貨としてのユーロ、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題を知り、経済学的手法を用いて理論的・実証的に分析できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

授業で扱うテキストの各章を受講者間で担当を決め、毎回の授業で最初に受講者が事前に準備した各章の内容を発表し、最後に教員が総括を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
1	為替レート決定の理論(3)	ポートフォリオ・アプローチとその実証分析
2	為替レート決定の理論(4)	ニュースの理論とその実証分析
3	外国為替市場の効率性	効率的市場仮説、先物相場と直物相場、先物相場プレミアムに関する実証分析
4	為替レートと実体経済(1)	総需要と総供給、内需と外需、生産物市場の短期均衡
5	為替レートと実体経済(2)	為替レートと経常収支、弾力性アプローチとその実証分析
6	マクロ経済分析の理論的枠組み	IS-LM モデルの復習：名目価格硬直性、短期と長期、短期のマクロ経済理論としての IS-LM モデル、総生産の決定、外生ショックと景気変動、マクロ経済政策の効果
7	開放経済分析の理論的枠組み(1)	マンデル・フレミングモデルの構築、それを用いる分析：変動相場制下の金融・財政政策の効果
8	開放経済分析の理論的枠組み(2)	マンデル・フレミングモデルを用いる分析：固定相場制下の金融・財政・為替政策の効果
9	マンデル・フレミングモデルから動学的開放マクロ経済学へ	動学的開放マクロ経済学の理論と実証
10	為替介入	為替介入の定義、実際、仕組み、理論・実証の効果、固定相場維持介入と通貨危機
11	為替制度の選択	開放経済におけるトリレンマ、世界各国の為替制度の現状、為替制度選択問題と「両極の解」の議論

12	通貨同盟と最適通貨圏	EU とユーロの概要、最適通貨圏の理論と実証分析
13	発展途上国の国際金融	発展途上国の国際金融の現実の諸問題と政策
14	東アジアの経済統合と地域的通貨協力	東アジアにおける貿易や投資の面での経済統合やアジア通貨危機、そして地域的通貨協力について学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で毎回の授業までにその前回で学んだ内容を 1 時間程度で復習しておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

- 『コア・テキスト国際金融論』第 2 版、藤井英次、新世社 2014 年。
- 『MBA のための国際金融』小川英治・川崎健太郎、有斐閣 2007 年。

## 【参考書】

- “International Finance: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第 11 版 (2018/1/25) (英語) ペーパーバック。
- “International Finance and Open-Economy Macroeconomics,” by Giancarlo Gandolfo, Springer; 2nd Edition (2016/7/12) (ハードカバー)。
- 『新しい国際金融論- 理論・歴史・現実』勝悦子、有斐閣 2011 年。

## 【成績評価の方法と基準】

以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。

小テスト・宿題：25%、中間レポート：25%、学期末レポート：50%

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を見ながら若干内容を変更することがある。

## 【学生が準備すべき機器他】

コンピュータによるデータ分析の演習があるので、ノートパソコンをもつことが望ましい。

## 【その他の重要事項】

教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際マクロ経済学、国際金融論

<研究テーマ>

開放経済の理論と実証、経済政策の効果、東アジアの為替制度、アジア諸国のマクロ経済問題

<主要研究業績>

(1) "News Shocks and Japanese Macroeconomic Fluctuations," Japan and the World Economy, Vol.24, Issue 4, pp.292-304, 2012 (with Jun-Hyung Ko and Kensuke Miyazawa).

(2) 「東アジアの貿易構造と為替制度選択問題に関する理論的考察」, 『アジア太平洋研究』第 39 巻, pp.149-162, 2014 年。

(3) "Oil Price Fluctuations and the Small Open Economies of Southeast Asia: An Analysis Using Vector Autoregression with Block Exogeneity," Journal of Asian Economics 54 (2018), pp.1 - 21 (with Hayato Nakata).

## 【Outline and objectives】

International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These international transactions are mainly transactions in goods&services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies.

ECN552C1-1

**環境政策論 A**

西澤 栄一郎

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

環境政策の経済分析－政策手法を中心に－

**【到達目標】**

- ①環境問題に関わる政策手法を理解する。
- ②環境政策の経済学的分析手法を身につける。
- ③他国・地域の環境政策の手法について調べ、日本と対比する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

環境政策の経済分析を主たるテーマとするが、政治学的なアプローチも紹介する。まず、環境問題とその政策について基礎的に理解してもらうために、環境問題の歴史と代表的政策分野である温暖化対策について概説する。つぎに、環境問題の経済的分析手法を解説し、具体的な政策手法について分析する。さいごに、環境政策を政治過程論の視点から検討する。

講義を基本とするが、最終回に報告とレポート提出を求める。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】****春学期前半**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・変遷	オリエンテーション、江戸時代から 20 世紀末までの歴史
第 2 回	地球温暖化対策	気候変動枠組み条約、京都議定書、パリ協定
第 3 回	環境問題の経済分析	余剰分析、厚生経済学の基本定理、市場の失敗、公共財、外部性
第 4 回	環境政策の手段①	政策手段の分類、直接規制、環境税
第 5 回	環境政策の手段②	排出取引、環境補助金、デポジット制度
第 6 回	環境政策の政治過程	政策過程論、政策ネットワーク
第 7 回	受講者の発表	短い発表

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

下記の参考書や各回に紹介する参考文献を読む。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは指定しない。配付資料により講義を行う。

**【参考書】**

- ①栗山浩一・馬奈木俊介 (2016) 『環境経済学をつかむ 第 3 版』 有斐閣
- ②一方井誠治 (2018) 『コアテキスト 環境経済学』 新世社
- ③倉阪秀史 (2014) 『環境政策論 第 3 版』 信山社
- ④有村俊秀・片山東・松本茂編 (2017) 『環境経済学のフロンティア』 日本評論社

**【成績評価の方法と基準】**

レポートとその内容に関する発表 (50%)、平常点と授業への参加 (50%)

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケートを実施していないため、該当なし

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域> 環境政策論、農業経済学  
<研究テーマ> 欧米の環境政策・農業環境問題

**<主要研究業績>**

- ①『環境政策史－なぜいま歴史から問うのか』（共編著）ミネルヴァ書房, 2017 年.
- ②『農業環境政策の経済分析』（編著）日本評論社, 2014 年.
- ③「オランダの環境協同組合」清水純一・坂内久・茂野隆一編『復興から地域循環型社会の構築へ』農林統計出版, 2013 年.

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to help students conduct an economic analysis of environmental policies.

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to help students conduct an economic valuation of the environment.

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

環境の経済的評価手法

**【到達目標】**

- ①環境の経済的評価手法について、その概要を理解する。
- ②評価手法を実際に運用できるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

環境の経済的評価手法を解説する。理論的基礎となる、厚生経済学や費用便益分析を概説したあと、旅行費用法、ヘドニック法、CVM(仮想評価法)、コンジョイント分析などをとりあげる。各手法を解説したあと、その手法を用いた実証研究の論文を講読する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

春学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・費用便益分析	オリエンテーション、環境の経済的評価の必要性
第 2 回	厚生経済学・環境の価値と評価手法の概要	経済的余剰の諸概念、支払意思額、受取補償額、環境の価値、表明選好、顕示選好
第 3 回	旅行費用法	家計生産モデル、弱補完性
第 4 回	ヘドニック法	ヘドニック価格関数、付値関数
第 5 回	CVM (仮想評価法)	各種のバイアス、ランダム効用モデル
第 6 回	コンジョイント分析	選択型実験、多項ロジットモデル
第 7 回	回避支出法、ライフサイクルアセスメント	被害算定型影響評価手法

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキストは事前に読んでおくこと。配布する論文を事前に読んでおくこと。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

栗山浩一・柘植隆宏・庄子康（2013）『初心者のための環境評価入門』勁草書房

**【参考書】**

- ①栗山浩一・庄子康編（2005）『環境と観光の経済評価』勁草書房
- ②柘植隆宏・栗山浩一・三谷羊平編（2011）『環境評価の最新テクニク』勁草書房

**【成績評価の方法と基準】**

実証論文についての、レジュメの作成と報告（25 %）、短いレポート（25 %）、平常点と授業への参加（50 %）

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケートを実施していないため、該当なし

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域> 環境政策論、農業経済学  
<研究テーマ> 欧米の環境政策・農業環境問題  
<主要研究業績>

- ①『環境政策史－なぜいま歴史から問うのか』（共編著）ミネルヴァ書房、2017 年。
- ②『農業環境政策の経済分析』（編著）日本評論社、2014 年。
- ③「オランダの環境協同組合」清水純一・坂内久・茂野隆一編『復興から地域循環型社会の構築へ』農林統計出版、2013 年。

ECN553C1-1

## 経済政策 A

濱秋 純哉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、経済政策のうちとくに社会保障政策について制度と理論の両面から学ぶ。

## 【到達目標】

日本の社会保障政策についての理解を深め、自ら政策を評価できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

日本の社会保障制度とその理論的背景の解説を行う。社会保障制度については、教員が作成したパワーポイント資料を受講者各自が読んだ上でレポートを作成することで制度についての理解を深める。パワーポイント資料の内容について質問があれば学習支援システムを通じて受け付ける。また、必要に応じて（受講者からのリクエストがあれば）、レポートの作成過程でオンライン会議システムを通じて指導する時間を設ける。社会保障制度の理論的背景はオンライン会議システムを通じて授業形式で説明する予定である。ただし、受講者のインターネット環境等の事情によっては別の方法をとる可能性もある。初回の授業については、4月23日（木）までに学習支援システムにアップロードするガイダンス資料を受講者各自が読むという形とする。ガイダンス資料の最後のページに「履修者のことを知るための質問」があるので、学習支援システムを通じて回答すること（回答方法などはガイダンス資料の最後のページを見てください）。

2020年4月20日修正

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義概要の説明
第2回	社会保障とは何か	社会保障の目的と機能
第3回	社会保障とは何か	社会保障を政府が提供する根拠
第4回	マクロ経済から見た社会保障	社会保障給付の構造
第5回	マクロ経済から見た社会保障	社会保障財源の構造
第6回	所得格差と所得再分配	所得格差をどう測るか
第7回	所得格差と所得再分配	所得再分配のあり方
第8回	公的年金の基礎理論	日本の公的年金制度の概要
第9回	公的年金の基礎理論	公的年金の機能
第10回	公的年金の基礎理論	積立方式と賦課方式
第11回	医療保険の基礎理論	日本の医療保険制度の概要
第12回	医療保険の基礎理論	医療保険の機能
第13回	医療保険の基礎理論	医療保険とモラル・ハザード
第14回	まとめと期末試験	まとめと期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。本授業を履修するにあたり、ある程度の社会保障制度の知識を持っていた方がよいが、それを前提とはしない。なお、知識に不安がある者は、椋野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障-福祉を学ぶ人へ』（各年版、有斐閣）の1章、4章、7章、8章を事前の一読することを勧める。

## 【テキスト（教科書）】

小塩隆士、2013年、『社会保障の経済学 [第4版]』日本評論社

## 【参考書】

安岡匡也、2017年、『経済学で考える社会保障制度』中央経済社  
小西砂千夫、2016年、『社会保障の財政学』日本経済評論社  
駒村康平・山田篤裕・四方理人・田中聡一郎・丸山桂、2015年、『社会政策 福祉と労働の経済学』有斐閣  
小塩隆士・田近栄治・府川哲夫、2014年、『日本の社会保障政策 課題と改革』東京大学出版会

## 【成績評価の方法と基準】

レポート（50%）と期末試験（50%）

ただし、期末試験を行えるか不明なため、期末試験を別の方法で代替する可能性もある。

2020年4月20日修正

## 【学生の意見等からの気づき】

学生が受け身の学習にならないように、授業の途中で受講者自身が考えたり、計算したりする時間を設ける。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを通じて資料などのアップロードを行う。この際に、受講者に通知のメールが届くようにするので、授業支援システムに登録されているメールアドレスを通常使用しているものに更新しておくことを勧める。

## 【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 >

公共経済学・応用計量経済学

< 研究テーマ >

家計行動のミクロ計量分析

< 主要研究業績 >

(1) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Keiko Murata, 2019, "The intra-family division of bequests and bequest motives: Empirical evidence from a survey on Japanese households," *Journal of Population Economics*, Vol.32(1), pp.309 - 346.

(2) 上野綾子・濱秋純哉、2017年、「2009年度介護報酬改定が介護従事者の賃金、労働時間、離職率に与えた影響」、『医療経済研究』、Vol.29(1)、33頁-57頁。

(3) Hamaaki, Junya, 2013, "The pension system and household consumption and saving behavior," *Public Policy Review*, Vol.9(4), pp.687-716.

(4) Hamaaki, Junya, Yasushi Iwamoto, 2010, "A reappraisal of the incidence of employer contributions to social security in Japan," *Japanese Economic Review*, Vol.61(3), pp.427-441.

## 【Outline and objectives】

This course explains social security policy from both a theoretical and practical perspective.

ECN555C1-1

## 公共経済学 A

篠原 隆介

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、市場経済と政府の関係について経済学を通して考察します。本講義では、主に、「市場経済の利点とは何か?」、「市場経済の欠点とは何か?」、「この欠点を補うための政府の役割は何か?」をミクロ経済学の手法に基づき、講義します。講義の前半は、市場経済の利点を、後半は、公共財による市場の失敗と政府の政策について講義します。第 11 回目～13 回目の講義では、公共経済学研究の専門誌として高い評価を確立している *Journal of Public Economics* 誌に掲載された英語学術論文を用い、より専門的な内容を学習します。

## 【到達目標】

1. 市場経済がもたらす利点と欠点を、ミクロ経済学に基づき述べることができる。
2. 市場の失敗は、どのような政策を用いて解消することができるのか、説明することができる。
3. ミクロ経済学の分析手法を習得し、修士論文執筆の礎を築くこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

完全競争の理論、市場の失敗（公共財）と政府の役割を学習する。標準的なミクロ経済学とゲーム理論を用いて分析を行う。本講義では、理論分析を主に行うが、本講義の内容が現実世界とどのように関連するののかについて、意識しながら講義を受講して欲しい。

講義は講師自作の講義ノートを用いて行う。資料は授業支援システムからダウンロード可能である。

新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大への対処のため、教室での講義が禁止されている間は、オンライン教材を用いて講義を行う。教材の視聴に関する指示や補助資料の配布は、すべて学習支援システムを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	公共経済学とは、市場の失敗と政府の役割
2	消費者理論 (1)	消費者の効用最大化問題、スルツキー分解
3	消費者理論 (2)	消費者行動と効率的な消費税制
4	交換経済 (1)	複数財取引と市場均衡、ワルラス均衡について
5	交換経済 (2)	パレート効率配分
6	交換経済 (3)	厚生経済学の基本定理、効率性 vs 衡平性
7	公共財 (1)	公共財、準公共財、私的財、公共財供給のモデル構築について
8	公共財 (2)	公共財供給のパレート効率条件の導出、サミュエルソン条件について
9	公共財 (3)	公共財の私的供給とただ乗り問題（ゲーム理論分析）
10	公共財 (4)	リンダール・メカニズムによる公的な公共財供給
11	海外学術論文学習 (1)	Bergstrom et al. (1986)、Varian(1994) の解説 (1)
12	海外学術論文学習 (2)	Bergstrom et al. (1986)、Varian(1994) の解説 (2)

- 13 海外学術論文学習 (3) Bergstrom et al. (1986)、Varian(1994) の解説 (3)  
 14 総括 本講義の総復習、理解度確認のための実習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を目安とするが、講義内容をより深く理解するためには、より多くの時間を費やすことが望ましいことは言うまでもない。ミクロ経済学の復習をすること。学部卒業程度のミクロ経済学の知識を前提として本講義を行う。例えば、武隈 (1999)、ギボンズ (1995) の第 1 章と第 2 章に掲載されている知識があることが望まれる。これらの知識を持ち合わせない場合には、自主学習するか、他の講義で埋め合わせて欲しい。英語文献は、必ず予習し講義に参加すること。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

海外学術論文学習では、次の文献を用いる予定である。

・Bergstrom, T., Blume, L., Varian, H. (1986) "On the provision of public goods," *Journal of Public Economics* 29, 25-49.

・Varian, H.R. (1994) "Sequential contribution to public goods," *Journal of Public Economics* 53, 165-186.

受講生が他の研究論文を希望する場合には、それを扱う可能性がある。

## 【参考書】

講義ノートを補完する上で次の参考書（特に [1]）は、役に立つであろう。

[1] 麻生良文『公共経済学』有斐閣、1998 年。

[2] 板谷淳一、佐野博之『コアテキスト公共経済学』サイエンス社、2013 年。

[3] ギボンズ・ロバート『経済学のためのゲーム理論入門』創文社、1995 年。

[4] 須賀晃一編『公共経済学講義—理論から政策へ』有斐閣、2014 年。

[5] 武隈慎一『ミクロ経済学増補版』新世社、1999 年。

[6] 林正義、小川光、別所俊一郎『公共経済学』有斐閣、2010 年。

[7] Hindriks J. and Myles G.D., *Intermediate Public Economics* (2nd ed.), The MIT Press, 2013.

## 【成績評価の方法と基準】

学期末試験 (100 %) により評価を行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

2016 年度～2019 年度まで休講だったため、該当しない。

## 【その他の重要事項】

講義資料と練習問題集は、授業支援システムを通して配布する。

## 【担当教員の専門分野等】

## ■主要研究業績

・Pre-negotiation Commitment and Internalization in Public Good Provision through Bilateral Negotiations, *Journal of Public Economics*, vol. 175, pp. 84-93, 2019 (共著).

■他の研究業績については、<https://researchmap.jp/read0131683/> を参照のこと。

## 【Outline and objectives】

In this course, the students learn some basic topics regarding public microeconomics such as (i) the optimal design of consumption taxes based on the standard consumer theory, (ii) the efficiency vs equity based on the pure exchange economy, and (iii) the (private and public) provision of the public goods. Finally, the students read some important research articles regarding public microeconomics.

ECN557C1-1

**都市経済政策論A**

近藤 章夫

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

都市や地域を扱った経済学の研究成果を対象にして、都市経済学、地域経済学における方法論と研究対象への接近法を通じて、都市・地域研究の到達点や今後の課題について議論する。

**【到達目標】**

都市・地域研究における都市論、立地論、集積論、空間論、政策論の各アプローチについて経済学との関連で理解し、国際的な学術誌の論文を読解できるようになることが目標である。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

上記の目標を達成するために、都市・地域の経済的盛衰を軸として、人口、産業立地、地域構造、地域間格差、住宅、土地、交通、財政、政策など、多岐にわたる都市と地域の問題について理論分析と実証分析の到達点と課題を論ずる。履修者の関心に最大限配慮しながら文献を適宜紹介し、具体的な研究事例から理解を深める。授業への出席と積極的な議論への参加を重視する。

なお、履修者の関心および講義の進捗状況によっては、授業計画を変更する可能性がある。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション (講義の概要と学習のポイント)	講義の概要と学習のポイント、都市・地域の定義、都市経済・地域経済に関する現代的意義
第2回	都市論と都市化の概念	都市論の歴史、都市の成立と発展、都市化の概念と発展プロセス
第3回	都市集積の理論	都市成立の要因、内部・外部経済、規模と集積の経済
第4回	都市規模と都市システム	都市規模の経済学、都市システムの理論、都市システムと順位規模法則
第5回	都市の内部構造①：住宅の立地	都市内の土地利用、住宅の立地、都心と郊外、住宅政策
第6回	都市の内部構造②：企業とオフィスの立地	企業の立地、オフィスと住宅の分離、動学的立地
第7回	産業の立地	工業の立地要因、工業立地動向、商業施設の立地と集積
第8回	地価と土地政策	土地問題と土地市場、地価と地代の理論、土地税制
第9回	地域経済の基本構造	地域経済の概念、地域経済計算、閉鎖／開放体系地域経済モデル
第10回	地域経済の成長理論	都市・地域成長の概念、需要／供給主導型成長モデル、先進国と途上国の地域問題
第11回	地域間格差と人口移動	地域間格差の問題、人口動態と移動、格差是正への課題
第12回	地域間交易と空間経済学モデル	基本モデルの構造、実証研究の到達点、政策へのフィードバック
第13回	都市と地域の交通と環境	都市と交通、交通サービスの需給、混雑緩和と価格政策、交通政策、都市の環境問題と政策
第14回	公共部門と都市・地域政策	公共部門と公共財、都市・地域財政と政策、都市の安全性

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。テキストおよび参考文献の読解および事後の課題への取り組みを求める。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は事前に指定しないが、黒田ほか（2008）を本講義の基本文献とし、履修者の関心によっては発展的な文献を指定する。

**【参考書】**

黒田達朗ほか（2008）『都市と地域の経済学（新版）』有斐閣  
金本良嗣・藤原徹（2016）『都市経済学（第2版）』東洋経済新報社  
高橋孝明（2012）『都市経済学』有斐閣

Duranton, G. et al. (2015) 『Handbook of Regional and Urban Economics, Volume 5A-5B』 North Holland

Huriot, J.M. and Thisse, J.F. (2009) 『Economics of Cities: Theoretical Perspectives』 Cambridge University Press

その他の参考文献は適宜提示する。

**【成績評価の方法と基準】**

講義への貢献度、数回の課題提出（レジュメによる内容紹介などを含む）による評価が中心となる。

平常点 60%、レポート課題・宿題 40%

**【学生の意見等からの気づき】**

受講生の関心と理解度に最大限配慮して柔軟に授業計画を進める。

**【学生が準備すべき機器他】**

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域> 経済地理学、都市・地域経済学

<研究テーマ> 都市・産業集積と経済発展、立地と分業の国際比較、イノベーションシステムの空間分析

<主要研究業績>

①共著（2015）『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社

②共著（2012）『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会

③単著（2007）『立地戦略と空間的分業』古今書院

**【Outline and objectives】**

The aim of this lecture is to give participants a theoretical and empirical overview of modern urban/regional economic studies. These include urban models, industrial location, spatial economic structure, public policy, and so forth.

ECN557C1-2

**都市経済政策論B**

近藤 章夫

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

都市や地域を扱った経済学の研究成果を対象にして、経済地理学、都市・地域経済学、都市工学・計画などの分野で用いられている統計データと分析手法（理論・モデルも含む）について学ぶ。

**【到達目標】**

小地域統計の特性、都市・地域分析の手法を学ぶことによって、都市・地域研究における実証的接近法を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

上記分野で用いられる統計データの特性や、分析手法の学修を通じて、定量的・計量的手法に関して一通りの理解を得ることを目的とし、次の4点を軸として、講義と演習（PCを用いたデータ分析）を行う。なお、都市経済政策論Aの講義内容と一部関連し、本講義の履修者の関心によって授業計画を変更する可能性がある。

- ・政府統計（国勢調査など）における小地域統計の特性
- ・都市・地域データの基礎的な統計分析（特化係数、ジニ係数、シフトシェア分析など）
- ・都市・地域経済モデルや集積モデルに関わる多変量解析
- ・地理情報システム（GIS）を用いた空間解析手法

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション (講義の概要と学修のポイント)	講義の概要とポイント
第2回	社会経済分野の統計と都市・地域データ	基幹統計の概要、小地域統計の特性、e-statの利用方法
第3回	都市・地域データ分析①	基本統計量、EXCELの分析ツールに関する復習
第4回	都市・地域データ分析②	地域特性に関する指標と分析方法
第5回	都市・地域データ分析③	人口・立地特性に関する指標と分析方法
第6回	都市・地域データ分析④	都市規模・システムに関する指標と分析方法
第7回	都市・地域データ分析⑤	地域間関係に関する指標、重力モデル、ハフモデル
第8回	都市・地域データ分析⑥	最近隣測度、ネットワーク分析
第9回	都市・地域研究における多変量解析①	回帰分析（ヘドニック法）、主成分分析、因子分析
第10回	都市・地域研究における多変量解析②	クラスター分析、多次元尺度構成法
第11回	地理情報システムと空間解析①	GISの概要と社会科学における空間解析手法
第12回	地理情報システムと空間解析②	GISアプリケーションを用いた空間解析の演習
第13回	地理情報システムと空間解析③	GISアプリケーションを用いた空間解析の演習
第14回	まとめ	都市・地域経済分析の課題と展望

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。テキストおよび参考文献の読解および事後の課題への取り組みを求める。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は事前に指定しないが、履修者の関心によっては発展的な参考文献を指定する。

**【参考書】**

履修者の関心によって参考書を適宜指定する。分析手法に関する基礎的な参考文献は下記があげられる。

大友篤（1997）『地域分析入門（改訂版）』東洋経済新報社  
河端瑞貴（2018）『経済・政策分析のためのGIS入門①、②』古今書院

貞広幸雄ほか編（2018）『空間解析入門』朝倉書店  
半澤誠司ほか編（2015）『地域分析ハンドブック』ナカニシヤ書店  
Karlsson, C. et al. (2016) 『Handbook of Research Methods and Applications in Economic Geography』Edward Elgar Pub

**【成績評価の方法と基準】**

講義への貢献度、数回の課題提出（分析結果の提出等を含む）による評価が中心となる。

平常点 60%、レポート課題・宿題 40%

**【学生の意見等からの気づき】**

受講生の理解度に最大限配慮して柔軟に授業計画を進める。

**【学生が準備すべき機器他】**

情報機器（貸与パソコン等）を持参すること（初回は不要）。また、資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

**【担当教員の専門分野等】**

- <専門領域> 経済地理学、都市・地域経済学
- <研究テーマ> 都市・産業集積と経済発展、立地と分業の国際比較、イノベーションシステムの空間分析
- <主要研究業績>
  - ①共著（2015）『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社
  - ②共著（2012）『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会
  - ③単著（2007）『立地戦略と空間的分業』古今書院

**【Outline and objectives】**

The aim of this lecture is to give participants empirical methods in urban and regional economics. These include regional analysis, spatial economic analysis, and geographical information system.

ECN572C1-1

## 上級マクロ経済学 A

宮崎 憲治

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では非伝統的金融政策が金融システムと実体経済に与える影響について学ぶ

## 【到達目標】

非伝統的金融政策と信用創造に関する先行研究を理論的に理解し、関連するマクロ経済モデルを習熟することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

テーマごとに学術論文を輪読する。

『オンライン会議システムを使ったりリアルタイムのテレビ会議上で行うことを予定している。具体的な方法などは、授業支援システム登録者にメールで連絡するので、4月24日までに仮登録を済まし、4月25日に確認してください。』

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	日銀の非伝統的金融政策 1	Koeda, Junko (2019). "Macroeconomic effects of quantitative and qualitative monetary easing measures" <i>Journal of The Japanese and International Economies</i> , 52, 121-141.
第 2 回	日銀の非伝統的金融政策 2	Honda, Yuzo and Hitoshi Inoue (2019). "The effectiveness of the negative interest rate policy in Japan: An early assessment" <i>Journal of The Japanese and International Economies</i> , 52, 142-153.
第 3 回	日銀の非伝統的金融政策 3	Honda, Yuzo (2014). The Effectiveness of Nontraditional Monetary Policy : The Case of Japan" <i>Japanese Economic Review</i> , 65(1), 1-23.
第 4 回	日銀の非伝統的金融政策 4	Oda, Nobuyuki and Kazuo Ueda (2007). "The Effects of the Bank of Japan's Zero Interest Rate Commitment and Quantitative Monetary Easing on the Yield Curve : A Macro-Finance Approach," <i>Japanese Economic Review</i> , 58(3), 303-328.
第 5 回	主要 8 国の非伝統的金融政策	Gambacorta, Leonardo, Boris Hofmann, and Gert Peersman (2014). "The Effectiveness of Unconventional Monetary Policy at the Zero Lower Bound : A Cross-Country Analysis," <i>Journal of Money, Credit and Banking</i> , 46(4), 615-642.
第 6 回	米国の非伝統的金融政策	Hamilton, James D. and Jing C. Wu (2012). "The Effectiveness of Alternative Monetary Policy Tools in a Zero Lower Bound Environment," <i>Journal of Money, Credit, and Banking</i> , 44 (s1), 3-46.
第 7 回	欧州の金融政策と信用創造	Altunbas, Yener, Otobek Fazylov, and Philip Molyneux(2002). "Evidence on the Bank Lending Channel in Europe," <i>Journal of Banking and Finance</i> , 26(11), 2093-2110.
第 8 回	金融政策の伝達メカニズム 1	Hosono, Kaoru (2006). "The Transmission Mechanism of Monetary Policy in Japan : Evidence from Banks' Balance Sheets," <i>Journal of the Japanese and International Economies</i> , 20(3), 380-405.

第 9 回	金融政策の伝達メカニズム 2	Kashyap, Anil K and Jeremy C. Stein (2000). "What Do a Million Observations on Banks Say about the Transmission of Monetary Policy?" <i>American Economic Review</i> , 90 (3), 407-428.
第 10 回	金融政策の伝達メカニズム 3	Ogawa, Kazuo (2000). "Monetary Policy, Credit, and Real Activity : Evidence from the Balance Sheet of Japanese Firms," <i>Journal of the Japanese and International Economies</i> , 14(4), 385-407.
第 11 回	金融政策と信用創造	Kishan, Ruby P. and Timothy P. Opiela (2000). "Bank Size, Bank Capital, and the Bank Lending Channel" <i>Journal of Money, Credit and Banking</i> , 32(1), 121-141.
第 12 回	銀行の国債保有行動	Ogawa, Kazuo and Kentaro Imai (2014). "Why Do Commercial Banks Hold Government Bonds? The Case of Japan," <i>Journal of the Japanese and International Economies</i> , 34, 201-216.
第 13 回	景気循環と金融政策が企業行動に及ぼす影響	Gertler, Mark and Simon Gilchrist (1994). "Monetary Policy, Business Cycles, and the Behavior of Small Manufacturing Firms," <i>Quarterly Journal of Economics</i> , 109(2), 309-340.
第 14 回	金融政策と株価	Shibamoto, Masahiko and Minoru Tachibana (2019). "Individual Stock Returns and Monetary Policy: Evidence from Japanese Data". <i>The Japanese Economic Review</i> , 65, 375-396.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定した論文を読んでおく。本授業の予習・復習時間は、あわせて各回 5 時間とする。

## 【テキスト（教科書）】

授業内に指定する

## 【参考書】

授業内に指定する

## 【成績評価の方法と基準】

課題報告 (70%), 平常点 (30%)

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

マクロ経済学 AB, 応用マクロ経済学 AB を受講済みであることが望ましい。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マクロ経済学・計量経済学

<研究テーマ>

マクロ経済学・計量経済学

<主要研究業績>

Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol. 25 (2), pp. 81-106. (査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003)

## 【Outline and objectives】

This lecture examines unconventional monetary policies and these effect on "real" economy.

ECN572C1-2

## 上級マクロ経済学 B

宮崎 憲治

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では経済主体が異質なマクロ経済モデルおよびその数値計算法について学ぶ。

## 【到達目標】

経済主体が異質なマクロ経済モデルの先行研究を理論的に理解し、その数値計算法を習熟することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

テーマごとに学術論文を輪読する

『オンライン会議システムを使ったリアルタイムのテレビ会議上で行うことを予定している。具体的な方法などは、授業支援システム登録者にメールで連絡するので、4月24日までに仮登録を済まし、4月25日に確認してください。』

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	家計の異質性 1	Huggett, Mark, (1993), The risk-free rate in heterogeneous-agent incomplete-insurance economies, Journal of Economic Dynamics and Control, 17, issue 5-6, p. 953-969.
第 2 回	家計の異質性 2	S. Rao Aiyagari, 1994. "Uninsured Idiosyncratic Risk and Aggregate Saving," The Quarterly Journal of Economics, Oxford University Press, vol. 109(3), pages 659-684.
第 3 回	家計の異質性 3	Per Krusell & Anthony A. Smith & Jr., 1998. "Income and Wealth Heterogeneity in the Macroeconomy," Journal of Political Economy, University of Chicago Press, vol. 106(5), pages 867-896, October.
第 4 回	企業の異質性 1	Hopenhayn, Hugo A, 1992. "Entry, Exit, and Firm Dynamics in Long Run Equilibrium," Econometrica, Econometric Society, vol. 60(5), pages 1127-1150, September.
第 5 回	企業の異質性 2	Aubhik Khan & Julia K. Thomas, 2008. "Idiosyncratic Shocks and the Role of Nonconvexities in Plant and Aggregate Investment Dynamics," Econometrica, Econometric Society, vol. 76(2), pages 395-436, March.
第 6 回	HANK1	Alisdair McKay & Emi Nakamura & Jón Steinsson, 2016. "The Power of Forward Guidance Revisited," American Economic Review, American Economic Association, vol. 106(10), pages 3133-3158, October.
第 7 回	HANK2	Greg Kaplan & Benjamin Moll & Giovanni L. Violante, 2018. "Monetary Policy According to HANK," American Economic Review, American Economic Association, vol. 108(3), pages 697-743, March.
第 8 回	HACT1	Yves Achdou & Jiequn Han & Jean-Michel Lasry & Pierre-Louis Lions & Benjamin Moll, 2017. "Income and Wealth Distribution in Macroeconomics: A Continuous-Time Approach," NBER Working Papers 23732, National Bureau of Economic Research, Inc.

第 9 回 HACT2

SeHyoun Ahn & Greg Kaplan & Benjamin Moll & Thomas Winberry & Christian Wolf, 2017. "When Inequality Matters for Macro and Macro Matters for Inequality," NBER Working Papers 23494, National Bureau of Economic Research, Inc.

第 10 回 数値計算 1

Reiter, Michael, 2009. "Solving heterogeneous-agent models by projection and perturbation," Journal of Economic Dynamics and Control, Elsevier, vol. 33(3), pages 649-665, March.

第 11 回 数値計算 2

Boppart, Timo & Krusell, Per & Mitman, Kurt, 2018. "Exploiting MIT shocks in heterogeneous-agent economies: the impulse response as a numerical derivative," Journal of Economic Dynamics and Control, Elsevier, vol. 89(C), pages 68-92.

第 12 回 数値計算 3

Adrien Auclert & Bence Bardóczy & Matthew Rognlie & Ludwig Straub, 2019. "Using the Sequence-Space Jacobian to Solve and Estimate Heterogeneous-Agent Models," NBER Working Papers 26123, National Bureau of Economic Research, Inc.

第 13 回 異質な家計のリスク

Jonathan Heathcote & Kjetil Storesletten & Giovanni L. Violante, 2009. "Quantitative Macroeconomics with Heterogeneous Households," Annual Review of Economics, Annual Reviews, vol. 1(1), pages 319-354, 05

第 14 回 財政政策と異質な家計

Jappelli, Tullio, and Luigi Pistaferri. 2014. "Fiscal Policy and MPC Heterogeneity." American Economic Journal: Macroeconomics, 6 (4): 107-36.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定した論文を読んでおく。本授業の予習・復習時間は、あわせて各回 5 時間とする。

## 【テキスト（教科書）】

授業内に指定する

## 【参考書】

授業内に指定する

## 【成績評価の方法と基準】

課題報告 (70%), 平常点 (30%)

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

マクロ経済学 AB, 応用マクロ経済学 AB を受講済みであることが望ましい。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マクロ経済学・計量経済学

<研究テーマ>

マクロ経済学・計量経済学

<主要研究業績>

Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, Vol. 25 (2), pp. 81-106. (査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003)

## 【Outline and objectives】

This lecture studies macroeconomic heterogenous-agent models and numerical algorithms for solving these models.

ECN573C1-1

## ミクロ計量分析A

明城 聡

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計パッケージ R を利用したより高度な経済データ分析  
 ※本年度は情報処理室が利用できないため、ビデオ会議形式での授業を行います。

また、自分の PC で作業を行うことになるので受講生は予め PC(Windows, Mac, Linux のいずれか)を準備しておいて下さい。  
 詳しい受講方法は学習支援システムをご覧ください。

## 【到達目標】

統計学や計量経済学の考え方を学ぶとともに、統計パッケージ R を用いた基本的な計量分析の手法を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学と R の操作方法について解説する。その後で実際に端末を利用して演習を行う。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量分析手法を学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	R の設定 (1)	・R について ・基本的な設定
3	R の設定 (2)	・基本コマンド ・統計量の計算
4	R の操作とデータ管理 (1)	・ファイル操作 ・オブジェクト操作
5	R の操作とデータ管理 (2)	・基本統計量
6	R の操作とデータ管理 (3)	・行列の操作
7	R の操作とデータ管理 (4)	・行列演算
8	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 1)	・クロスセクション・データ ・一般化古典的回帰モデル
9	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 2)	・R での回帰分析 ・散布図と回帰直線の作図
10	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 3)	・不均一分散の検定 ・不均一分散調整済み標準誤差
11	線形回帰分析 (パネルデータ 1)	・パネルデータ ・Pooled OLS
12	線形回帰分析 (パネルデータ 2)	・固定効果モデル ・変量効果モデル
13	線形回帰分析 (パネルデータ 3)	・Hausman 検定
14	まとめ	・授業のまとめと復習 ・課題レポートについて

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料を授業で配布する。

## 【参考書】

- (1) 小暮厚之、「R による統計データ分析入門」朝倉書店、2009 年
- (2) 福地純一郎、伊藤有希、「R による計量経済分析」朝倉書店、2011 年
- (3) 浅野哲、中村二郎『計量経済学・第二版』、有斐閣、2009 年

## 【成績評価の方法と基準】

課題レポートにて評価する (100%)。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

情報処理室の端末を利用するので、大学のアカウント (ID およびパスワード) を確認しておくこと。

## 【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合がある。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

実証産業組織論、応用統計学

<研究テーマ>

構造推定を用いた市場分析

<主要研究業績>

1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, *International Economic Review*, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.

2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, *Journal of the Japanese and International Economies*, vol.48, pp.55-67, 2018.

## 【Outline and objectives】

Objectives of this course is to master standard econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programming skills to utilize statistical software R.

ECN573C1-2

## ミクロ計量分析B

明城 聡

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では産業組織論分野の実証分析で用いられているミクロ計量手法についてトピックを選んで解説する。特に近年の実証分析で多く利用されている構造推定アプローチについて焦点を当てた議論をする。講義を通じて消費者や企業の行動を定量分析するとともに政策評価に必要な技術を習得することを目標とする。

## 【到達目標】

消費者や企業のマイクロデータを利用して実証分析を行う際に利用可能な構造推定の手法を学習する。特に生産関数の推定（内生問題への対応、規模の経済および学習効果の推定）、同質財の需要と価格付け、差別化された財の需要と価格付け（垂直的差別化モデル、離散選択モデル）、および動学的意思決定モデルを利用した投資行動などのトピックを扱う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義では実証分析を行う際の問題点とそれを克服するための分析ツールについて解説する。また実際にマイクロデータを用いた演習を行うことで理解を深める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業についての説明
第2回	生産関数(1)	・生産関数の推定 ・内生性の問題
第3回	生産関数(2)	・パネルデータの利用 ・誤差項の系列相関
第4回	生産関数(3)	・投資ショックによる内生性の識別
第5回	学習効果と規模の経済	・費用関数の推定 ・学習効果と規模の経済の識別
第6回	演習(1)	情報処理室にて演習
第7回	同質財市場	・コンダクトパラメータの識別問題 ・小麦輸送市場の分析
第8回	差別化された財市場(1)	・垂直的差別化モデルによる自動車市場の分析
第9回	差別化された財市場(2)	・離散選択モデル(1)
第10回	差別化された財市場(3)	・離散選択モデル(2)
第11回	演習(2)	情報処理室にて演習
第12回	動学モデル(1)	・動学モデルについて ・状態遷移とマルコフ完全均衡 ・価値関数とベルマン方程式
第13回	動学モデル(2)	・Nested Fixed Point アプローチと Two Step 法 ・離散選択モデルによる動学推定
第14回	動学モデル(3)	・シミュレーションによる価値関数の推定 ・米国生コンクリート市場の分析 ・米国自動車市場の分析

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

授業担当者が作成した講義資料を授業で配布する。

## 【参考書】

## 【産業組織論】

- (1) D. Carlton and J. Perloff, Modern Industrial Organization, Harper-Collins, 2005.
- (2) R. Schmalensee and R. Willig, eds., Handbook of Industrial Organization vol.1, North-Holland, 1989.
- (3) M. Armstrong and R. H. Porter ed., Handbook of Industrial Organization vol.3, North-Holland, 2007.
- (4) J. Tirole, the Theory of Industrial Organization, MIT, 1998.

## 【ミクロ経済学】

- (1) Hal R. Varian, Microeconomic Analysis, 3rd ed., Norton, 1992
- (2) 奥野正寛『ミクロ経済学』、東大出版会、2008年

## 【計量経済学】

- (1) J. M. Wooldridge, Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data, MIT, 2002.
- (2) 浅野哲、中村二郎『計量経済学・第二版』、有斐閣、2009年  
・K. E. Train, Discrete Choice Methods with Simulation, 2nd ed., Cambridge, 2009.

## 【成績評価の方法と基準】

課題レポートで評価する(100%)。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【その他の重要事項】

必要に応じて情報処理室で演習を行う。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

実証産業組織論、応用統計学

<研究テーマ>

構造推定を用いた市場分析

<主要研究業績>

1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.
2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

## 【Outline and objectives】

This course provides advanced econometric tools to analyze economic micro data. Especially, structural data analysis approach used in recent empirical industrial economics are covered.

ECN581C1-1

## 特別講義 I A

清水 由美

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語を母語としない留学生が、①フォーマルな場でテーマに沿って意見交換をする。②専門分野の論文を書くために最低限必要な日本語の基礎を固め、まとまった内容の文章を書くことに慣れる。

## 【到達目標】

- (1) 初級レベルの日本語のミスをなくす。
- (2) 中・上級レベルの文型と語彙を使いこなせるようになる。
- (3) 賛否の分かれるテーマについて、授業での話し合いにふさわしい日本語で意見交換ができるようになる。また、司会者として、そのような話し合いを運営できるようになる。
- (4) 事実・他者の意見・自分の意見をきちんと分けて、説得力のある意見文を書けるようになる。
- (5) 自分の書いた文章の間違いに気づく力を身につけ、よりよい表現を使いこなせるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

【4/13 追記、4/15 訂正】

春学期はオンラインで授業をします。授業計画の変更は、学習支援システムで知らせます。このクラスの開始日は4月24日（金）の予定です。それまでに学習支援システムに登録しておいてください。

## 【追記、以上】

## (1) 日本語力の確認

日本語能力試験 N2 レベルの文法についてクイズをし、フィードバックを行う。

## (2) ディスカッションと意見文執筆

- ① 賛否の分かれるテーマについて、必要な情報を集め、内容を理解したうえで、自分の意見をまとめる。=予習
- ② テーマについて、クラスでディスカッションを行う。司会も学生が順番に担当する。
- ③ ディスカッションの内容に基づいて、自分の意見を 500 字程度の文章にまとめる。=宿題
- ④ お互いの意見文を読み合い、質問や助言をし、評価もする。
- ⑤ 自分の書いた原稿と、講師による修正案を読みくらべ、日本語の問題点を見つける。=宿題
- ⑥ ディスカッションの中で見られた口頭表現の問題点について、振り返る。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業の目的と進め方の説明 ・日本語能力の確認 ・ディスカッションのテーマ選定 ・授業支援システムへの登録
第 2 回	・日本語力確認クイズ ① ・ディスカッション① -1	・クイズとフィードバック ・ディスカッションにおける司会者の役割を知る。 ・簡単なテーマについてディスカッションをしてみる。
第 3 回	・日本語力確認クイズ ② ・ディスカッション① -2	・クイズとフィードバック ・意見文のモデルを読み、構成を分析する。 ・意見文を書いてみる。

第 4 回	・日本語力確認クイズ ③ ・ディスカッション① -3	・クイズとフィードバック ・ディスカッションの日本語表現について振り返る。 ・意見文を読み合い、質問や助言を受けて、書いたものを完成させる。
第 5 回	・日本語力確認クイズ ④ ・ディスカッション② -1	・クイズとフィードバック ・資料を読み、ディスカッションの準備をする。
第 6 回	・日本語力確認クイズ ⑤ ・ディスカッション② -2	・クイズとフィードバック ・ディスカッションを行う。 ・意見文の執筆=宿題
第 7 回	・日本語力確認クイズ ⑥ ・ディスカッション② -3	・クイズとフィードバック ・ディスカッションの日本語表現について振り返る。 ・意見文を読み合い、質問や助言をする。 ・意見文の完成=宿題
第 8 回	・日本語力確認クイズ ⑦ ・ディスカッション③ -1	・クイズとフィードバック ・資料を読み、ディスカッションの準備をする。
第 9 回	・日本語力確認クイズ ⑧ ・ディスカッション③ -2	・クイズとフィードバック ・ディスカッションを行う。 ・意見文の執筆=宿題
第 10 回	・日本語力確認クイズ ⑨ ・ディスカッション③ -3	・クイズとフィードバック ・ディスカッションの日本語表現について振り返る。 ・意見文を読み合い、質問や助言をする。 ・意見文の完成=宿題
第 11 回	・日本語力確認クイズ ⑩ ・ディスカッション④ -1	・クイズとフィードバック ・資料を読み、ディスカッションの準備をする。
第 12 回	・日本語力確認クイズ ⑪ ・ディスカッション④ -2	・クイズとフィードバック ・ディスカッションを行う。 ・意見文の執筆=宿題
第 13 回	・日本語力確認クイズ ⑫ ・ディスカッション④ -3	・クイズとフィードバック ・ディスカッションの日本語表現について振り返る。 ・意見文を読み合い、質問や助言をする。 ・意見文の完成=宿題
第 14 回	・「ベスト意見文」を選ぶ ・期末試験（筆記のみ）	・これまでに書いた意見文から自薦・他薦でいちばんよいものを選び、さらに推敲を重ねて完成させ、新聞に投書する。 ・授業内容に基づいた記述式試験問題

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布する。

## 【参考書】

『日本語能力試験対策 日本語総まとめ N2 文法』（アスク）  
※毎回の「日本語力確認クイズ」は、この本の前半から出題する。すでに N2（以上）に合格した学生は買う必要はない（はずである）が、必要を感じる学生は、参考書を購入し、きちんと準備をしておくこと。クイズの範囲は、前の週に予告する。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・日本語力確認クイズ（12 回）= 10 %
- ・授業への参加貢献 = 30 %
- ・課題文（4 回 + 新聞への投書）= 30 %
- ・期末試験 = 30 %

**【学生の意見等からの気づき】**

・とにかく書くことに慣れることを主目的とする。本格的な研究レポートや論文の前段階として、この授業では「意見文」をまとめることとし、そのために、賛否の分かれるテーマについて口頭で意見を述べ合う「ディスカッション」を授業活動に取り入れることにした。

・ディスカッションという形式そのものに不慣れな学生もいるため、「意見を述べ合う」という活動の練習を、初めの回で丁寧に行う。

・日本語表現の間違いを自覚する力が不足していることがわかったので、自分の書いた原稿と講師による修正案との違いをさがす作業を、課すことにした。

**【学生が準備すべき機器他】**

課題文の提出とフィードバックに、授業支援システムの掲示板を使用する。

**【その他の重要事項】**

・特別講義ⅡA（発表のための話しことばの基礎）の同時受講と、秋学期の特別講義ⅠB・ⅡBを受講することが望ましい。

・2020年度に修士論文を提出する予定の学生は、特別講義ⅢA・ⅢBを受講すること。

・初回の授業で、ディスカッションのテーマを決める。話し合ってみることを1つ以上考えてくること。(例) ナイキの厚底シューズは規制すべきか？ クローン技術で、死んだペットの複製を作ることは許されるか？ 女性の化粧は「マナー」か？ 電車の「女性専用車両」は逆差別ではないか？

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>日本語、日本語教育  
<研究テーマ>母語話者が意識化しにくい文法  
<主要研究業績>

・『すばらしき日本語』（2020年、ポプラ新書）  
・『日本語がいき』（2018年、中公文庫）  
・『辞書のすきま すきまの言葉—あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う？』（2009年、研究社）

**【Outline and objectives】**

Basic Japanese for academic speaking and writing.

ECN581C1-2

**特別講義ⅠB**

清水 由美

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本語を母語としない留学生が、自分の研究テーマや関心のある問題について、わかりやすく説得力のある発表をするために、視覚資料を作成し、それを使って口頭発表をするための訓練を行う。

**【到達目標】**

- (1) 書き言葉と話し言葉の違いが大きい日本語の特性を理解し、両者を適切に使いこなせるようになる。
- (2) 自分の研究テーマや関心のある問題について、わかりやすく説得力のある発表をするための、視覚資料（レジュメやPPTスライド）を作成する。
- (3) 視覚資料を用いて10分程度の口頭発表をし、それに対する質疑に応じられるようになる。
- (4) ほかの受講生の発表を聞き、内容について質問や意見交換ができるようになる。
- (5) 自分の書いた文章および自分の口頭発表の形式や内容について、問題点に気づき、修正できるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

- (1) 口頭発表の練習
  - ① 毎回の課題について、各自5分程度で口頭発表をする。
  - ② ほかの受講生の発表を聞き、内容についての質疑と、形式についてのコメントをする。
- (2) 視覚資料（レジュメやスライド）の作成
  - ① 発表の練習課題と並行して、最終発表のための準備（テーマ決定⇒視覚資料作成⇒発表の練習）を進める。
  - ② テーマの選定や資料の作成について、お互いに助言し合う。
- (3) 最終発表
  - ① 各回2～3人ずつ発表をし、内容について質疑応答を行う。司会も学生が順番に担当する。
  - ② ほかの学生の発表について、気づいたことをコメントシートにまとめる。発表者本人は、自分の発表の録画を見て、気づいたことをまとめる。
  - ③ 最終回の授業で、それぞれのコメントシートをもとに講評し合う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の目的と進め方の説明 ・日本語能力の確認 ・最終発表のテーマを考える＝宿題 ・授業支援システムへの登録
第2回	・発表テーマの決定 ・アウトラインを考える	・発表テーマを決め、内容について助言し合う。 ・アウトラインを考える＝宿題
第3回	・口頭発表の練習① ・レジュメとスライドの特性を考える	・優先すべき情報の順番を考えて話す。 ・自分の発表に適した資料の形態を考える。
第4回	・口頭発表の練習② ・各自のテーマについて相談会	・聞き手の興味をひきつける話し方を工夫する。 ・各自のテーマについて、助言をし合う。(以下、毎回必要に応じて)

- 第 5 回 ・口頭発表の練習③ ・キーワードをわかりやすく定義し、説明する。  
・各自のテーマについて相談会
- 第 6 回 ・口頭発表の練習④ ・数字にからむ情報を、対比しながら述べる。  
・各自のテーマについて相談会
- 第 7 回 ・口頭発表の練習⑤ ・数字の変化にからむ情報を、わかりやすく述べる。  
・各自のテーマについて相談会
- 第 8 回 ・口頭発表の練習⑥ ・言い換えや注釈を含む内容を、わかりやすく話す。  
・各自のテーマについて相談会
- 第 9 回 ・口頭発表の練習⑦ ・他者の意見を紹介し、同意や反論を述べる。  
・各自のテーマについて相談会
- 第 10 回 ・口頭発表の練習⑧ ・日本と自国の違いを、対照しながら述べる。  
・各自のテーマについて相談会  
・最終発表の順番と各回の司会者を決める。
- 第 11 回 ・各自のテーマについて、最終相談会  
・来週からの発表にそなえ、内容や形式について、助言し合う。  
・次週発表者の資料を読む＝宿題
- 第 12 回 発表 # 1  
・発表 ⇒ 質疑応答 ⇒ 気づいたことをメモ  
・メモをもとにコメントをまとめる＝宿題
- 第 13 回 発表 # 2  
・発表 ⇒ 質疑応答 ⇒ 気づいたことをメモ  
・コメントシート＝宿題
- 第 14 回 発表 # 3  
・発表 ⇒ 質疑応答 ⇒ 気づいたことをメモ  
・コメントシート＝宿題

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の課題について、どうすればわかりやすく伝えることができるかを考え、実際に時計と鏡を見ながら、声に出して話す練習をしておくこと。各回 1 時間程度必要。
- ・最終発表のテーマは、専門の研究テーマや修士論文とは関係のないものでかまわない。どんな小さなことでもいいので、興味を引かれるものをすなおに選び、どんどん準備を進めること。(4 限に開講される特別講義 II B のレポートのテーマと同じでよい。)

#### 【テキスト（教科書）】

- ・ほぼ毎回、課題のための資料プリントを配布する。

#### 【参考書】

- ・『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習 言い換え、書き換え』（鎌田美千子・仁科浩美、スリーエーネットワーク）
- ・『大学・大学院 留学生の日本語 4 論文作成編』（アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク）

#### 【成績評価の方法と基準】

- ・口頭発表の練習課題（8 回）＝ 30 %
- ・授業への参加貢献＝ 20 %
- ・最終発表資料＝ 25 %
- ・最終口頭発表＝ 25 %

#### 【学生の意見等からの気づき】

視覚資料の作成は、春学期の特別講義 II A で行っており、II A を修了した者がこの I B を受講することを期待していたが、II A を受講しなかった学生も多かったため、I B でも視覚資料の作成について、基礎的なことは練習することにした。

#### 【学生が準備すべき機器他】

発表資料の作成段階での相談などに、授業支援システムを使用する。

#### 【その他の重要事項】

- ・受講生の人数によって、最終発表の回数は変わりうる。またそれによって、口頭発表の練習などの回数も変更される可能性がある。
- ・毎回の口頭発表の練習課題は、なるべくその時々新鮮な話題を選びたいので、課題の内容が予定とは違うものになることもある。
- ・春学期の特別講義 II A（＝口頭発表と視覚資料作成の基礎）を、必ず受講しておくこと。

- ・特別講義 II B（4 限、レポート作成）を同時に受講することが望ましい。最終発表のテーマは、II B の最終レポートのテーマと同じものでよい。
- ・2020 年度に修士論文を提出する予定の学生は、特別講義 III A・B を受講すること。

#### 【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞日本語、日本語教育

＜研究テーマ＞母語話者が意識化しにくい文法

＜主要研究業績＞

- ・『すばらしき日本語』（2020 年、ポプラ新書）
- ・『日本語びいき』（2018 年、中公文庫）
- ・『辞書のすさま すさまの言葉—あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う？』（2009 年、研究社）

#### 【Outline and objectives】

Advanced Japanese for academic presentation.

ECN582C1-1

## 特別講義Ⅱ A

清水 由美

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語を母語としない留学生が、①口頭発表のための視覚資料（PPT スライド、レジュメ）を作成し、②それを使って口頭発表をするための訓練を行う。

## 【到達目標】

- (1) 書き言葉と話し言葉の違いが大きい日本語の特性を理解し、両者を適切に使いこなせるようになる。
- (2) わかりやすく説得力のある発表をするための、視覚資料（レジュメや PPT スライド）を作成する。
- (3) 作成した資料を使って、3分程度の口頭発表をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

【4/13 追記、4/15 訂正】

春学期はオンラインで授業をします。授業計画の変更は、学習支援システムで知らせます。このクラスの開始日は4月24日（金）の予定です。それまでに学習支援システムに登録しておいてください。

## 【追記、以上】

- (1) 発表や視覚資料作成の課題を課す。グループでその課題に取り組み、結果を授業支援システムの掲示板にアップロードする。
  - (2) 問題点をクラスで共有し、必要な知識を整理する。
  - (3) その日学んだことを生かして応用問題に取り組み、課題文を提出する。（＝宿題）
  - (4) 提出された宿題の問題点をクラスで共有し、学んだことを確認する。
- ※不定期に復習クイズを課す。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の目的と進め方の説明 ・日本語能力の確認 ・授業支援システムへの登録
第2回	話しことばと書きことばの違い	・話しことばと書きことばの違いを意識化する。 ・文書作成ソフトによる日本語入力の基本を確認する。
第3回	話しことばと書きことばの違い	・話しことば ⇒ 書きことばの変換演習
第4回	話しことばと書きことばの違い	・書きことば ⇒ 話しことばの変換演習
第5回	日本語のミスを意識化する	・ミスを見つける ・ミスを修正する
第6回	PPT スライドの作成	・見出しをつける練習 ・簡条書きの練習
第7回	PPT スライドの作成	・見出しをつける練習 ・簡条書きの練習
第8回	PPT スライドを使って話す	作成したスライドを使って口頭発表をする
第9回	レジュメの作成	・書かれた資料の要点を見つける ・要約する
第10回	レジュメの作成	・アウトラインを考える ・アウトラインに肉付けをする
第11回	レジュメを使って話す	作成したレジュメに沿って口頭発表をする

- 第12回 グループ発表の準備 ・指定されたテーマに沿って、発表の準備をする。（スライドとレジュメの作成。口頭発表の練習。）
- 第13回 グループ発表 ・指定されたテーマに沿って、グループで発表をする。  
・発表内容についての質疑応答。
- 第14回 期末試験 期末試験は筆記のみ。  
授業の振り返り

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

ほぼ毎回、課題のための資料プリントを配布する。

## 【参考書】

- ・『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習 言い換え、書き換え』（鎌田美千子・仁科浩美、スリーエーネットワーク）
- ・『大学・大学院 留学生の日本語4 論文作成編』（アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク）

## 【成績評価の方法と基準】

- ・話し合いへの参加貢献 30 %
- ・クイズ（不定期） 10 %
- ・課題 20 %
- ・期末試験 40 %

## 【学生の意見等からの気づき】

クラスの数によっては、活動や課題のフィードバックが十分にできないため、グループワークを取り入れ、グループのメンバーの中で役割分担をして、口頭発表に関わる準備・練習・実践のさまざまな局面を、できるだけ多くの人が体験できる形式にした。

## 【学生が準備すべき機器他】

課題の提出などに、授業支援システムを使用する。

## 【その他の重要事項】

- ・特別講義ⅠA（3限、ディスカッションとアカデミック・ライティングの基礎）の同時受講と、秋学期の特別講義ⅠB・ⅡBを受講することが望ましい。
- ・2020年度に修士論文を提出する予定の学生は、特別講義ⅢA・ⅢBを受講すること。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>日本語教育、日本語文法  
<研究テーマ>母語話者が意識化しにくい文法  
<主要研究業績>

- ・『すばらしき日本語』（2020年、ポプラ新書）
- ・『日本語びいき』（2018年、中公文庫）
- ・『辞書のすきま すきまの言葉—あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う？』（2009年、研究社）

## 【Outline and objectives】

Basic Japanese for academic presentation.

ECN582C1-2

## 特別講義ⅡB

清水 由美

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語を母語としない留学生が、日本語で専門分野のレポート・論文を書くために必要な文章の構成を学び、実際にレポートを書き上げる。

## 【到達目標】

- (1) わかりやすく説得力のあるレポート・論文を書くための、表現や文章構成を身につける。
- (2) 論理的構成の文章を、十分な速さで目的に沿って読み、理解できるようにする。
- (3) 自分の研究テーマや関心のある問題について、明解で説得力のあるレポート（図表や資料を別にして3,000字程度）を書く。
- (4) ほかの人が書いた文章を、一定の速さで、かつ、批判的に読むことができるようになる。
- (5) 自分の書いた日本語の問題点に気づき、それを修正することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

典型的な論文構成の流れに沿って、序論から結論および参考文献リストにいたるまでの、各部でよく使われる文型・表現と展開パターンを学ぶ。各回の授業の流れは、原則として以下のとおり。最後に3,000字程度のレポートを書いて提出する。

- (1) テキストの指定範囲を予習してくる【＝宿題】
- (2) 予習確認クイズとフィードバック、質疑応答
- (3) 課題文の作成・提出【＝宿題】
- (4) 提出した課題文のフィードバック：講師による修正案と読みくらべ、自分が書いた文章の問題点を見つける訓練

※上記と並行して、各自のテーマに沿ったレポートの準備を進め、必要に応じて授業内でその相談と助言を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	・オリエンテーション ・テーマを考える	・授業の目的と進め方の説明 ・日本語能力の確認 ・レポートのテーマを考える＝宿題
第2回	・テキスト1、2課： 作文の基本 ・テーマ相談会	・授業支援システムへの登録 ・レポートや論文における書きこ とばの基本を確認する。 ・テーマについて助言し合う。
第3回	・テキスト11課：引 用	・引用のマナーを学ぶ ・文献リスト作成＝宿題 ・引用文を書く＝宿題
第4回	・テキスト3課：課題 の提示 ・前回宿題のフィード バック	・課題の提示文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正 点を見つける。
第5回	・テキスト4課：目的 の提示 ・前回宿題のフィード バック	・目的の提示文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正 点を見つける。

第6回	・テキスト5課：定義 と分類 ・前回宿題のフィード バック	・定義と分類の文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正 点を見つける。
第7回	・テキスト6課：図表 の提示 ・前回宿題のフィード バック	・必要な図表を探し（作成し）、 提示する文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正 点を見つける。
第8回	・テキスト7課：変化 の形容 ・前回課題のフィード バック	・データを説明する文を書く＝ 宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正 点を見つける。
第9回	・テキスト8課：対比 と比較 ・前回課題のフィード バック	・データを説明する文を書く＝ 宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正 点を見つける。
第10回	・テキスト9課：原因 の考察 ・前回課題のフィード バック	・原因を考察する文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正 点を見つける。
第11回	・テキスト10課： 列挙 ・前回課題のフィード バック	・序論～本論の中で列挙を含む文 を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正 点を見つける。
第12回	・テキスト12課：同 意と反論 ・前回課題のフィード バック	・要約して引用し、それに対する 意見を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正 点を見つける。
第13回	・テキスト13-14課： 帰結、結論の提示 ・前回課題のフィード バック	・帰結を含む文と結論を書く＝ 宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正 点を見つける。
第14回	・レポート提出前最終 相談会 ・レポート提出 ・授業評価アンケート	・おおよその完成稿を持ち寄り、 お互いに読み合い、助言し合う。 ・レポートの完成と提出（締め切 りは授業終了時）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

『大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』（アカデミック・ジャ  
パニーズ研究会編著、アルク）

## 【参考書】

必要があれば、授業中に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・予習確認クイズ（12回）＝20%
- ・授業への参加貢献＝10%
- ・各回の課題文＝30%
- ・最終レポート＝40%

## 【学生の意見等からの気づき】

毎回の課題のフィードバックは修正案を渡したうえで、あとは自学  
自習にまかせていたが、自分の日本語の問題点に気づくことは予想  
以上に難しいらしいことがわかった。そのため、授業時間内に原文  
と講師による修正案を読みくらべ、気づいた違いを言語化する活動  
を取り入れることにした。

## 【学生が準備すべき機器他】

課題文の提出と添削に、授業支援システムの掲示板を利用する。

## 【その他の重要事項】

- ・春学期の特別講義ⅠA・ⅡA修了と同程度の日本語力を有する学  
生を対象とする。
- ・特別講義ⅠB（3限、口頭発表と視覚資料作成）の同時受講が望  
ましい。最終レポートのテーマは、ⅠBの発表テーマと同じもので  
よい。
- ・2020年度に修士論文を提出する予定の学生は、特別講義ⅢA・Ⅲ  
Bを受講すること。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>日本語、日本語教育  
<研究テーマ>母語話者が意識化しにくい文法  
<主要研究業績>

- ・『すばらしき日本語』（2020年、ポプラ新書）
- ・『日本語びいき』（2018年、中公文庫）
- ・『辞書のすきま すきまの言葉—あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う？』（2009年、研究社）

【Outline and objectives】

Advanced Japanese for academic writing.

ECN583C1-1

特別講義Ⅲ A

大場 理恵子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門分野での修士論文作成と口頭発表に必要な日本語力を身に付け、自分の修士論文作成に活かす（対象：留学生）。

【到達目標】

- (1) 論文で使用されている文型・表現・語彙を理解し、自分の修士論文で使用できるようになる。
- (2) 自分の修士論文の概要を他者が理解できるように適切な日本語で発表できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【春学期の少なくとも前半はオンラインでの授業になる。各回の授業計画については、学習支援システムで説明する。本授業の開始日は4月24日とする。この日に具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。】

- ①講義と演習によって他者の論文で使用されている日本語の文型・表現・語彙などを分析し、発表する。
- ②各自の修論作成を進捗させ、自己チェック、クラスでの他者チェック、教員によるチェックによって修正する。
- ③学科での修論発表ワークショップに備えて、発表練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	①授業の目的や方法を理解する ②各自の修論の構想を書く
第2回	論文の構成・引用の仕方	①専門論文の構成を分析・理解する ②専門分野の引用の仕方を理解する
第3回	論文表現の分析<序論-研究対象と背景>	①序論の研究対象と背景の書き方を理解する ②論文の該当部分を分析する
第4回	論文表現の分析<序論-先行研究の提示>	①前回の分析を発表する ②序論の先行研究の提示部分の書き方を理解する
第5回	論文表現の分析<序論-研究目的と研究行動の概略>	①前回の分析を発表する ②序論の研究目的と研究行動の概略部分の書き方を理解する ③論文の該当部分を分析する
第6回	論文執筆および検討<序論>	①各自執筆した序論部分をお互いに読みあい、質問・アドバイスする ②執筆した序論部分の日本語を適切に修正する
第7回	論文表現の分析<本論-研究方法>	①本論の研究方法部分の書き方を理解する ②論文の該当部分を分析する
第8回	論文表現の分析<本論-考察>	①前回の分析を発表する ②本論の考察部分の書き方を理解する ③論文の該当部分を分析する

- 第 9 回 論文執筆<本論> ①各自本論部分を執筆する  
②執筆した本論部分の日本語を適切に修正する
- 第 10 回 論文執筆および検討<本論> ①各自執筆した本論部分をお互いに読みあい、質問・アドバイスする  
②執筆した本論部分の日本語を適切に修正する
- 第 11 回 ワークショップ用発表練習 1 ①学科でのワークショップに備えて発表練習する  
②お互いにアドバイスしあう  
③適切な日本語に修正する
- 第 12 回 ワークショップ用発表練習 2 ①前回のアドバイスを活かしてよりよい発表をする  
②お互いにアドバイスしあう  
③適切な日本語に修正する
- 第 13 回 論文表現の分析<結論> ①結論部分の書き方を理解する  
②論文の該当部分を分析する
- 第 14 回 論文表現の分析<結論> ①前回の分析を発表する  
②文献リストの書き方を理解する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

- ①「留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック」二通信子・大島弥生ほか、東京大学出版会、2009 年、2700 円  
②適宜プリントを配布する。

#### 【参考書】

必要に応じて、授業中に指示する。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業参加度、課題、小テスト、ワークショップ練習で総合的につけます。ワークショップ用練習の発表をしなかった場合、単位は取れません。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生からの要望により、必要に応じて日本語での就職活動に必要なコミュニケーションについて講義・演習する。

#### 【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

#### 【その他の重要事項】

- ・今年度に修士論文を提出する予定の学生のみが受講できます（1 年生は受講できません）
- ・1 年生で特別講義ⅠⅡを受講しておくことが望ましい。
- ・秋学期の特別講義Ⅲ B を受講することによって各自の修論完成に繋がるため、連続しての受講が望ましい。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>日本語教育・日本語表現教育  
<研究テーマ>日本語学習者および母語話者を対象とする効果的な日本語表現法教育  
<主要研究業績>  
『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』ひつじ書房、2005  
『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』ひつじ書房、2012

#### 【Outline and objectives】

You can acquire Japanese proficiency for writing master's thesis and presentation.

ECN583C1-2

## 特別講義Ⅲ B

大場 理恵子

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門分野での修士論文作成と口頭発表に必要な日本語力を身に付け、自分の修士論文を作成・修正する（対象：留学生）

#### 【到達目標】

- (1) 論文で使用される文型・表現・語彙を適切に使用し、自分の修士論文を執筆する。  
(2) 自分の修士論文の概要を他者が理解できるように適切な日本語で発表できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

- ①各自の修論作成を進捗させ、自己チェック、クラスでの他者チェック、教員によるチェックによって修正する。  
③学科での修論発表ワークショップおよび修論審査に備えて、発表練習を行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

##### 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	①授業の目的や方法を理解する ②各自の修論執筆の進捗と今後の計画を確認する
第 2 回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第 3 回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第 4 回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第 5 回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第 6 回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第 7 回	ワークショップ用発表練習	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第 8 回	ワークショップ用発表練習	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第 9 回	ワークショップ用発表練習	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する

第10回	ワークショップ用発表練習	①前回の練習を活かしてよりよい発表をする ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第11回	ワークショップ用発表練習	①前回の練習を活かしてよりよい発表をする ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第12回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第13回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第14回	まとめ	学習を振り返る

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

- ①「留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック」二通信子・大島弥生ほか、東京大学出版会、2009年、2700円
- ②適宜プリントを配布する。

## 【参考書】

必要に応じて、授業中に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業内課題（50％）宿題を含む平常点（50％）

## 【学生の意見等からの気づき】

修論作成につながる内容以外にも、日本社会理解・日本語運用に関する授業内容を学生のニーズに応じて行います。

## 【学生が準備すべき機器他】

各自パソコンを持参すること。

## 【その他の重要事項】

- ・今年度に修士論文を提出する予定の学生のみが受講できます（1年生は受講できません）
- ・1年生で特別講義ⅠⅡを受講しておくことが望ましい。
- ・春学期の特別講義ⅢAを受講しておくことが必要。未受講の場合は初回に相談すること

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>日本語教育・日本語表現教育  
<研究テーマ>日本語学習者および母語話者を対象とする効果的な日本語表現法教育  
<主要研究業績>  
『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』ひつじ書房、2005  
『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』ひつじ書房、2012

## 【Outline and objectives】

You can acquire Japanese proficiency for writing master's thesis and presentation.

ECN522C1-1

## 応用マクロ経済学D A

森田 裕史

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、マクロ経済の計量分析で用いられる時系列モデル、及び、それを推計する手法としてのベイズ推定について学習する。ベイズ推定の基本的な方法に加えて、(1)VARモデル、(2)状態空間モデル、(3)マルコフ転換モデル、平滑推移モデルの時系列モデルを取り上げる。

## 【到達目標】

ベイズ推定の方法、及び、各種の時系列モデルを理解するとともに、実際のデータに推計手法を応用し、自ら分析できるようになる。そのため、本講義ではMatlabを用いたプログラミングの実習も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

板書を用いた講義を行うとともに、適宜、Matlabを用いた実習を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 春学期前半

回	テーマ	内容
第1回	ベイズ推計(1)	確率論の復習
第2回	ベイズ推計(2)	事後分布の計算方法
第3回	線形回帰モデルのベイズ推計(1)	事前共役であるケースの事後分布
第4回	線形回帰モデルのベイズ推計(2)	事前共役でないケースの事後分布
第5回	線形回帰モデルのベイズ推計(3)	Matlabを用いた線形回帰モデルのベイズ推定
第6回	VARモデル(1)	VARモデルとは
第7回	VARモデル(2)	構造VARモデル
第8回	VARモデル(3)	Matlabを用いたVARモデルのベイズ推定
第9回	状態空間モデル(1)	カルマンフィルタとカルマンスムーザー
第10回	状態空間モデル(2)	Matlabを用いた状態空間モデルのベイズ推定
第11回	マルコフ転換モデル(1)	マルコフ転換モデルの構造
第12回	マルコフ転換モデル(2)	Matlabを用いたマルコフ転換モデルのベイズ推定
第13回	平滑推移モデル(1)	平滑推移モデルの構造
第14回	平滑推移モデル(2)	Matlabを用いた平滑推移モデルのベイズ推定

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

## 【参考書】

Kim, C-J, Nelson, C.R. (1999). State-Space Models with Regime Switching. The MIT Press.

## 【成績評価の方法と基準】

授業で取り上げた手法を用いて自ら分析を行った結果をまとめたタームペーパーに基づいて成績を評価する。(100%)

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

Matlab を PC にインストールしておいて下さい。

**【その他の重要事項】**

この授業では、ベイズ推計を用いた実証分析の手法を講義します。ベイズ推計についての事前知識は不要ですが、統計学や計量経済学の知識を理解した上で授業を履修して下さい。

**【担当教員の専門分野等】**

＜専門領域＞マクロ経済学・時系列分析

＜研究テーマ＞日本の金融財政政策の効果に関する分析

＜主要研究業績＞Morita, H., "The Effects of Anticipated Fiscal Policy Shock on Macroeconomic Dynamics in Japan," *The Japanese Economic Review* Vol.68 No.3 September, pp.364-393, 2017.

**【Outline and objectives】**

In this course, the students learn about the estimation method of the time-series model using Bayesian analysis, which are widely employed in the macro-econometric analysis. In addition to a basic Bayesian estimation method, the topics introduced in this lecture are the VAR model, state-space model, Markov switching model and smooth transition model.

ECN522C1-2

**応用マクロ経済学 D B**

蓮見 亮

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

近年、経済政策の現場では、「新しいケインジアンのマクロ経済モデル」を念頭に置いて議論する方向にあります。この授業では、トピックを絞った上で最適化理論（家計の効用最大化、企業の利潤最大化）に基づくマクロ経済学の考え方を学んでいきます。

数式を使った解説がメインになりますが、それぞれの変数の持つ意味がイメージできれば、図のみに頼るよりもかえって理解がはかどるはず（全くの数式アレルギーの人には薦められませんが）。網羅的な説明は目標としないので、極力やさしく丁寧に解説します。理解を深めるために、必要に応じてコンピュータによる数値計算などの結果も示します。

官公庁や民間シンクタンクのエコノミストとして動学一般均衡モデルを運用可能になることを到達目標とします。

**【到達目標】**

マクロ経済学の基礎的概念の理解に基づき、応用的なモデルを用いた高度な政策分析を行えるようになることを到達目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

講義形式を主とします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
1.	イントロダクション	マクロ経済モデルの基本的な考え方
2.	ソローモデル（1）	経済成長、生産関数、資本ストックの蓄積、消費と投資のトレードオフ
3.	数学の準備	指数関数・対数関数、偏微分、テイラー展開
4.	ソローモデル（2）	定常状態の計算、成長会計
5.	ラムゼイモデル（1）	効用関数
6.	ラムゼイモデル（2）	ラグランジュの未定乗数法、オイラー方程式の導出
7.	ラムゼイモデル（3）	定常状態への経路の計算
8.	税制モデル	税制の変更シミュレーション
9.	RBC モデル（1）	技術ショック、労働供給の内生化
10.	RBC モデル（2）	技術ショックに対するインパルス応答、景気循環
11.	ニューケインジアン・モデル（1）	独占的競争モデル
12.	ニューケインジアン・モデル（2）	ニューケインジアン・フィリップス曲線、IS 曲線
13.	ニューケインジアン・モデル（3）	解の存在条件、最適金融政策
14.	まとめと復習	講義を振り返り、最適化理論に基づくマクロ経済学の体系を確認します。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業中にも解説しますが、高校数学程度の指数関数・対数関数、微分・積分、数列を復習しておいてください。また、余力があれば、極限、自然対数、 $e$ （ネイピア数）を予習しておいてください。週3時間程度の準備学習・復習が単位認定の目安となります。

**【テキスト（教科書）】**

蓮見 亮 (著) 『動学マクロ経済学へのいざない』、日本評論社、2020 年  
必要に応じて授業支援システム経由で講義ノートを配布します。

**【参考書】**

特になし（授業中に指示します）。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 40%、割り当てた練習問題の解答のプレゼンテーション（複数回指示する）60%の配点で成績評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度新規科目につき該当なし。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>

マクロ経済学、計量経済学（ベイズ統計学）

<研究テーマ>

マクロ経済モデルによるシミュレーション分析

<主要研究業績>

Ono, Arito, Ryo Hasumi, and Hideaki Hirata, “Differentiated use of small business credit scoring by relationship lenders and transactional lenders: Evidence from firm-bank matched data in Japan”, *Journal of Banking & Finance* 42, 371-380, 2014.

Hasumi, Ryo and Hideaki Hirata, “Small Business Credit Scoring and Its Pitfalls: Evidence from Japan”, *Journal of Small Business Management* 52, 555-568, 2014.

Hasumi, Ryo, Hirokuni Iiboshi, and Daisuke Nakamura, “Trends, Cycles and Lost Decades – Decomposition from a DSGE Model with Endogenous Growth”, *Japan & The World Economy* 46, 9-28, 2018.

Hasumi, Ryo, Hirokuni Iiboshi, Tatsuyoshi Matsumae, and Daisuke Nakamura. “Does a Financial Accelerator Improve Forecasts during Financial Crises?: Evidence From Japan with Prediction-pool Methods”, *Journal of Asian Economics*, 60, 45-68, 2019.

**【Outline and objectives】**

In recent years, macroeconomic policy has often been discussed in line with New Keynesian macroeconomic models. In this class, we will learn a macroeconomic theory based on optimization, which includes utility maximization of households and profit maximization of firms.

ECN521C1-1

**応用ミクロ経済学 D A**

池上 宗信

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

応用ミクロ経済学の各分野で頻出する、リスクと不完全情報を学びます。リスク、アドバース・セレクション、スクリーニングの応用例として保険、シグナリングの応用例として就学、モラル・ハザードの応用例として、経営者と信用の借り手を取り上げます。

**【到達目標】**

リスクと不完全情報の理論、手法の基礎を習得するだけでなく、学生各自の応用ミクロ経済学の研究分野におけるリスクと不完全情報のモデルを習得、応用できるようになることが到達目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。教員による講義が中心になりますが、授業中に学生に演習問題を解いてもらいます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	リスク 1	期待値、期待効用、リスクプレミアム、確実性同値額
第 2 回	リスクと保険 1	状態空間分析、保険需要、保険会社の期待利潤
第 3 回	リスクと保険 2	独占的な保険会社、完全競争保険市場
第 4 回	アドバース・セレクション 1	完全情報のケース、不完全情報のケース、保険の例
第 5 回	スクリーニング	保険の例
第 6 回	アドバース・セレクション 2	信用市場の例
第 7 回	中間試験	前回までの内容を復習。試験。
第 8 回	シグナリング 1	就学・労働市場の例、分離均衡
第 9 回	シグナリング 2	就学・労働市場の例、一括均衡
第 10 回	モラル・ハザード 1	株主と経営者の例
第 11 回	モラル・ハザード 2	信用市場の例
第 12 回	モラル・ハザード 3	効用関数の逆関数
第 13 回	モラル・ハザード 4	モラル・ハザードのコスト
第 14 回	期末試験	前回までの内容を復習。試験。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは指定しませんが、予習として読んできてもらう 20 ページほどの文章を事前に指定します。

**【参考書】**

神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社

神戸伸輔（2004）『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社

Laffont, J.-J., and Martimort, D. (2002) *The Theory of Incentives : The Principal-Agent Model*. Princeton University Press.

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

中間試験 30 %、期末試験 30 %、期末レポート 20 %、平常点 20 % で評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

本講義を担当するのは 2019 年度に続き 2 度目です。2019 年度の学生からは講義の方法などについて特に意見はありませんでした。また、2019 年度の学生の中に博士後期の学生はいませんでした。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>

開発ミクロ経済学

<研究テーマ>

家計の異時点間の意思決定と貧困動学、東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険

<主要研究業績>

① “Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” American Journal of Agricultural Economics, Volume 101, Issue 3, pp. 672-691. 2019.

② “Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. The Economics of Poverty Traps, chapter 6. pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

③ “Experimental Evidence on the Drivers of Index-Based Livestock Insurance Demand in Southern Ethiopia.” World Development, Vol. 78, pp.324-340. 2016.

**【Outline and objectives】**

We will study risk and incomplete information, which appear frequently in each field of Applied Microeconomics. We will study insurance as application of risk, adverse selection, and signaling, schooling as application of signaling, manager and credit as applications of moral hazard. Our target is that each of us will become able to study each own's research topic in Applied Microeconomics by applying theory of risk and incomplete information.

ECN521C1-2

**応用ミクロ経済学 D B**

佐柄 信純

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ミクロ経済学 B で扱えなかった応用分野の問題を題材を厳選して講義します。顕示選好理論、労働市場、異時点間の意思決定、不確実授業コード：性下の意思決定、協力ゲームの理論などを扱います。

**【到達目標】**

ミクロ経済学でモデル化されていない経済現象や応用問題を明確に意識し、どのように理論を拡充する必要があるかを、自分の頭で考え、研究を進められるようになることを最終目標にします。博士後期課程の学生には、モデル構築の訓練を行います。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

教科書は使用せず、講義ノートにもとづき授業を進めます。必要に応じて、問題演習を行います。初等的な微積分にある程度習熟していることを前提にします。これらの予備知識が不足している受講者は、事前に必要な数学を独習した上で受講して下さい。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	顕示選好理論 (1)	顕示選好の弱公準
第 2 回	顕示選好理論 (2)	顕示選好と価格指数
第 3 回	労働市場の分析 (1)	効用最大化と労働需要
第 4 回	労働市場の分析 (2)	利潤最大化と労働供給
第 5 回	労働市場の分析 (3)	賃金の決定と非自発的失業
第 6 回	異時点間の意思決定 (1)	2 期間モデル
第 7 回	異時点間の意思決定 (2)	世代重複と景気循環
第 8 回	異時点間の意思決定 (3)	公債発行と財政政策
第 9 回	不確実性下の意思決定 (1)	期待効用と危険に対する態度
第 10 回	不確実性下の意思決定 (2)	資産選択, 保険, モラル・ハザード
第 11 回	不確実性下の意思決定 (3)	情報の非対称性と逆選択
第 12 回	不確実性下の意思決定 (4)	教育とシグナリング
第 13 回	協力ゲーム (1)	譲渡可能効用ゲーム, 譲渡不可能効用ゲーム
第 14 回	協力ゲーム (2)	市場ゲームのコア

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

使用しない。

**【参考書】**

開講時にリーディング・リストを提示する。

**【成績評価の方法と基準】**

受講者は講義の最後に演習問題を解き、毎回それを提出することで平常点が与えられます。最終講義に試験を行います。平常点 (20 %)、試験 (80 %) の総合評価。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します。

**【担当教員の専門分野】**

＜専門領域＞

函数解析学，最適制御理論

＜研究テーマ＞

一般均衡理論，協力ゲーム理論，最適成長理論，数理マルクス経済学

＜主要研究業績＞

[1] "Decomposability, convexity and continuous linear operators in  $L^1(E)$ : The case for saturated measure spaces", *Linear and Nonlinear Analysis* **5** (2019), 113–119.

[2] "Recursive variational problems in nonreflexive Banach spaces with an infinite horizon: An existence result", *Discrete and Continuous Dynamical Systems - Series S* **11** (2018), 1219–1232.

[3] "Fatou's lemma, Galerkin approximations and the existence of Walrasian equilibria in infinite dimensions", joint with M. Ali Khan, *Pure and Applied Functional Analysis* **2** (2017), 317–355.

**【Outline and objectives】**

In this course several topics of applied microeconomics are lectured. Revealed preferences, utility maximization and labor supply, intertemporal decisions, decisions under uncertainty, cooperative games are the main theme.

ECN534C1-1

**経済学史 D A**

平瀬 友樹

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義は，経済理論の歴史について解説を行うものである。なお，経済史ではなく，経済学＝理論分析の歴史を扱う科目であることに注意すること。

**【到達目標】**

現代の経済学は，新古典派を中心とする主流派とポストケインジアンやマルクス経済学といった非主流派とに分かれて，それぞれの研究を行っている。学生は，本科目を履修することによって，これらの主流派と非主流派の対立軸にのみ目を奪われるという狭い思考に陥ることなく，それぞれの研究成果を十分に活用していける広い視野もつことができるはずである。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

講義は，①主流派だけではなく非主流派についても詳細な解説を行う，②対象の学説と最新の理論との関連性についても明らかにする，という2つの観点から構成されている。これは，その歴史が新しい（異質な）思考の「積み重ね」というよりも，いくつかの思考の「繰り返し」として表現されるためである。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****秋学期後半**

回	テーマ	内容
第1回	学説史研究の意義	大学での研究および社会教育における本講義の意義
第2回	アダム・スミスおよびそれ以前の経済理論について	重商主義と重農主義について
第3回	リカードの経済理論について	差額地代論，比較生産費説を中心に
第4回	ミルとマルクスの経済理論	リカード経済学の展開
第5回	新古典派経済学の成立と限界革命について	現代的な価値論の確立・科学革命とは何か
第6回	新古典派経済学に対する挑戦	独占的競争市場の分析を中心に
第7回	ケインズ革命以前のマクロ経済思想	オーストリア学派について
第8回	ケインズ革命の普及	ヒックスによる IS - LM 分析・その功績と功罪について
第9回	ケインズ革命にみる理論と実際	消費関数および投資関数をめぐる論争，理論と現実の捉え方
第10回	ケインズ自身の経済理論と後継者たちとの差異について	名目賃金の硬直性をめぐる論争
第11回	新古典派総合の終焉	自然失業率仮説とスタグフレーション
第12回	新しいマクロ経済学の誕生 ルーカス批判とは何か	新自由主義との関連について
第13回	現代の経済学について	ルーカス批判を超えて・RBCを中心に
第14回	総復習	授業内試験およびその解説・この講義で学んだことをどう活かすか

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。また、本科目は経済史ではなく、経済学史=理論の歴史である。そのため、現代経済学関連科目をすでに履修済みか、あるいはミクロ経済学・マクロ経済学について大学院レベルの予備知識があることを前提とした講義を行う。

**【テキスト（教科書）】**

追って指示する。

**【参考書】**

井上義朗『コア・テキスト 経済学史』新世社  
その他にも必要に応じてその都度指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

学期末試験（60％）および平常点（40％）によって評価する。ただし、受講者数に応じて、記述試験をレポートや研究発表に代えることがある。

**【学生の意見等からの気づき】**

開講初年度につき該当しない。

**【その他の重要事項】**

周りの迷惑になるので私語は厳禁とします。

**【Outline and objectives】**

This course introduces the history of economic thought to students taking this course. In addition, the aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand economic theory, especially micro economics and Marxian economics.

ECN532C1-1

**ジェンダー経済論 D A**

原 伸子・山本 真鳥・板井 広明

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義の主題は、ジェンダーの概念を経済学に適用したときに、どれだけ新しい分析視点を切り開くことができるのかを示し、それを既存の経済学の再検討につなげることである。そのためにジェンダー概念の基礎的検討を行う。さらに博士課程では概念のもつ現実関連性を問うために、ジェンダー政策の諸問題を取り扱う。ジェンダー概念は本来、学際的性格をもっている。経済学専攻のみならず、他専攻からの履修をおおいに歓迎する。

**【到達目標】**

受講者は本講義において、まずはじめにフェミニズム思想とジェンダー概念の形成史を学んだ後に、日本のジェンダー開発に関する国際的評価と男女共同参画、経済人類学、そして経済理論におけるジェンダー問題を学ぶ。そのことによって、ジェンダー概念のもつ広いパースペクティブを身につける。それは同時に、社会科学におけるジェンダー概念の批判的性格を学び、現実関連性を問うことでもある。とくに本講義では博士課程の学生を対象に、ジェンダー政策の諸問題を検討する力を身につけることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

ジェンダー経済論 DA・DB は秋学期集中で行われ、3人の教員によるオムニバス形式をとっている。パワーポイントやビデオを用いながら授業を行う。受講者は DA と DB の両方を連続して受講することががぞましい。なお、授業理解度を高めるために、受講生には毎回リアクション・ペーパーを提出してもらう予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】****秋学期前半**

回	テーマ	内容
1回	ジェンダー概念について(1) (担当：板井)	20世紀中葉にジェンダー概念が生まれた歴史的経緯やセクシュアリティ概念などとの相違について、概説する。
2回	ジェンダー概念について(2) (担当：板井)	20世紀中葉にジェンダー概念が生まれた歴史的経緯やセクシュアリティ概念などとの相違について、概説する。
3回	ジェンダーと歴史(1) (担当：板井)	ジェンダー概念の前史としての18世紀末以降の英仏のフェミニズムの歴史について概説する。
4回	ジェンダーと歴史(2) (担当：板井)	ジェンダー概念の前史としての18世紀末以降の英仏のフェミニズムの歴史について概説する。
5回	ジェンダーと社会(1) (担当：板井)	ジェンダーに関連する文化、表象、メディアの諸問題を取り上げる。
6回	ジェンダーと社会(2) (担当：板井)	ジェンダーに関連する文化、表象、メディアの諸問題を取り上げる。
7回	ジェンダーと資本主義(1) (担当：板井)	フェデリーチ『キャリバンと魔女』の資本主義成立期における女性の排除、スミス『国富論』などに見られるジェンダー概念の欠如について、フェミニスト経済学の観点から経済学史を振り返る。

8回	ジェンダーと資本主義(2) (担当：板井)	フェデリーチ『キャリバンと魔女』の資本主義成立期における女性の排除、スミス『国富論』などに見られるジェンダー概念の欠如について、フェミニスト経済学の観点から経済学史を振り返る。
9回	日本のジェンダー開発に関する国際的評価 (担当：山本)	ジェンダー開発指数と CEDAW
10回	ジェンダーと学術 (担当：山本)	日本学術会議の男女共同参画調査から
11回	経済人類学と女性の仕事(1) (担当：山本)	経済人類学の考え方とジェンダー役割分担
12回	経済人類学と女性の仕事(2) (担当：山本)	女性の仕事の特殊性・普遍性
13回	ジェンダーの越境	トランスジェンダーという存在
14回	女性と近代化 (担当：山本)	女性の割礼・性器切除とフェミニズム、サティ(寡婦自殺)

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

とくに指定しない。必要な文献は授業で適宜指示する。

**【参考書】**

- ・山本真鳥編著『性と文化』法政大学出版局、2004年。
- ・板井広明編『金融化、雇用、ジェンダー不平等：国際シンポジウム』お茶の水女子大学ジェンダー研究所、2017年。
- ・原伸子著『ジェンダーの政治経済学－福祉国家・市場・家族』有斐閣、2016年。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点25%、討論への参加25%、期末レポート50%。

**【学生の意見等からの気づき】**

前回のアンケートでは受講生からとくに意見はありませんでしたが、積極的な参加型の授業にしていきたいと思っています。

**【学生が準備すべき機器他】**

パワーポイント、ビデオ使用

**【担当教員（原）の専門分野等】**

<専門領域>経済理論、経済学説史  
<研究テーマ>福祉国家と家族の政治経済学  
<主要業績>原伸子『ジェンダーの政治経済学』有斐閣、2016年。

**【担当教員（板井）の専門分野等】**

<専門領域>経済学、経済学説・経済思想、社会思想史  
<研究テーマ>18世紀末ブリテンにおける女性論の諸相：功利主義的フェミニズムの可能性  
<主要業績>

「古典的功利主義における多数と少数」『功利主義の逆襲』ナカニシヤ出版、2017年。

編著『金融化、雇用、ジェンダー不平等：国際シンポジウム』お茶の水女子大学ジェンダー研究所、2017年。

Itai Hiroaki, Inoue Akira, Kodama Satoshi, "Rethinking Nudge: Libertarian Paternalism and Classical Utilitarianism", The Tocqueville Review 37(1) 81-98, Jul 2016.

**【担当教員（山本）の専門分野等】**

<専門領域>文化人類学  
<研究テーマ>ジェンダーと交換理論  
<主要業績>編著『性と文化』法政大学出版局、2004年、「サモア社会における女性の仕事の復興」原伸子編『市場とジェンダー』法政大学出版局、2005年、『グローバル化する互酬性』弘文堂、2018年。

**【Outline and objectives】**

The focus is on the application of the gender perspective on economic analyses, which is rather new in the tradition of economics as a discipline and is expected to provide a new development in this field. In order to realize the ambitious endeavor, it is important to achieve the basic gender concepts. Gender studies is interdisciplinary in itself and we welcome students in other departments.

ECN532C1-2

**ジェンダー経済論DB**

原 伸子・山本 真鳥・板井 広明

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義の主題は、ジェンダーの概念を経済学に適用したとき、どれだけ新しい分析視点を切り開くことができるのかを示し、それを既存の経済学の再検討につなげることである。そのためにジェンダー概念の基礎的検討を行う。さらに博士課程では概念のもつ現実関連性を問うためにジェンダー政策の諸問題を取り扱う。ジェンダーは本来、学際的性格をもっている。経済学専攻のみならず、他専攻からの履修をおおいに歓迎する。

**【到達目標】**

受講者は本講義において、まずはじめにフェミニズム思想とジェンダー概念の形成史を学んだ後に、日本のジェンダー開発に関する国際的評価と男女共同参画、経済人類学、そして経済理論におけるジェンダー問題を学ぶ。そのことによって、広いパースペクティブを身につけることができる。それは同時に、社会科学におけるジェンダー概念の批判的性格を学び、現実関連性を問うことでもある。とくに本講義では博士課程の学生を対象に、ジェンダー政策の諸問題を検討する力を身につけることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

ジェンダー経済論 DA・DB は秋学期集中で行われ、3人の教員のオムニバス形式をとっている。パワーポイントやビデオなども利用しながら講義を行う。受講者は DA と DB の両方を連続して受講することが望ましい。なお、授業の理解度を高めるために、受講生には毎回リアクション・ペーパーを提出してもらう予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

**秋学期後半**

回	テーマ	内容
1回	女性とセックスワーク	セックスワークとフェミニズム、人権
2回	開発とジェンダー・理論	開発のジェンダーへの取組の歴史と理論 (担当：山本)
3回	開発とジェンダー・ケース・スタディ(1)	マイクロクレジット (担当：山本)
4回	開発とジェンダー・ケース・スタディ(2)	女子労働と所得創出プログラム (担当：山本)
5回	経済理論とジェンダー(1)	経済理論とジェンダー(授業全体の見取り図) (担当：原)
6回	経済理論とジェンダー(2)	市場と家族①「新家庭経済学」と家族 (担当：原)
7回	経済理論とジェンダー(3)	市場と家族②新制度学派と家族 (担当：原)
8回	経済理論とジェンダー(4)	市場と家族③フェミニスト経済学とケア (担当：原)
9回	経済理論とジェンダー(5)	市場と家族④フェミニスト経済学と家族 (担当：原)

10 回	経済理論とジェンダー (6) (担当：原)	社会的再生産とケア①シチズンシップとケア
11 回	経済理論とジェンダー (7) (担当：原)	社会的再生産とケア②労働のフレキシビリティとケア
12 回	経済理論とジェンダー (8) (担当：原)	社会的再生産とケア③ケアレジーム論
13 回	経済理論とジェンダー (9) (担当：原)	ワーク・ライフ・バランス①福祉国家と変容と家族
14 回	経済理論とジェンダー (10) (担当：原)	ワーク・ライフ・バランス②日本における雇用政策と少子化対策

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

とくに指定しない。必要な文献は授業で適宜指示する。

#### 【参考書】

・山本真鳥編著『性と文化』法政大学出版局、2004 年。  
・板井広明編『金融化、雇用、ジェンダー不平等：国際シンポジウム』お茶の水女子大学ジェンダー研究所、2017 年。  
・原伸子著『ジェンダーの政治経済学－福祉国家・市場・家族』有斐閣、2016 年。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 25 %、討論への参加 25 %、期末レポート 50 %。

#### 【学生の意見等からの気づき】

前回のアンケートでは受講生からとくに意見はありませんでしたが、積極的な参加型の授業にしていきたいと思っています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、ビデオ使用

#### 【担当教員（原）の専門分野等】

<専門領域>経済理論、経済学説史  
<研究テーマ>福祉国家と家族の政治経済学  
<主要業績>原伸子『ジェンダーの政治経済学』有斐閣、2016 年。

#### 【担当教員（板井）の専門分野等】

<専門領域>経済学、経済学説・経済思想、社会思想史  
<研究テーマ> 18 世紀末ブリテンにおける女性論の諸相：功利主義的フェミニズムの可能性  
<主要業績>

「古典的功利主義における多数と少数」『功利主義の逆襲』ナカニシヤ出版、2017 年。

編著『金融化、雇用、ジェンダー不平等：国際シンポジウム』お茶の水女子大学ジェンダー研究所、2017 年。

Itai Hiroaki, Inoue Akira, Kodama Satoshi, "Rethinking Nudge: Libertarian Paternalism and Classical Utilitarianism", *The Tocqueville Review* 37(1) 81-98, Jul 2016.

#### 【担当教員（山本）の専門分野等】

<専門領域>文化人類学  
<研究テーマ>ジェンダーと交換理論  
<主要業績>編著『性と文化』法政大学出版局、2004 年、「サモア社会における女性の仕事の復興」原伸子編『市場とジェンダー』法政大学出版局、2005 年、『グローバル化する互酬性』弘文堂、2018 年

#### 【Outline and objectives】

The focus is on the application of the gender perspective on economic analyses, which is rather new in the tradition of economics as a discipline and is expected to provide a new development in this field. In order to realize the ambitious endeavor, it is important to achieve the basic gender concepts. Gender studies is interdisciplinary in itself and we welcome students in other departments.

ECN565C1-1

## 地域経済論 I D A

河村 哲二

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦後世界経済の中心を占めてきたアメリカ経済について、資本主義経済の発展の歴史と現状の位相を解明する「段階論」の理論と方法にたつて、ボックス・ブリタニカ段階と並ぶボックス・アメリカナ段階の中心部分の形成と確立を解明し、その変質局面としてグローバル経済の現状と変容の主な特質をとらえる。とりわけ、資本主義の「発展段階論」の理論的・実態的な理解を深めることをめざす。

#### 【到達目標】

アメリカ経済の長期的な発展構造の変遷とその特質を学び、1970 年代を境にした戦後ボックス・アメリカナ全盛期の構造からの大きな再編と転換がアメリカおよび世界にもつ意味を、長期・歴史的な視点から理解し、資本主義の「発展段階論」の理論的・実態的な理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

講義スライドを用い、講義形式で進める。適宜指示する関連文献とあわせて、毎回の講義内容のまとめレポート（A4 版 1 頁程度）を作成し、定期的に小レポートにまとめて提出する。随時、受講生の質疑と議論のセッションを設けて、議論と講義内容の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

#### 【授業計画】

##### 秋学期前半

回	テーマ	内容
第 1・2 回	序論 資本主義の現状と発展の歴史過程をとらえる方法	資本主義の歴史的展開過程の概要：純粋理論の限界と段階論の意義。宇野弘蔵「三段階論」の純粋理論・歴史理論の方法。
第 3・4 回	(1) 資本主義の歴史的展開の概要と中間理論・歴史理論 (2) 原理論・段階論の方法と制度形成の理論	「資本のロジック」と制度形成の理論。資本主義の歴史過程・現実分析の理論と方法。
第 5・6 回	I ボックス・ブリタニカ段階のもとでのアメリカ資本主義の発展 第 1 章 ボックス・ブリタニカ段階とその概要	近代資本主義の生成とボックス・ブリタニカ段階の概要。植民地期～南北戦争：アメリカ資本主義の登場と発展。
第 7・8 回	第 2 章 ボックス・ブリタニカ・システムの変質とアメリカ資本主義の発展	南北戦争～第一次大戦期：ボックス・ブリタニカの変質とアメリカ資本主義の発展。
第 9・10 回	II ボックス・アメリカナ段階への過渡期 第 1 章 第一次大戦と戦間期資本主義	ボックス・ブリタニカ段階からボックス・アメリカナ段階への移行の概要。第一次大戦と資本主義世界編成の変質。1920 年代のアメリカ経済。
第 11・12 回	第 2 章 世界大恐慌とそのインパクト	世界大恐慌のインパクトと資本主義世界編成の解体。ニューディール政策の意義と限界。
第 13・14 回	第 3 章 第二次大戦の戦時経済 小括	第二次大戦期の戦時経済システムと戦後ボックス・アメリカナ・システムの形成。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外学習時間は以下について、毎回 4 時間以上：

- (1) 毎回の講義スライドと関連文献の予習を行う。
- (2) 毎回の講義内容を、講義スライド、ノート、関連文献を用いて復習し、質問事項を含めて、小レポートにまとめて定期的に提出する。

#### 【テキスト（教科書）】

講義全体を通して使用するテキストは指定しないが、山口他編『経済学 II』（有斐閣、1980 年）、河村哲二『ボックス・アメリカナの形成』（東洋経済新報社、1995 年）、同『現代アメリカ経済』（有斐閣、2003 年）、その他関連文献の必要箇所を適宜指示して使用する。

#### 【参考書】

SGCIME 編・河村哲二他著『グローバル資本主義の変容と中心部経済』（日本経済評論社、2015 年）、同『現代経済の解説第 3 版』（御茶の水書房、2017 年）、『グローバル資本主義と段階論』（御茶の水書房、2016 年）、河村哲二編著『グローバル金融危機の衝撃と新興経済の変貌』（ナカニシヤ出版、2018 年）など。その他、適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の最終レポートを中心に評価する（70％）。これに毎回の講義トピックスに関する小レポート（定期的な提出）（20％）、毎回の講義の議論への参加の程度（10％）を加味して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムのアップロードされる講義資料を事前にプリントアウトし、予習・講義中・復習に使用すること。

## 【その他の重要事項】

社会経済学 A、経済史および地域経済論 IDB を履修することが望ましい。

## 【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞アメリカ経済論、グローバル経済論、理論経済学  
＜研究テーマ＞パックス・アメリカーナの転換とグローバル資本主義の諸相の解明

＜主要研究業績＞『グローバル資本主義と段階論』（共著、御茶の水書房、2016年）『持続的将来の探求』（共編著、御茶の水書房、2014年）、『3.11からの再生』（共編著、御茶の水書房、2013年）、*Hybrid Factories in the United States under the Global Economy*, Oxford University Press, 2011）、『アメリカ経済入門』（共著、幻冬舎、2009年）、『グローバル経済下のアメリカ日系工場』（編著、東洋経済新報社、2005年）、『現代アメリカ経済』（単著、有斐閣、2003年）、『制度と組織の経済学』（編著、日本評論社、1996年）、『パックス・アメリカーナの形成』（単著、東洋経済新報社 1995年）など。その他著書・論文多数。

## 【Outline and objectives】

This lecture elucidates the specific futures of the U.S. post-war economy that lead the world economy, from a long-term perspective of its historical development. Through the whole lecture of A and B, it aims at deepening the understanding of the contemporary states and problems of the U.S. economy in the 2000s. It discusses the important topics of the current issues of the U.S. economy, including the global financial and economic crisis in the late 2000s and the "Trump phenomenon".

ECN565C1-2

## 地域経済論 I D B

河村 哲二

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地域経済論」IDA に引き続き、資本主義経済の発展の歴史と現状の位相を解明する「段階論」の視点から、戦後世界経済の中心を占めてきたアメリカ経済について、パックス・ブリタニカ段階と並ぶパックス・アメリカナ段階の中心部分を解明し、その変質局面としてアメリカのグローバル資本主義化とグローバル経済の現状と変容の主要な特質をとらえる。それをつうじて、資本主義の現状の「段階論」による解明の意義を学ぶ。

## 【到達目標】

アメリカおよび世界経済の現状をパックス・アメリカナ段階の変質局面としてとらえ、主に次の3点を中心に解明し、それをつうじて、資本主義の現状の「段階論」による解明の意義を理解する。

1. 1970年代を画期とするアメリカ経済の戦後パックス・アメリカナ・システムの転換と再編という視点から、アメリカ経済のグローバル資本主義化と「グローバル成長連関」への成長構造のシフトの特徴と問題点について学ぶ。
2. 2000年代末に発生したアメリカ発のグローバル金融危機・経済危機の原因とプロセスおよびその特徴について理解を深める。
3. グローバル金融危機・経済危機の影響のもとで、「トランプ現象」の意味を含めて、アメリカ経済の回復過程の現状と問題点を理解し、日本経済および世界経済の行方を展望する視点を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義スライドを用い、講義形式で進める。適宜指示する関連文献とあわせて、毎回の講義内容のまとめレポート（A4一枚程度）を作成し、定期的に、小レポートにまとめて提出する。随時、受講生の質疑と議論のセッションを設けて、議論と講義内容の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

## 秋学期後半

回	テーマ	内容
第1・2回	序論－1 アメリカ経済の現状とグローバル金融危機・経済危機をとらえる視点	2000年代末のアメリカ発のグローバル金融危機・経済危機の意義を解明する基本視点とは何か？
第3・4回	序論－2 アメリカ経済のグローバル化の意義	戦後パックス・アメリカナ・システムの衰退とアメリカ経済のグローバル資本主義化の意義。
第5・6回	第1章「グローバル成長連関」の出現 (1) 企業・金融・情報のグローバル化と新自由主義	アメリカ経済のグローバル資本主義化の主要経路とそのダイナミズム。
第7・8回	(2) グローバル・シティと新帝国循環－「グローバル成長連関」の出現	「グローバル成長連関」の出現：グローバル・シティの発展とアメリカを焦点とする国際的資金循環構造の出現。
第9・10回	第2章 グローバル成長連関とアメリカ経済 (1)1990年代の長期好況と「ニューエコノミー」・「ITブーム」	1990年代の長期好況の特徴と問題点。グローバル成長連関と新興経済。
第11・12回	(2)1990年代長期好況の限界と「住宅ブーム」 (3) アメリカ発のグローバル金融危機・経済危機とそのインパクト	1990年代長期好況の終焉と2000年代「住宅ブーム」の発展。シャドウバンキングシステムの発展とその問題点。 *サブプライム危機からグローバル金融危機への発展
第13・14回	第3章 グローバル金融危機の「第一幕」・「第二幕」 (1) 緊急経済対策 (2) ユーロゾーン危機 まとめと展望	グローバル金融危機の「第一幕」と「第二幕」のインパクトと対策。 アメリカ経済の回復過程の特徴と今後の展望。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外学習時間は以下について、毎回4時間以上：

- (1) 毎回の講義スライドと関連文献の予習を行う。
- (2) 毎回の講義内容を、講義スライド、ノート、関連文献を用いて復習し、質問事項を含めて、小レポートにまとめて定期的に提出する。

## 【テキスト（教科書）】

河村哲二『現代アメリカ経済』（有斐閣、2003年）。その他、同編著『グローバル金融危機の衝撃と新興経済の変貌』（ナカニシヤ出版、2018年）同『現代経済の解説 第3版』（御茶の水書房、2017年）、同編著『グローバル金融危機の衝撃と新興経済の変貌』（ナカニシヤ出版、2018年）などの必要箇所を適宜指示して使用する。

## 【参考書】

SGCIME 編・河村哲二他著『グローバル資本主義の変容と中心部経済』（日本経済評論社、2015年）、同『現代経済の解説 第3版』（御茶の水書房、2017年）、同『グローバル資本主義と段階論』（御茶の水書房、2016年）、河村哲二編著『グローバル金融危機の衝撃と新興経済の変貌』（ナカニシヤ出版、2018年）など。その他、適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の最終レポートを中心に評価する（70%）。これに毎回の講義トピックスに関する小レポート（毎回提出）（20%）、平常点（10%）を加味して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムのアップロードされる講義資料を事前にプリントアウトし、予習・講義中・復習に使用すること。

## 【その他の重要事項】

地域経済論 IDA を履修していることが望ましい。社会経済学 B、経済史を合わせて履修することが望ましい。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>アメリカ経済論、グローバル経済論、理論経済学。  
<研究テーマ>バックスアメリカーナの転換とグローバル資本主義の諸相の解明  
<主要研究業績>『グローバル資本主義と段階論』（共著、御茶の水書房、2016年）、『グローバル資本主義の現局面』I、II（共著、日本経済評論社、2015年）、『持続的将来の探求』（共編著、御茶の水書房、2014年）、『「3.11」からの再生』（共編著、御茶の水書房、2013年）、*Hybrid Factories in the United States under the Global Economy*（編著、Oxford University Press, 2011）、『アメリカ経済入門』（共著、幻冬舎、2009年）、『グローバル経済下のアメリカ日系工場』（編著、東洋経済新報社、2005年）、『現代アメリカ経済』（単著、有斐閣、2003年）、『制度と組織の経済学』（編著、日本評論社、1996年）、『第2次大戦アメリカ戦時経済の研究』（御茶の水書房、1997年）、『バックス・アメリカーナの形成』（単著、東洋経済新報社 1995年）など。その他著書・論文多数。

## 【Outline and objectives】

Following the discussions in the Regional Economy IA, this lecture discusses the historical development and the current state of the U. S. economy from the perspective of the "Stages Theory" of the historical development of capitalism. Through the whole discussions, it aims at elucidating the major futures and their transfiguration of the modern capitalist system in the Pax American Stage, including the major differences from the capitalist system of the predecessor stage of Pax Britannica Stage, thereby aims at deepening the understanding of the major features of the contemporary global capitalism and its transformation.

ECN523C1-1

## 統計学 D A

伊藤 伸介

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計学の基本的な知識を習得した上で、統計データ分析の基礎を学習する。

## 【到達目標】

記述統計学と推測統計学の基礎知識を習得することによって、実証分析を行う上で必要な基本的な統計的手法を身につける。それによって、社会経済に関する実証研究を進める上で求められる統計学に関する方法的な考え方を養うことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行うが、必要に応じて統計解析用ソフトウェアを用いた演習を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	記述統計学と推測統計学
第2回	度数分布と代表値の計測	度数分布とヒストグラム、中心を表す代表値（平均、中位数、最頻値等）と散らばりを表す代表値（分散、標準偏差等）
第3回	クロス集計表と相関係数	クロス集計表の見方と相関係数の計測
第4回	確率変数と確率分布	離散型確率変数と連続型確率変数、正規分布と二項分布
第5回	母集団と標本分布	標準正規分布と t 分布、標本誤差と標準誤差
第6回	いろいろな確率分布	カイ 2 乗分布と F 分布
第7回	統計的推定 (1)	母平均における信頼区間の推定
第8回	統計的推定 (2)	母比率と母分散における信頼区間の推定
第9回	統計的仮説検定 (1)	正規分布と t 分布を用いた仮説検定
第10回	統計的仮説検定 (2)	カテゴリカルデータとカイ 2 乗検定
第11回	統計的仮説検定 (3)	分散分析と F 検定、順位データとマン・ホイットニーの U 検定
第12回	回帰モデルと最小 2 乗法	回帰モデルにおける回帰係数の推定
第13回	単回帰モデルにおける結果の評価	回帰係数の有意性の検証
第14回	重回帰モデルにおける分析上の注意点	偏回帰係数の解釈とモデルの適合度検定

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

栗原伸一『入門統計学』オーム社、2011年  
配布資料も用いながら講義を行う。

## 【参考書】

森田優三・久次智雄『新統計概論 改訂版』日本評論社、1993年  
田中勝人『統計学』新世社、1998年  
宮川公男『基本統計学（第3版）』有斐閣、1999年

**【成績評価の方法と基準】**

レポート(50%)に加え、授業中の参加の度合、課題(50%)を考慮し、総合的に判断する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

パソコンを用意すること。

**【その他の重要事項】**

統計学DBも合わせて受講すること。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>

経済統計学

<研究テーマ>

政府統計マイクロデータを用いた実証的な社会経済研究

<主要研究業績>

伊藤伸介「公的統計マイクロデータの利活用における匿名化措置のあり方について」『日本統計学会誌』第47巻第2号、2018年、77～101頁

Ito, S., Yoshitake, T., Kikuchi, R., Akutsu, F. “Comparative Study of the Effectiveness of Perturbative Methods for Creating Official Microdata in Japan”, Josep Domingo-Ferrer and Francisco Montes (eds.) Privacy in Statistical Databases: UNESCO Chair in Data Privacy, International Conference, PSD 2018, Valencia, Spain, September 26 - 28, 2018, Proceedings (Lecture Notes in Computer Science), July, 2018, Springer, pp.200-214

Shinsuke Ito, Naomi Hoshino, Fumika Akutsu “Potential of Disclosure Limitation Methods for Census Microdata in Japan”, Paper presented at Privacy in Statistical Databases 2016, Dubrovnik, Croatia, 14th September, 2016, pp.1-14

伊藤伸介「諸外国における政府統計マイクロデータの提供の現状とわが国の課題」、『中央大学経済研究所年報』第48号、233～249頁、2016年

伊藤伸介・出島敬久「企業業績が個別労働者の賃金に与える効果に関するマイクロデータ分析—企活と賃金センサスのデータリンケージをもとにして—」、『経済学論纂(中央大学)』第56巻第1・2合併号、13～37頁、2015年

**【Outline and objectives】**

The aim of this class is to provide a foundational knowledge of statistics and statistical data analysis.

ECN523C1-2

**統計学DB**

伊藤 伸介

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

主として推測統計学に焦点を当て、統計的手法の応用を学習するだけでなく、実証分析における分析能力の向上を目指す。

**【到達目標】**

社会経済に関する統計データや調査個票データを用いて計量分析を行う上で必要な統計的手法を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

基本的には講義形式で行うが、必要に応じて統計解析用ソフトウェアを用いた演習を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	実証分析の考え方
第2回	信頼区間の推定	不偏推定量と標本誤差、大標本と小標本における信頼区間の推定
第3回	2つのグループ間の検定	母平均と母比率における差の検定、分散比
第4回	標本抽出と乗率の処理	線型乗率と比推定乗率の取り扱い
第5回	単回帰分析におけるパラメータの推定と検定	OLSと回帰係数の有意性検定
第6回	重回帰分析における結果の解釈	回帰係数の評価とF値を用いたモデルの適合度検定
第7回	重回帰分析の応用(1)	ダミー変数、交差項を用いた回帰
第8回	重回帰分析の応用(2)	対数変換、2乗項を用いた回帰
第9回	質的従属変数における回帰(1)	プロビットモデルと最尤法
第10回	質的従属変数における回帰(2)	ロジットモデルによる回帰と限界効果の計測
第11回	回帰分析における注意点(1)	回帰分析における変数選択
第12回	回帰分析における注意点(2)	回帰分析における外れ値や欠損値の取り扱い
第13回	多変量解析の考え方(1)	主成分分析と因子分析
第14回	多変量解析の考え方(2)	クラスター分析と判別分析

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

配布資料を用いながら講義を行う。

**【参考書】**

森田優三・久次智雄『新統計概論 改訂版』日本評論社、1993年

田中勝人『統計学』新世社、1998年

宮川公男『基本統計学(第3版)』有斐閣、1999年

栗原伸一著『入門統計学』オーム社、2011年

**【成績評価の方法と基準】**

レポート(50%)に加え、授業中の参加の度合、課題(50%)を考慮し、総合的に判断する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

パソコンを用意すること。

**【その他の重要事項】**

統計学 DA も合わせて受講すること。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>

経済統計学

<研究テーマ>

政府統計マイクロデータを用いた実証的な社会経済研究

<主要研究業績>

伊藤伸介「公的統計マイクロデータの利活用における匿名化措置のあり方について」『日本統計学会誌』第 47 巻第 2 号, 2018 年, 77~101 頁

Ito, S., Yoshitake, T., Kikuchi, R., Akutsu, F. “Comparative Study of the Effectiveness of Perturbative Methods for Creating Official Microdata in Japan”, Josep Domingo-Ferrer and Francisco Montes (eds.) Privacy in Statistical Databases: UNESCO Chair in Data Privacy, International Conference, PSD 2018, Valencia, Spain, September 26 - 28, 2018, Proceedings (Lecture Notes in Computer Science), July, 2018, Springer, pp.200-214

Shinsuke Ito, Naomi Hoshino, Fumika Akutsu “Potential of Disclosure Limitation Methods for Census Microdata in Japan”, Paper presented at Privacy in Statistical Databases 2016, Dubrovnik, Croatia, 14th September, 2016, pp.1-14

伊藤伸介「諸外国における政府統計マイクロデータの提供の現状とわが国の課題」, 『中央大学経済研究所年報』第 48 号, 233~249 頁, 2016 年

伊藤伸介・出島敬久「企業業績が個別労働者の賃金に与える効果に関するマイクロデータ分析—企活と賃金センサスのデータリンケージをもとにして—」, 『経済学論纂 (中央大学)』第 56 巻第 1・2 合併号, 13~37 頁, 2015 年

**【Outline and objectives】**

The aim of this class is the study of inferential statistics, with a focus on the practical application of statistical methods in order to advance students' skills in empirical analysis.

ECN531C1-1

**日本経済論 D A**

小崎 敏男

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

学生が経済理論と実証分析を通して、日本経済が理解できることを目標とする。特に、この授業は人口減少（少子化・高齢化）と日本経済の関係を理解し、自分で政府が行う政策等を評価できることを目的とする。

**【到達目標】**

学生が新聞等のマスメディア等で流される情報を、標準的水準の経済理論や実証分析を通して理解出来ることを到達目的にしている。その目標到達を達成する手段として、人口減少（少子・高齢化）を中心として日本経済を考察する。「人口減少と日本経済」を考える際、どのような経済理論や実証分析が有効なのか？ また、どこまでが経済理論・実証分析で理解出来、限界なのかを理解することを目標とする。

博士課程では、各授業の専門の論文を読み、理解し、実際、オリジナルな論文作成を目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

学生の履修者数により、授業形態をフレキシブルに変えていく。履修人数が少ない場合は、演習形式で毎回発表と討論を行う。人数が 20 人以上の場合は講義形式で授業を行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、この授業の概略等
第 2 回	わが国の少子・高齢化	わが国の少子化の現状と将来予測。それに伴う日本経済への影響 (1)
第 3 回	わが国少子・高齢化と日本経済への影響 (2)	わが国の高齢化の現状と将来予測。それに伴う日本経済への影響
第 4 回	少子化の原因と対策 (1)	少子化の理論的考察
第 5 回	少子化の原因と対策 (2)	少子化の対策
第 6 回	高齢化の原因と対策	高齢化の原因の考察とその対策
第 7 回	人口減少と外国人労働問題 (1)	外国人労働者の受け入れによる国内への影響を理論的に考察
第 8 回	人口減少と外国人労働問題 (2)	外国人受け入れに関する諸外国の実証分析。特に賃金・雇用・失業を中心
第 9 回	人口減少と外国人受け入れ問題	移民・外国人受け入れに関する諸外国の事例研究
第 10 回	人口減少と地方創生	人口減少と地方活性化政策：都道府県別分析
第 11 回	労働力不足の労働市場	人口減少と労働力不足の関係
第 12 回	労働力不足と日本的雇用慣行	労働力不足が日本的雇用慣行をどのように変化させたか？
第 13 回	労働力不足と技術革新 (1)	技術進歩に関する理論的考察
第 14 回	労働力不足と技術革新 (2)	現在の技術革新と賃金・雇用との関係

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

次の授業に関する事項の予習と下調べ。

各テーマに関して、予習・復習 100 分以上行う様にして下さい。

【テキスト（教科書）】

小崎敏男『労働力不足の経済学』日本評論社。

【参考書】

小崎敏男・牧野文夫編（2012）『少子化と若者の就業行動』原書房。

小崎敏男・永瀬伸子編（2014）『人口高齢化と労働政策』原書房。

【成績評価の方法と基準】

授業中に出す課題レポート 50 %。

学期末試験 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく、分かり易い授業を心掛ける。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>労働経済学

<研究テーマ>人口減少と労働政策

<主要研究業績>

小崎敏男・牧野文夫編（2012）『少子化と若者の就業行動』原書房。

小崎敏男・永瀬伸子編（2014）『人口高齢化と労働政策』原書房。

【Outline and objectives】

The goal is for students to understand the Japanese economy through economic theory and empirical analysis. In particular, this class aims to understand the relationship between the declining population (declining birthrate and aging population) and the Japanese economy, and to be able to evaluate the government's policies and the like on its own.

ECN531C1-2

日本経済論 D B

牧野 文夫

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日中戦争期から現在に至る日本の経済発展を振り返る。

【到達目標】

マクロ経済、政府の役割、所得と資産の分配、労働、金融、農業、鉱工業、商業・サービスの各部門における制度変化を理解し、受講生が専門とする分野の研究に役立てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎週、テキストの論文を受講生に割り当て、それを要約・コメントしてもらおう。コメントにもとづいて議論を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	成長の概観 1	高度成長期までのマクロ経済（テキスト、第5巻序章第1節）
第2回	政府の役割 1	高度成長期までの政府の役割（テキスト、第5巻序章第2節）
第3回	所得と資産の分配 1	高度成長期までの所得と資産の分配（テキスト、第5巻序章第3節）
第4回	労働と人口 1	高度成長期までの労働と人口（テキスト、第5巻第1章）
第5回	金融 1	高度成長期までの労働と人口（テキスト、第5巻第2章）
第6回	農業 1	高度成長期までの農業（テキスト、第5巻第3章）
第7回	鉱工業・サービス産業 1	高度成長期までの鉱工業・サービス産業（テキスト、第5巻第4-5章）
第8回	成長の概観 2	安定成長期以後のマクロ経済（テキスト、第6巻序章第1節）
第9回	政府の役割 2	安定成長期以後の政府の役割（テキスト、第6巻序章第2節）
第10回	所得と資産の分配 2	安定成長期以後の所得と資産の分配（テキスト、第6巻序章第3節）
第11回	労働と人口 2	安定成長期以後の労働と人口（テキスト、第6巻第1章）
第12回	金融 2	安定成長期以後の金融（テキスト、第6巻第2章）
第13回	農業 2	安定成長期以後の農業（テキスト、第6巻第3章）
第14回	鉱工業・サービス産業 2	安定成長期以後の鉱工業・サービス産業（テキスト、第6巻第4-5章）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定論文を読む。そこで主張されている諸点の現状を自分で最新のデータで確認してみる。授業外の学習時間として4時間を確保すること。

【テキスト（教科書）】

深尾・中村・中林（編）『講座 日本経済の歴史』（第5,6巻）岩波書店、2017-18年。

## 【参考書】

『経済白書』『経済財政白書』

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート 50 %。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講に際しては、事前に日本経済に関する基礎知識を習得していることを必要とする。

## 【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 日本経済、経済発展論

＜研究テーマ＞ 近代日本の経済発展と所得分配。日本と中国の比較経済発展。

＜主要研究業績＞

『講座 日本経済の歴史』(3-6 巻) 岩波書店、2017-18 年 (分担執筆)。

『中国経済入門』第 4 版、日本評論社、2016 年 (共編著)。

『中国 (アジア長期経済統計 第 3 巻)』東洋経済新報社、2014 年 (共編著)。

## 【Outline and objectives】

Understanding economic development of Japan after World War II.

ECN533C1-2

## 法と経済学 D B

菅 富美枝

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期開講科目である「法と経済学 A」に引き続き、市場の活性化、契約リスクの制御、契約当事者間に存在する交渉力の格差の濫用抑止 (つけこみ抑止) になかった法制度とはどのようなものか。イギリス契約法から、その基本的発想を学ぶ。さらに、消費者の権利向上に向けた EU 法の動きについても学ぶ。

## 【到達目標】

「契約の自由」という概念を体現したイギリス契約法を学ぶことによって、市場の安定性と活性化のために必要な法とはどのようなものかについて、知ることができる。その上で、日本の契約法との比較 (相違点) に意識を向けることができる。以て、グローバルな取引の発展と個々人の豊かな消費生活の実現のために、どのような法が今後の日本社会に必要なかを考えることができる。博士後期課程の学生については、具体的に、日本法の改正案について、最終回にて発表してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

英語文献を用いるが、授業は日本語で進められる (希望があれば、英語も交える)。EU 消費者法をめぐる最新の議論については、補助教材を配布する。この他、グループディスカッション、受講生による個別プレゼンテーションも予定している。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	イギリス契約法の基本原理
第 2 回	契約法の役割	市場の円滑化と artificial な信頼の創設
第 3 回	市場における取引リスクと契約法	・ 錯誤があった場合の法的対応 ・ 状況に変化があった場合の法的対応
第 4 回	市場における取引上の良心の取り扱い 1	・ 禁反言の原則 ・ 金銭債務の執行に関連して ・ 違約罰条項の是非
第 5 回	市場における取引上の「良心」の取り扱い 2	契約の取消根拠の分析①～イギリス契約法
第 6 回	市場における取引上の「良心」の取り扱い 3	契約の取消根拠の分析②～日本の契約法
第 7 回	市場における取引上の「公正」	消費者の権利と EU 法の影響
第 8 回	契約の自由の限界	契約することが許されないもの
第 9 回	ディスカッション 1	日本の市場において公正性、適切性が疑われる広告、勧誘方法について
第 10 回	プレゼンテーション 1	受講生選択課題
第 11 回	ディスカッション 2	日本の市場において公正性、適切性が疑われる約款内容について
第 12 回	プレゼンテーション 2	受講生選択課題
第 13 回	ディスカッション 3	高齢者が参加できる市場の形成のために必要な法政策とは
第 14 回	総復習	これからの日本の市場のあり方、企業のあり方について

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

受講生は、指定教科書や事前配布資料を予習した上で、授業に臨むこと（なお、指定教科書については、日本語翻訳も出版されている）。また、ディスカッションやプレゼンテーションの準備に備えること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

Nicholas J McBride, Key Ideas in Contract Law (Hart Publishing 2017)

**【参考書】**

道垣内弘人『リーガルベイス民法入門』（日本経済新聞社）  
菅富美枝訳『イギリス契約法』（成文堂）

**【成績評価の方法と基準】**

博士前期課程の学生については、担当回の準備の精度（70%）と、授業内での議論参加度（貢献度）（30%）によって、判定する。博士後期課程の学生については、担当回の準備の精度（70%）と、最終回における改正案についての発表の完成度（30%）によって、判定する。

**【学生の意見等からの気づき】**

前年度同様、黒板の有効な使い方を意識する。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域> 法学  
<研究テーマ> 契約法、イギリス法  
<主要研究業績>  
新消費者法研究——脆弱な消費者を包摂する法制度と執行体制（成文堂、2018年）

**【Outline and objectives】**

This course introduces the key ideas in English contract law. The objective of the course is to help students explore what is the most appropriate law to facilitate markets, control transactional risks, and deter exploitation of bargaining power. Furthermore students will learn about the latest movement towards enhancing consumer rights occurring in the EU law.

ECN544C1-2

**企業経済学DB**

砂田 充

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義は、産業組織論（Industrial Organization）・企業経済学（Business Economics）・競争政策の経済学（Antitrust Economics）の基本・応用モデルを学習する。特に価格差別、カルテル、合併および垂直的取引の様々なモデルについて学習する。また、関連する実証的先行研究についても受講者と議論する予定である。

**【到達目標】**

産業組織論・企業経済学・競争政策の経済学の基本・応用モデルを自ら構築・解析できる能力および実証的産業組織論の学術論文を読解する能力を身に付ける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

スライドと黒板を使った講義形式がメイン。学生による報告（輪読による報告を含む）を求める場合もある。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	オリエンテーション
第2回	寡占市場①	寡占市場の基本モデル（復習）
第3回	寡占市場②	消費者の離散選択モデル/Logitモデル
第4回	価格差別①	価格差別の基礎/グループ別価格
第5回	価格差別②	二部料金/抱き合わせ/メニュー価格
第6回	カルテル①	カルテルの最適化行動と安定性/報復の脅威による協調の維持
第7回	カルテル②	カルテル規制/不当な取引制限
第8回	合併①	企業結合規制/水平的合併と効率性/水平的合併と社会的厚生
第9回	合併②	合併シミュレーション/合併の実証研究
第10回	合併③	垂直的合併と効率性
第11回	垂直的取引①	垂直的取引における最適行動/再販とテリトリー制
第12回	垂直的取引②	垂直的取引の競争制限効果/不公正な取引方法
第13回	競争戦略	戦略的行動/競争戦略の分類/コスト優位/差別化優位
第14回	総括	これまでの内容のおさらいと試験

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムよりDLして予習（2時間程度）、講義後には講義資料および自筆ノート等を使って復習（2時間程度）することが必要である。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しない。

## 【参考書】

小田切宏之『新しい産業組織論：理論・実証・政策』（有斐閣、2001年）、丸山雅祥『経営の経済学 [新版]』（有斐閣、2011年）、Belleflamme, P. and M. Peitz Industrial Organization: Markets and Strategies, Cambridge Univ. Press, 2010. Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Shaefer Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013. Motta, M. Competition Policy: Theory and Practice, Cambridge Univ. Press, 2004. Shy, O. Industrial Organization: Theory and Applications, MIT Press, 1996. Tirole, J. The Theory of Industrial Organization, MIT Press, 1988 他適宜紹介する予定。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（70～95%）、平常点（30～5%）により評価をする。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生が自らの研究テーマについて分析モデルを構築できるように指導を心掛けたい。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

産業組織論・企業経済学・競争政策の経済学

<研究テーマ>

企業の経営戦略と公共政策の経済分析

<主要研究業績>

"Competition among Movie Theaters: An Empirical Investigation of the Toho-Subaru Antitrust Case," Journal of Cultural Economics, Vol. 36, Number 3, pp. 179-206, August 2012.

"Coverage Area Expansion, Customer Switching, and Household Profiles in the Japanese Broadband Access Market," Information Economics and Policy, Vol. 23, Issue 1, pp. 12-23, March 2011 (with Masato Noguchi, Hiroshi Ohashi, and Yosuke Okada).

"Measuring the Cost of Living Index, Output Growth, and Productivity Growth in the Retail Industry: An Application to Japan," Review of Income and Wealth, Vol. 56, Issue 4, pp. 667-692, December 2010.

## 【Outline and objectives】

This course is graduate-level introduction to industrial organization and managerial economics. The goal of this course is that students understand various models in the fields and acquire modeling skills for their own research interests. This course will focus on the topics as follows: pricing strategy, cartel, horizontal and vertical merger, vertical restraints, and so on. Students are expected to have solid comprehension of undergraduate microeconomics.

ECN562C1-1

## 国際金融論 D A

## ブー・トウンカイ

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介として行われる。本講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。博士後期課程では専門誌掲載の論文を通じて国際金融論の理論体系や実証研究手法の取得・応用に重点を置く。

## 【到達目標】

対外取引の意義や内容、為替市場の仕組みと為替取引、為替レート決定、為替レートと金利や物価、実体経済との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果を理解でき、さらに為替介入や為替制度選択、共通通貨としてのユーロ、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題を知り、経済学的手法を用いて理論的・実証的に分析できることを目標とする。博士後期課程の受講者には、期末に講義で学んだことを活用し、国際金融論のテーマを設定し研究を行い、その研究成果を提出することを求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

授業で扱うテキストの各章を受講者間で担当を決め、毎回の授業で最初に受講者が事前に準備した各章の内容を発表し、最後に教員が総括を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際金融論の紹介
2	国際金融の基本的視点	金融取引の意義、国際的視点の設定
3	統計でマクロ経済をみる	国民所得勘定、資金循環勘定
4	統計で対外取引をみる	国際収支表
5	貨幣	貨幣、貨幣需要、貨幣供給
6	貨幣と物価	貨幣市場の均衡、短期と長期における貨幣と物価との関係
7	貨幣と物価に関する理論と実証研究	貨幣需要関数の理論と推定、貨幣と物価との関係の実証分析
8	為替レート	名目為替レート、実質為替レート、実効為替レート、データを用いる実効為替レートの算出
9	外国為替市場	外国為替市場、直物・先物レート、通貨デリバティブ
10	金利と為替レート	金利裁定、カバー付金利平価、カバーなし金利平価、均衡為替レート
11	為替レート決定の理論(1)	貨幣市場と外国為替市場、リスク・プレミアム
12	金利平価の検証	金利平価の実証研究文献、データとパソコンを用いる演習
13	物価と為替レート、及び為替レート決定の理論(2)	生産物裁定と購買力平価、マネタリーモデル

- 14 購買力平価からの乖離 データでみる実質為替レートの長期的トレンド、労働生産性とバラッサ・サミュエルソン効果

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各自で毎回の授業までにその前回で学んだ内容を2時間程度で復習しておくこと。

**【テキスト（教科書）】**

- 1.『コア・テキスト国際金融論』第2版、藤井英次、新世社2014年。
- 2.『MBAのための国際金融』小川英治・川崎健太郎、有斐閣2007年。

**【参考書】**

- 1.“International Finance: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第11版(2018/1/25)(英語)ペーパーバック。
- 2.“International Finance and Open-Economy Macroeconomics,” by Giancarlo Gandolfo, Springer; 2nd Edition (2016/7/12) (ハードカバー)。
- 3.『新しい国際金融論－理論・歴史・現実』勝悦子、有斐閣2011年。

**【成績評価の方法と基準】**

以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。

小テスト・宿題：25%、中間レポート：25%、学期末レポート：50%

(博士後期課程の受講者には、期末に自らテーマを設定し研究を行い、その研究成果を提出することを求められる。)

**【学生の意見等からの気づき】**

学生の理解度を見ながら若干内容を変更することがある。

**【学生が準備すべき機器他】**

コンピュータによるデータ分析の演習があるので、ノートパソコンをもつことが望ましい。

**【その他の重要事項】**

教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>

国際マクロ経済学、国際金融論

<研究テーマ>

開放経済の理論と実証、経済政策の効果、東アジアの為替制度、アジア諸国のマクロ経済問題

<主要研究業績>

- (1) "News Shocks and Japanese Macroeconomic Fluctuations," Japan and the World Economy, Vol.24, Issue 4, pp.292-304, 2012 (with Jun-Hyung Ko and Kensuke Miyazawa).
- (2) 「東アジアの貿易構造と為替制度選択問題に関する理論的考察」, 『アジア太平洋研究』第39巻, pp.149-162, 2014年。
- (3) "Oil Price Fluctuations and the Small Open Economies of Southeast Asia: An Analysis Using Vector Autoregression with Block Exogeneity," Journal of Asian Economics 54 (2018), pp.1-21 (with Hayato Nakata).

**【Outline and objectives】**

International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These international transactions are mainly transactions in goods&services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies. In the PhD course we put more weight on understanding and applying basic theories and empirical methods in international finance.

ECN562C1-2

**国際金融論 D B**

**ブー・タウンカイ**

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介として行われる。本講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。博士後期課程では専門誌掲載の論文を通じて国際金融論の理論体系や実証研究手法の取得・応用に重点を置く。

**【到達目標】**

対外取引の意義や内容、為替市場の仕組みと為替取引、為替レート決定、為替レートと金利や物価、実体経済との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果を理解でき、さらに為替介入や為替制度選択、共通通貨としてのユーロ、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題を知り、経済学的手法を用いて理論的・実証的に分析できることを目標とする。博士後期課程の受講者には、期末に講義で学んだことを活用し、国際金融論のテーマを設定し研究を行い、その研究成果を提出することを求められる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

授業で扱うテキストの各章を受講者間で担当を決め、毎回の授業で最初に受講者が事前に準備した各章の内容を発表し、最後に教員が総括を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

**秋学期**

回	テーマ	内容
1	為替レート決定の理論(3)	ポートフォリオ・アプローチとその実証分析
2	為替レート決定の理論(4)	ニュースの理論とその実証分析
3	外国為替市場の効率性	効率的市场仮説、先物相場と直物相場、先物相場プレミアムに関する実証分析
4	為替レートと実体経済(1)	総需要と総供給、内需と外需、生産物市場の短期均衡
5	為替レートと実体経済(2)	為替レートと経常収支、弾力性アプローチとその実証分析
6	マクロ経済分析の理論的枠組み	IS-LM モデルの復習：名目価格硬直性、短期と長期、短期のマクロ経済理論としての IS-LM モデル、総生産の決定、外生ショックと景気変動、マクロ経済政策の効果
7	開放経済分析の理論的枠組み(1)	マンデル・フレミングモデルの構築、それを用いる分析：変動相場制下の金融・財政政策の効果
8	開放経済分析の理論的枠組み(2)	マンデル・フレミングモデルを用いる分析：固定相場制下の金融・財政・為替政策の効果
9	マンデル・フレミングモデルから動学的開放マクロ経済学へ	動学的開放マクロ経済学の理論と実証

10	為替介入	為替介入の定義、実際、仕組み、理論・実証的效果、固定相場維持介入と通貨危機
11	為替制度の選択	開放経済におけるトリレンマ、世界各国の為替制度の現状、為替制度選択問題と「両極の解」の議論
12	通貨同盟と最適通貨圏	EU とユーロの概要、最適通貨圏の理論と実証分析
13	発展途上国の国際金融	発展途上国の国際金融の現実の諸問題と政策
14	東アジアの経済統合と地域的通貨協力	東アジアにおける貿易や投資の面での経済統合やアジア通貨危機、そして地域的通貨協力について学ぶ。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で毎回の授業までにその前回で学んだ内容を復習しておくこと。

#### 【テキスト（教科書）】

- 『コア・テキスト国際金融論』第2版、藤井英次、新世社 2014年。
- 『MBAのための国際金融』小川英治・川崎健太郎、有斐閣 2007年。

#### 【参考書】

- “International Finance: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第11版 (2018/1/25) (英語) ペーパーバック。
- “International Finance and Open-Economy Macroeconomics,” by Giancarlo Gandolfo, Springer; 2nd Edition (2016/7/12) (ハードカバー)。
- 『新しい国際金融論- 理論・歴史・現実』勝悦子、有斐閣 2011年。

#### 【成績評価の方法と基準】

以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。

小テスト・宿題：25%、中間レポート：25%、学期末レポート：50%

(博士後期課程の受講者には、期末に自らテーマを設定し研究を行い、その研究成果を提出することを求められる。)

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を見ながら若干内容を変更することがある。

#### 【学生が準備すべき機器他】

コンピュータによるデータ分析の演習があるので、ノートパソコンをもつことが望ましい。

#### 【その他の重要事項】

教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などほしくないこと。授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際マクロ経済学、国際金融論

<研究テーマ>

開放経済の理論と実証、経済政策の効果、東アジアの為替制度、アジア諸国のマクロ経済問題

<主要研究業績>

- "News Shocks and Japanese Macroeconomic Fluctuations," Japan and the World Economy, Vol.24, Issue 4, pp.292-304, 2012 (with Jun-Hyung Ko and Kensuke Miyazawa).
- 「東アジアの貿易構造と為替制度選択問題に関する理論的考察」, 『アジア太平洋研究』第39巻, pp.149-162, 2014年。
- "Oil Price Fluctuations and the Small Open Economies of Southeast Asia: An Analysis Using Vector Autoregression with Block Exogeneity," Journal of Asian Economics 54 (2018), pp.1 - 21 (with Hayato Nakata).

#### 【Outline and objectives】

International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These international transactions are mainly transactions in goods&services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies. In the PhD course we put more weight on understanding and applying basic theories and empirical methods in international finance.

ECN552C1-1

## 環境政策論 D A

西澤 栄一郎

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境政策の経済分析－政策手法を中心に－

#### 【到達目標】

- ①環境問題に関わる政策手法を理解する。
- ②環境政策の経済学的分析手法を身につける。
- ③他国・地域の環境政策の手法について調べ、日本と対比する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

環境政策の経済分析を主たるテーマとするが、政治学的なアプローチも紹介する。まず、環境問題とその政策について基礎的に理解してもらうために、環境問題の歴史と代表的政策分野である温暖化対策について概説する。つぎに、環境問題の経済的分析手法を解説し、具体的な政策手法について分析する。さいごに、環境政策を政治過程論の視点から検討する。

講義を基本とするが、関連する論文の輪読とレポート提出を求める。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

##### 春学期前半

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・変遷	オリエンテーション、江戸時代から日本の環境問題の史的から20世紀末までの歴史
第2回	地球温暖化対策	気候変動枠組条約、京都議定書、パリ協定
第3回	環境問題の経済分析	余剰分析、厚生経済学の基本定理、市場の失敗、公共財、外部性
第4回	環境政策の手段①	政策手段の分類、直接規制、環境税
第5回	環境政策の手段②	排出取引、環境補助金、デポジット制度
第6回	環境政策の政治過程	政策過程論、政策ネットワーク
第7回	受講者の発表	短い発表

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記の参考書や各回に紹介する参考文献を読むこと。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。配付資料により講義を行う。

#### 【参考書】

- ①栗山浩一・馬奈木俊介 (2016) 『環境経済学をつかむ 第3版』有斐閣
- ②一方井誠治 (2018) 『コアテキスト 環境経済学』新世社
- ③倉阪秀史 (2014) 『環境政策論 第3版』信山社
- ④有村俊秀・片山東・松本茂編 (2017) 『環境経済学のフロンティア』日本評論社

#### 【成績評価の方法と基準】

輪読およびレポートとその内容に関する発表（50%）、平常点と授業への参加（50%）

#### 【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施していないため、該当なし

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境政策論、農業経済学

<研究テーマ>欧米の環境政策・農業環境問題

<主要研究業績>

- ①『環境政策史－なぜいま歴史から問うのか』（共編著）ミネルヴァ書房，2017年。
- ②『農業環境政策の経済分析』（編著）日本評論社，2014年。
- ③「オランダの環境協同組合」清水純一・坂内久・茂野隆一編『復興から地域循環型社会の構築へ』農林統計出版，2013年。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students conduct an economic analysis of environmental policies.

ECN552C1-2

環境政策論 D B

西澤 栄一郎

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境の経済的評価手法

【到達目標】

- ①環境の経済的評価手法について、その概要を理解する。
- ②評価手法を実際に運用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

環境の経済的評価手法を解説する。理論的基礎となる、厚生経済学や費用便益分析を概説したあと、旅行費用法、ヘドニック法、CVM(仮想評価法)、コンジョイント分析などをとりあげる。各手法を解説したあと、その手法を用いた実証研究の論文を講読したうえで、実証研究に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・費用便益分析	オリエンテーション、環境の経済的評価の必要性
第2回	厚生経済学・環境の価値と評価手法の概要	経済的余剰の諸概念、支払意思額、受取補償額、環境の価値、表明選好、顕示選好
第3回	旅行費用法	家計生産モデル、弱補完性
第4回	ヘドニック法	ヘドニック価格関数、付け値関数
第5回	CVM（仮想評価法）	各種のバイアス、ランダム効用モデル
第6回	コンジョイント分析	選択型実験、多項ロジットモデル
第7回	回避支出法、ライフサイクルアセスメント	被害算定型影響評価手法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストは事前に読んでおくこと。配布する論文を事前に読んでおくこと。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

栗山浩一・柘植隆宏・庄子康（2013）『初心者のための環境評価入門』勁草書房

【参考書】

- ①栗山浩一・庄子康編（2005）『環境と観光の経済評価』勁草書房
- ②柘植隆宏・栗山浩一・三谷羊平編（2011）『環境評価の最新テクニック』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

実証論文についての、レジユメの作成と報告（25%）、実証論文の提出（25%）、平常点と授業への参加（50%）

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施していないため、該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境政策論、農業経済学

<研究テーマ>欧米の環境政策・農業環境問題

<主要研究業績>

- ①『環境政策史－なぜいま歴史から問うのか』（共編著）ミネルヴァ書房，2017年。
- ②『農業環境政策の経済分析』（編著）日本評論社，2014年。
- ③「オランダの環境協同組合」清水純一・坂内久・茂野隆一編『復興から地域循環型社会の構築へ』農林統計出版，2013年。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students conduct an economic valuation of the environment.

ECN553C1-1

## 経済政策 D A

濱秋 純哉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、経済政策のうちとくに社会保障政策について制度と理論の両面から学ぶ。

## 【到達目標】

日本の社会保障政策についての理解を深め、自ら政策を評価できるようになること、及び社会保障政策が企業や家計の行動に与える影響を実証分析した学術論文を理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

日本の社会保障制度とその理論的背景の解説を行う。社会保障制度については、教員が作成したパワーポイント資料を受講者各自が読んだ上でレポートを作成することで制度についての理解を深める。パワーポイント資料の内容について質問があれば学習支援システムを通じて受け付ける。また、必要に応じて（受講者からのリクエストがあれば）、レポートの作成過程でオンライン会議システムを通じて指導する時間を設ける。

社会保障制度の理論的背景はオンライン会議システムを通じて授業形式で説明する予定である。ただし、受講者のインターネット環境等の事情によっては別の方法をとる可能性もある。

初回の授業については、4月23日（木）までに学習支援システムにアップロードするガイダンス資料を受講者各自が読むという形とする。ガイダンス資料の最後のページに「履修者のことを知るための質問」があるので、学習支援システムを通じて回答すること（回答方法などはガイダンス資料の最後のページを見てください）。

2020年4月20日修正

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義概要の説明
第2回	社会保障とは何か	社会保障の目的と機能
第3回	社会保障とは何か	社会保障を政府が提供する根拠
第4回	マクロ経済から見た社会保障	社会保障給付の構造
第5回	マクロ経済から見た社会保障	社会保障財源の構造
第6回	所得格差と所得再分配	所得格差をどう測るか
第7回	所得格差と所得再分配	所得再分配のあり方
第8回	公的年金の基礎理論	日本の公的年金制度の概要
第9回	公的年金の基礎理論	公的年金の機能
第10回	公的年金の基礎理論	積立方式と賦課方式
第11回	医療保険の基礎理論	日本の医療保険制度の概要
第12回	医療保険の基礎理論	医療保険の機能
第13回	医療保険の基礎理論	医療保険とモラル・ハザード
第14回	まとめと期末試験	まとめと期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。本授業を履修するにあたり、ある程度の社会保障制度の知識を持っていた方がよいが、それを前提とはしない。なお、知識に不安がある者は、棕野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障-福祉を学ぶ人へ』（各年版、有斐閣）の1章、4章、7章、8章を事前に一読することを勧める。

## 【テキスト（教科書）】

小塩隆士、2013年、『社会保障の経済学[第4版]』日本評論社

**【参考書】**

安岡匡也, 2017年, 『経済学で考える社会保障制度』中央経済社  
 小西砂千夫, 2016年, 『社会保障の財政学』日本経済評論社  
 駒村康平・山田篤裕・四方理人・田中聡一郎・丸山桂, 2015年, 『社会政策 福祉と労働の経済学』有斐閣  
 小塩隆士・田近栄治・府川哲夫, 2014年, 『日本の社会保障政策 課題と改革』東京大学出版会

**【成績評価の方法と基準】**

レポート (30%), 最新の学術論文 2 本の内容のまとめ (30%), 期末試験 (40%)

ただし、期末試験を行えるか不明なため、期末試験を別の方法で代替する可能性もある。

2020年4月20日修正

**【学生の意見等からの気づき】**

学生が受け身の学習にならないように、授業の途中で受講者自身が考えたり、計算したりする時間を設ける。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業支援システムを通じて資料などのアップロードを行う。この際に、受講者に通知のメールが届くようにするので、授業支援システムに登録されているメールアドレスを通常使用しているものに更新しておくことを勧める。

**【担当教員の専門分野等】**

< 専門領域 >

公共経済学・応用計量経済学

< 研究テーマ >

家計行動のマイクロ計量分析

< 主要研究業績 >

(1) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Keiko Murata, 2019, "The intra-family division of bequests and bequest motives: Empirical evidence from a survey on Japanese households," *Journal of Population Economics*, Vol.32(1), pp.309 – 346.

(2) 上野綾子・濱秋純哉, 2017年, 「2009年度介護報酬改定が介護従事者の賃金、労働時間、離職率に与えた影響」, 『医療経済研究』, Vol.29(1), 33頁-57頁。

(3) Hamaaki, Junya, 2013, "The pension system and household consumption and saving behavior," *Public Policy Review*, Vol.9(4), pp.687-716.

(4) Hamaaki, Junya, Yasushi Iwamoto, 2010, "A reappraisal of the incidence of employer contributions to social security in Japan," *Japanese Economic Review*, Vol.61(3), pp.427-441.

**【Outline and objectives】**

This course explains social security policy from both a theoretical and practical perspective.

ECN555C1-1

**公共経済学 D A**

篠原 隆介

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本講義では、市場経済と政府の関係について経済学を通して考察します。本講義では、主に、「市場経済の利点とは何か?」、「市場経済の欠点とは何か?」、「この欠点を補うための政府の役割は何か?」をマイクロ経済学の手法に基づき、講義します。講義の前半は、市場経済の利点を、後半は、公共財による市場の失敗と政府の政策について講義します。第11回目～13回目の講義では、公共経済学研究の専門誌として高い評価を確立している *Journal of Public Economics* 誌に掲載された英語学術論文を用い、より専門的な内容を学習します。

**【到達目標】**

1. 市場経済がもたらす利点と欠点を、マイクロ経済学に基づき述べる事ができる。
2. 市場の失敗は、どのような政策を用いて解消することができるのか、説明することができる。
3. 本講義の内容を発展拡張し、英文査読雑誌に掲載可能な水準で学術研究を行う基礎を構築すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

**【授業の進め方と方法】**

完全競争の理論、市場の失敗 (公共財) と政府の役割を学習する。標準的なマイクロ経済学とゲーム理論を用いて分析を行う。本講義では、理論分析を主に行うが、本講義の内容が現実世界とどのように関連するのかについて、意識しながら講義を受講して欲しい。

講義は講師自作の講義ノートを用いて行う。資料は授業支援システムからダウンロード可能である。

新型コロナウイルス (COVID-19) 感染拡大への対処のため、教室での講義が禁止されている間は、オンライン教材を用いて講義を行う。教材の視聴に関する指示や補助資料の配布は、すべて学習支援システムを通して行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	公共経済学とは、市場の失敗と政府の役割
2	消費者理論 (1)	消費者の効用最大化問題、スルツキー分解
3	消費者理論 (2)	消費者行動と効率的な消費税制
4	交換経済 (1)	複数財取引と市場均衡、ワルラス均衡について
5	交換経済 (2)	パレート効率配分
6	交換経済 (3)	厚生経済学の基本定理、効率性 vs 衡平性
7	公共財 (1)	公共財、準公共財、私的財、公共財供給のモデル構築について
8	公共財 (2)	公共財供給のパレート効率条件の導出、サミュエルソン条件について
9	公共財 (3)	公共財の私的供給とただ乗り問題 (ゲーム理論分析)
10	公共財 (4)	リンダール・メカニズムによる公的な公共財供給
11	海外学術論文学習 (1)	Bergstrom et al. (1986)、Varian(1994) の解説 (1)

- 12 海外学術論文学習 (2) Bergstrom et al. (1986)、  
Varian(1994) の解説 (2)
- 13 海外学術論文学習 (3) Bergstrom et al. (1986)、  
Varian(1994) の解説 (3)
- 14 総括 本講義の総復習、理解度確認のため  
の実習

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を目安とするが、講義内容をより深く理解するためには、より多くの時間を費やすことが望ましいことは言うまでもない。ミクロ経済学の復習をすること。学部卒業程度のミクロ経済学の知識を前提として本講義を行う。例えば、武隈 (1999)、ギボンズ (1995) の第 1 章と第 2 章に掲載されている知識があることが望まれる。これらの知識を持ち合わせない場合には、自主学習するか、他の講義で埋め合わせて欲しい。英語文献は、必ず予習し講義に参加すること。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

海外学術論文学習では、次の文献を用いる予定である。

・ Bergstrom, T., Blume, L., Varian, H. (1986) "On the provision of public goods," *Journal of Public Economics* 29, 25-49.

・ Varian, H.R. (1994) "Sequential contribution to public goods," *Journal of Public Economics* 53, 165-186.

受講生が他の研究論文を希望する場合には、それを扱う可能性がある。

#### 【参考書】

講義ノートを補完する上で次の参考書 (特に [1]) は、役に立つであろう。

[1] 麻生良文『公共経済学』有斐閣, 1998 年.

[2] 板谷淳一, 佐野博之『コアテキスト公共経済学』サイエンス社, 2013 年.

[3] ギボンズ・ロバート『経済学のためのゲーム理論入門』創文社, 1995 年.

[4] 須賀見一編『公共経済学講義—理論から政策へ』有斐閣, 2014 年.

[5] 武隈慎一『ミクロ経済学増補版』新世社, 1999 年.

[6] 林正義, 小川光, 別所俊一郎『公共経済学』有斐閣, 2010 年.

[7] Hindriks J. and Myles G.D., *Intermediate Public Economics* (2nd ed.), The MIT Press, 2013.

#### 【成績評価の方法と基準】

学期末試験 (100 %) により評価を行う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

2016 年度～ 2019 年度まで休講だったため、該当しない。

#### 【その他の重要事項】

講義資料と練習問題集は、授業支援システムを通して配布する。

#### 【担当教員の専門分野等】

##### ■主要研究業績

・ Pre-negotiation Commitment and Internalization in Public Good Provision through Bilateral Negotiations, *Journal of Public Economics*, vol. 175, pp. 84-93, 2019 (共著).

■他の研究業績については、<https://researchmap.jp/read0131683/> を参照のこと。

#### 【Outline and objectives】

In this course, the students learn some basic topics regarding public microeconomics such as (i) the optimal design of consumption taxes based on the standard consumer theory, (ii) the efficiency vs equity based on the pure exchange economy, and (iii) the (private and public) provision of the public goods. Finally, the students read some important research articles regarding public microeconomics.

ECN557C1-1

## 都市経済政策論 D A

近藤 章夫

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市や地域を扱った経済学の研究成果を対象にして、都市経済学、地域経済学における方法論と研究対象への接近法を通じて、都市・地域研究の到達点や今後の課題について議論する。

#### 【到達目標】

都市・地域研究における都市論、立地論、集積論、空間論、政策論の各アプローチについて経済学との関連で理解し、国際的な学術誌の論文を読解できるようになること、研究領域のフロンティアを拡張していく能力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

上記の目標を達成するために、都市・地域の経済的盛衰を軸として、人口、産業立地、地域構造、地域間格差、住宅、土地、交通、財政、政策など、多岐にわたる都市と地域の問題について理論分析と実証分析の到達点と課題を論ずる。履修者の関心に最大限配慮しながら文献を適宜紹介し、具体的な研究事例から理解を深める。授業への出席と積極的な議論への参加を重視する。

なお、履修者の関心および講義の進捗状況によっては、授業計画を変更する可能性がある。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

##### 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション (講義の概要と学習の ポイント)	講義の概要と学習のポイント、 都市・地域の定義、都市経済・地域 経済に関する現代的意義
第 2 回	都市論と都市化の概念	都市論の歴史、都市の成立と発 展、都市化の概念と発展プロセス
第 3 回	都市集積の理論	都市成立の要因、内部・外部経 済、規模と集積の経済
第 4 回	都市規模と都市シス テム	都市規模の経済学、都市システ ムの理論、都市システムと順位規模 法則
第 5 回	都市の内部構造①：住 宅の立地	都市内の土地利用、住宅の立地、 都心と郊外、住宅政策
第 6 回	都市の内部構造②：企 業とオフィスの立地	企業の立地、オフィスと住宅の分 離、動学的立地
第 7 回	産業の立地	工業の立地要因、工業立地動向、 商業施設の立地と集積
第 8 回	地価と土地政策	土地問題と土地市場、地価と地代 の理論、土地税制
第 9 回	地域経済の基本構造	地域経済の概念、地域経済計算、 閉鎖／開放体系地域経済モデル
第 10 回	地域経済の成長理論	都市・地域成長の概念、需要／供 給主導型成長モデル、先進国と途 上国の地域問題
第 11 回	地域間格差と人口移動	地域間格差の問題、人口動態と移 動、格差是正への課題
第 12 回	地域間交易と空間経済 学モデル	基本モデルの構造、実証研究の到 達点、政策へのフィードバック
第 13 回	都市と地域の交通と環 境	都市と交通、交通サービスの需 給、混雑緩和と価格政策、交通政 策、都市の環境問題と政策

第14回 公共部門と都市・地域 公共部門と公共財、都市・地域財  
政策 政と政策、都市の安全性

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。テキストおよび参考文献の読解および事後の課題への取り組みを求める。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は事前に指定しないが、黒田ほか（2008）を本講義の基本文献とし、履修者の関心によっては発展的な文献を指定する。

### 【参考書】

黒田達朗ほか（2008）『都市と地域の経済学（新版）』有斐閣  
金本良嗣・藤原徹（2016）『都市経済学（第2版）』東洋経済新報社  
高橋孝明（2012）『都市経済学』有斐閣  
Duranton, G. et al. (2015) 『Handbook of Regional and Urban Economics, Volume 5A-5B』 North Holland  
Huriot, J.M. and Thisse, J.F. (2009) 『Economics of Cities: Theoretical Perspectives』 Cambridge University Press  
その他の参考文献は適宜提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

講義への貢献度、数回の課題提出（レジュメによる内容紹介などを含む）による評価が中心となる。

平常点 60%、レポート課題・宿題 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生の関心と理解度に最大限配慮して柔軟に授業計画を進める。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 経済地理学、都市・地域経済学  
<研究テーマ> 都市・産業集積と経済発展、立地と分業の国際比較、イノベーションシステムの空間分析  
<主要研究業績>  
①共著（2015）『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社  
②共著（2012）『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会  
③単著（2007）『立地戦略と空間的分業』古今書院

### 【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to give participants a theoretical and empirical overview of modern urban/regional economic studies. These include urban models, industrial location, spatial economic structure, public policy, and so forth.

ECN557C1-2

## 都市経済政策論D B

近藤 章夫

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市や地域を扱った経済学の研究成果を対象にして、経済地理学、都市・地域経済学、都市工学・計画などの分野で用いられている統計データと分析手法（理論・モデルも含む）について学び、オリジナルな分析方法の開発を目指す。

### 【到達目標】

小地域統計の特性、都市・地域分析の手法を学ぶことによって、都市・地域研究における実証的接近法を理解し、研究領域のフロンティアを開拓する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

上記分野で用いられる統計データの特性や、分析手法の学修を通じて、定量的・計量的手法に関して一通りの理解を得ることを目的とし、次の4点を軸として、講義と演習（PCを用いたデータ分析）を行う。なお、都市経済政策論Aの講義内容と一部関連し、本講義の履修者の関心によって授業計画を変更する可能性がある。

- ・政府統計（国勢調査など）における小地域統計の特性
- ・都市・地域データの基礎的な統計分析（特化係数、ジニ係数、シフトシェア分析など）
- ・都市・地域経済モデルや集積モデルに関わる多変量解析
- ・地理情報システム（GIS）を用いた空間解析手法

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要とポイント
第2回	社会経済分野の統計と都市・地域データ	講義の概要と学修のポイント
第3回	都市・地域データ分析①	講義の概要と学修のポイント
第4回	都市・地域データ分析②	社会経済分野の統計と都市・地域データ
第5回	都市・地域データ分析③	基本統計量、EXCELの分析ツールに関する復習
第6回	都市・地域データ分析④	地域特性に関する指標と分析方法
第7回	都市・地域データ分析⑤	人口・立地特性に関する指標と分析方法
第8回	都市・地域データ分析⑥	都市規模・システムに関する指標と分析方法
第9回	都市・地域データ分析⑦	地域間関係に関する指標、重力モデル、ハフモデル
第10回	都市・地域データ分析⑧	最近隣測度、ネットワーク分析
第11回	都市・地域研究における多変量解析①	回帰分析（ヘドニック法）、主成分分析、因子分析
第12回	都市・地域研究における多変量解析②	クラスター分析、多次元尺度構成法
第13回	地理情報システムと空間解析①	GISの概要と社会科学における空間解析手法
第14回	地理情報システムと空間解析②	GISアプリケーションを用いた空間解析の演習
第15回	地理情報システムと空間解析③	GISアプリケーションを用いた空間解析の演習
第16回	まとめ	都市・地域経済分析の課題と展望

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。テキストおよび参考文献の読解および事後の課題への取り組みを求める。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は事前に指定しないが、履修者の関心によっては発展的な参考文献を指定する。

**【参考書】**

履修者の関心によって参考書を適宜指定する。分析手法に関する基礎的な参考文献は下記があげられる。

大友篤（1997）『地域分析入門（改訂版）』東洋経済新報社

河端瑞貴（2018）『経済・政策分析のための GIS 入門①、②』古今書院

貞広幸雄ほか編（2018）『空間解析入門』朝倉書店

半澤誠司ほか編（2015）『地域分析ハンドブック』ナカニシヤ書店

Karlsson, C. et al. (2016) 『Handbook of Research Methods and Applications in Economic Geography』Edward Elgar Pub

**【成績評価の方法と基準】**

講義への貢献度、数回の課題提出（分析結果の提出等を含む）による評価が中心となる。

平常点 60%、レポート課題・宿題 40%

**【学生の意見等からの気づき】**

受講生の理解度に最大限配慮して柔軟に授業計画を進める。

**【学生が準備すべき機器他】**

情報機器（貸与パソコン等）を持参すること（初回は不要）。また、資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域> 経済地理学、都市・地域経済学

<研究テーマ> 都市・産業集積と経済発展、立地と分業の国際比較、イノベーションシステムの空間分析

<主要研究業績>

①共著（2015）『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社

②共著（2012）『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会

③単著（2007）『立地戦略と空間的分業』古今書院

**【Outline and objectives】**

The aim of this lecture is to give participants empirical methods in urban and regional economics. These include regional analysis, spatial economic analysis, and geographical information system.

ECN572C1-1

**上級マクロ経済学 D A**

宮崎 憲治

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この講義では学術論文を作成するために、非伝統的金融政策が金融システムと実体経済に与える影響について学ぶ

**【到達目標】**

非伝統的金融政策と信用創造に関する先行研究を理論的に理解し、関連するマクロ経済モデルを習熟したうえで、学術論文を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

テーマごとに学術論文を輪読する。最後に学術論文にむけてのレポートを提出する。

『オンライン会議システムを使ったリアルタイムのテレビ会議上で行うことを予定している。具体的な方法などは、授業支援システム登録者にメールで連絡するので、4月24日までに仮登録を済まし、4月25日に確認してください。』

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	日銀の非伝統的金融政策 1	Koeda, Junko (2019). "Macroeconomic effects of quantitative and qualitative monetary easing measures" Journal of The Japanese and International Economies, 52, 121-141.
第 2 回	日銀の非伝統的金融政策 2	Honda, Yuzo and Hitoshi Inoue (2019). "The effectiveness of the negative interest rate policy in Japan: An early assessment" Journal of The Japanese and International Economies, 52, 142-153.
第 3 回	日銀の非伝統的金融政策 3	Honda, Yuzo (2014). The Effectiveness of Nontraditional Monetary Policy : The Case of Japan" Japanese Economic Review, 65(1), 1-23.
第 4 回	日銀の非伝統的金融政策 4	Oda, Nobuyuki and Kazuo Ueda (2007). "The Effects of the Bank of Japan's Zero Interest Rate Commitment and Quantitative Monetary Easing on the Yield Curve : A Macro-Finance Approach," Japanese Economic Review, 58(3), 303-328.
第 5 回	主要 8 か国の非伝統的金融政策	Gambacorta, Leonardo, Boris Hofmann, and Gert Peersman (2014). "The Effectiveness of Unconventional Monetary Policy at the Zero Lower Bound : A Cross-Country Analysis," Journal of Money, Credit and Banking, 46(4), 615-642.
第 6 回	米国の非伝統的金融政策	Hamilton, James D. and Jing C. Wu (2012). "The Effectiveness of Alternative Monetary Policy Tools in a Zero Lower Bound Environment," Journal of Money, Credit, and Banking, 44 (s1), 3-46.
第 7 回	欧州の金融政策と信用創造	Altunbas, Yener, Otabelk Fazylov, and Philip Molyneux(2002). "Evidence on the Bank Lending Channel in Europe," Journal of Banking and Finance, 26(11), 2093-2110.

第 8 回	金融政策の伝達メカニズム 1	Hosono, Kaoru (2006). "The Transmission Mechanism of Monetary Policy in Japan : Evidence from Banks' Balance Sheets," <i>Journal of the Japanese and International Economies</i> , 20(3), 380-405.
第 9 回	金融政策の伝達メカニズム 2	Kashyap, Anil K and Jeremy C. Stein (2000). "What Do a Million Observations on Banks Say about the Transmission of Monetary Policy?" <i>American Economic Review</i> , 90 (3), 407-428.
第 10 回	金融政策の伝達メカニズム 3	Ogawa, Kazuo (2000). "Monetary Policy, Credit, and Real Activity : Evidence from the Balance Sheet of Japanese Firms," <i>Journal of the Japanese and International Economies</i> , 14(4), 385-407.
第 11 回	金融政策と信用創造	Kishan, Ruby P. and Timothy P. Opiela (2000). "Bank Size, Bank Capital, and the Bank Lending Channel" <i>Journal of Money, Credit and Banking</i> , 32(1), 121-141.
第 12 回	銀行の国債保有行動	Ogawa, Kazuo and Kentaro Imai (2014). "Why Do Commercial Banks Hold Government Bonds? The Case of Japan," <i>Journal of the Japanese and International Economies</i> , 34, 201-216.
第 13 回	景気循環と金融政策が企業行動に及ぼす影響	Gertler, Mark and Simon Gilchrist (1994) . "Monetary Policy, Business Cycles, and the Behavior of Small Manufacturing Firms," <i>Quarterly Journal of Economics</i> , 109(2), 309-340.
第 14 回	金融政策と株価	Shibamoto, Masahiko and Minoru Tachibana (2019). "Individual Stock Returns and Monetary Policy: Evidence from Japanese Data". <i>The Japanese Economic Review</i> , 65, 375-396.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前に指定した論文を読んでおく。本授業の予習・復習時間は、あわせて各回 5 時間とする。

**【テキスト（教科書）】**

授業内に指定する

**【参考書】**

授業内に指定する

**【成績評価の方法と基準】**

課題報告 (50%), レポート (30%)

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

マクロ経済学 AB, 応用マクロ経済学 AB を受講済みであることが望ましい。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>

マクロ経済学・計量経済学

<研究テーマ>

マクロ経済学・計量経済学

<主要研究業績>

Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol. 25 (2), pp. 81-106. (査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003)

**【Outline and objectives】**

This lecture examines unconventional monetary policies and these effect on "real" economy.

ECN572C1-2

**上級マクロ経済学 D B**

宮崎 憲治

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この講義では学術論文を作成するために、経済主体が異質なマクロ経済モデルおよびその数値計算法について学ぶ。

**【到達目標】**

経済主体が異質なマクロ経済モデルの先行研究を理論的に理解し、その数値計算法を習熟したうえで、学術論文を作成することができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

テーマごとに学術論文を輪読する。最後に学術論文にむけてのレポートを提出する。

『オンライン会議システムを使ったりリアルタイムのテレビ会議上で行うことを予定している。具体的な方法などは、授業支援システム登録者にメールで連絡するので、4月24日までに仮登録を済まし、4月25日に確認してください。』

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	家計の異質性 1	Huggett, Mark, (1993), The risk-free rate in heterogeneous-agent incomplete-insurance economies, <i>Journal of Economic Dynamics and Control</i> , 17, issue 5-6, p. 953-969.
第 2 回	家計の異質性 2	S. Rao Aiyagari, 1994. "Uninsured Idiosyncratic Risk and Aggregate Saving," <i>The Quarterly Journal of Economics</i> , Oxford University Press, vol. 109(3), pages 659-684.
第 3 回	家計の異質性 3	Per Krusell & Anthony A. Smith & Jr., 1998. "Income and Wealth Heterogeneity in the Macroeconomy," <i>Journal of Political Economy</i> , University of Chicago Press, vol. 106(5), pages 867-896, October.
第 4 回	企業の異質性 1	Hopenhayn, Hugo A, 1992. "Entry, Exit, and Firm Dynamics in Long Run Equilibrium," <i>Econometrica</i> , <i>Econometric Society</i> , vol. 60(5), pages 1127-1150, September.
第 5 回	企業の異質性 2	Aubhik Khan & Julia K. Thomas, 2008. "Idiosyncratic Shocks and the Role of Nonconvexities in Plant and Aggregate Investment Dynamics," <i>Econometrica</i> , <i>Econometric Society</i> , vol. 76(2), pages 395-436, March.
第 6 回	HANK1	Alisdair McKay & Emi Nakamura & Jón Steinsson, 2016. "The Power of Forward Guidance Revisited," <i>American Economic Review</i> , <i>American Economic Association</i> , vol. 106(10), pages 3133-3158, October.
第 7 回	HANK2	Greg Kaplan & Benjamin Moll & Giovanni L. Violante, 2018. "Monetary Policy According to HANK," <i>American Economic Review</i> , <i>American Economic Association</i> , vol. 108(3), pages 697-743, March.
第 8 回	HACT1	Yves Achdou & Jiequn Han & Jean-Michel Lasry & Pierre-Louis Lions & Benjamin Moll, 2017. "Income and Wealth Distribution in Macroeconomics: A Continuous-Time Approach," <i>NBER Working Papers</i> 23732, <i>National Bureau of Economic Research</i> , Inc.

第 9 回	HACT2	SeHyoun Ahn & Greg Kaplan & Benjamin Moll & Thomas Winberry & Christian Wolf, 2017. "When Inequality Matters for Macro and Macro Matters for Inequality," NBER Working Papers 23494, National Bureau of Economic Research, Inc.
第 10 回	数値計算 1	Reiter, Michael, 2009. "Solving heterogeneous-agent models by projection and perturbation," Journal of Economic Dynamics and Control, Elsevier, vol. 33(3), pages 649-665, March.
第 11 回	数値計算 2	Boppart, Timo & Krusell, Per & Mitman, Kurt, 2018. "Exploiting MIT shocks in heterogeneous-agent economies: the impulse response as a numerical derivative," Journal of Economic Dynamics and Control, Elsevier, vol. 89(C), pages 68-92.
第 12 回	数値計算 3	Adrien Auclert & Bence Bardoczy & Matthew Rognlie & Ludwig Straub, 2019. "Using the Sequence-Space Jacobian to Solve and Estimate Heterogeneous-Agent Models," NBER Working Papers 26123, National Bureau of Economic Research, Inc.
第 13 回	異質な家計のリスク	Jonathan Heathcote & Kjetil Storesletten & Giovanni L. Violante, 2009. "Quantitative Macroeconomics with Heterogeneous Households," Annual Review of Economics, Annual Reviews, vol. 1(1), pages 319-354, 05
第 14 回	財政政策と異質な家計	Jappelli, Tullio, and Luigi Pistaferri. 2014. "Fiscal Policy and MPC Heterogeneity." American Economic Journal: Macroeconomics, 6 (4): 107-36.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前に指定した論文を読んでおく。本授業の予習・復習時間は、あわせて各回 5 時間とする。

**【テキスト（教科書）】**

授業内に指定する

**【参考書】**

授業内に指定する

**【成績評価の方法と基準】**

課題報告 (50%), レポート (30%)

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

マクロ経済学 AB, 応用マクロ経済学 AB を受講済みであることが望ましい。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>

マクロ経済学・計量経済学

<研究テーマ>

マクロ経済学・計量経済学

<主要研究業績>

Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, Vol. 25 (2), pp. 81-106. (査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003)

**【Outline and objectives】**

This lecture studies macroeconomic heterogenous-agent models and numerical algorithms for solving these models.

ECN573C1-1

**ミクロ計量分析 D A**

明城 聡

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

統計パッケージ R を利用したより高度な経済データ分析  
※本年度は情報処理室が利用できないため、ビデオ会議形式での授業を行います。

また、自分の PC で作業を行うことになるので受講生は予め PC(Windows, Mac, Linux のいずれか)を準備しておいて下さい。詳しい受講方法は学習支援システムをご覧ください。

**【到達目標】**

統計学や計量経済学の考え方を学ぶとともに、統計パッケージ R を用いた基本的な計量分析の手法を学習する。博士後期課程の学生は論文執筆に必要なプログラミング能力を習得することを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学と R の操作方法について解説する。その後で実際に端末を利用して演習を行う。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量分析手法を学習する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】**

**春学期**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	R の設定 (1)	・ R について ・基本的な設定
3	R の設定 (2)	・基本コマンド ・統計量の計算
4	R の操作とデータ管理 (1)	・ファイル操作 ・オブジェクト操作
5	R の操作とデータ管理 (2)	・基本統計量
6	R の操作とデータ管理 (3)	・行列の操作
7	R の操作とデータ管理 (4)	・行列演算
8	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 1)	・クロスセクション・データ ・一般化古典的回帰モデル
9	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 2)	・ R での回帰分析 ・散布図と回帰直線の作図
10	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 3)	・不均一分散の検定 ・不均一分散調整済み標準誤差
11	線形回帰分析 (パネルデータ 1)	・パネルデータ ・ Pooled OLS
12	線形回帰分析 (パネルデータ 2)	・固定効果モデル ・変量効果モデル
13	線形回帰分析 (パネルデータ 3)	・ Hausman 検定
14	まとめ	・授業のまとめと復習 ・課題レポートについて

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

担当教員が作成した講義資料を授業で配布する。

## 【参考書】

- (1) 小暮厚之、「Rによる統計データ分析入門」朝倉書店、2009年  
 (2) 福地純一郎、伊藤有希、「Rによる計量経済分析」朝倉書店、2011年  
 (3) 浅野哲、中村二郎『計量経済学・第二版』、有斐閣、2009年

## 【成績評価の方法と基準】

課題レポートにて評価する(100%)。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

情報処理室の端末を利用するので、大学のアカウント(IDおよびパスワード)を確認しておくこと。

## 【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合がある。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

実証産業組織論、応用統計学

<研究テーマ>

構造推定を用いた市場分析

<主要研究業績>

1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, *International Economic Review*, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.
2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, *Journal of the Japanese and International Economies*, vol.48, pp.55-67, 2018.

## 【Outline and objectives】

Objectives of this course is to master standard econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programing skills to utilize statistical software R.

ECN573C1-2

## ミクロ計量分析D B

明城 聡

## 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

本講義では産業組織論分野の実証分析で用いられているミクロ計量手法についてトピックを選んで解説する。特に近年の実証分析で多く利用されている構造推定アプローチについて焦点を当てた議論をする。講義を通じて消費者や企業の行動を定量分析するとともに政策評価に必要な技術を習得することを目標とする。

## 【到達目標】

消費者や企業のミクロデータを利用して実証分析を行う際に利用可能な構造推定の手法を学習する。特に生産関数の推定(内生問題への対応、規模の経済および学習効果の推定)、同質財の需要と価格付け、差別化された財の需要と価格付け(垂直的差別化モデル、離散選択モデル)、および動学的意思決定モデルを利用した投資行動などのトピックを扱う。博士後期課程の学生は理論モデルを学ぶだけでなく、それを論文執筆に生かせるような計量分析能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

講義では実証分析を行う際の問題点とそれを克服するための分析ツールについて解説する。また実際にミクロデータを用いた演習を行うて理解を深める。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業についての説明
第2回	生産関数(1)	・生産関数の推定 ・内生性の問題
第3回	生産関数(2)	・パネルデータの利用 ・誤差項の系列相関
第4回	生産関数(3)	・投資ショックによる内生性の識別
第5回	学習効果と規模の経済	・費用関数の推定 ・学習効果と規模の経済の識別
第6回	演習(1)	情報処理室にて演習
第7回	同質財市場	・コンダクトパラメータの識別問題 ・小麦輸送市場の分析
第8回	差別化された財市場(1)	・垂直的差別化モデルによる自動車市場の分析
第9回	差別化された財市場(2)	・離散選択モデル(1)
第10回	差別化された財市場(3)	・離散選択モデル(2)
第11回	演習(2)	情報処理室にて演習
第12回	動学モデル(1)	・動学モデルについて ・状態遷移とマルコフ完全均衡 ・価値関数とベルマン方程式
第13回	動学モデル(2)	・Nested Fixed Point アプローチと Two Step 法 ・離散選択モデルによる動学推定
第14回	動学モデル(3)	・シミュレーションによる価値関数の推定 ・米国生コンクリート市場の分析 ・米国自動車市場の分析

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

授業担当者が作成した講義資料を授業で配布する。

**【参考書】**

**【産業組織論】**

- (1) D. Carlton and J. Perloff, *Modern Industrial Organization*, Harper-Collins, 2005.
- (2) R. Schmalensee and R. Willig, eds., *Handbook of Industrial Organization* vol.1, North-Holland, 1989.
- (3) M. Armstrong and R. H. Porter ed., *Handbook of Industrial Organization* vol.3, North-Holland, 2007.
- (4) J. Tirole, *the Theory of Industrial Organization*, MIT, 1998.

**【ミクロ経済学】**

- (1) Hal R. Varian, *Microeconomic Analysis*, 3rd ed., Norton, 1992
- (2) 奥野正寛『ミクロ経済学』、東大出版会、2008年

**【計量経済学】**

- (1) J. M. Wooldridge, *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, MIT, 2002.
- (2) 浅野哲、中村二郎『計量経済学・第二版』、有斐閣、2009年  
・ K. E. Train, *Discrete Choice Methods with Simulation*, 2nd ed., Cambridge, 2009.
- (3) A. C. Cameron and P. K. Trivedi, *Microeconometrics Using Stata*, Stata Press, 2009.

**【成績評価の方法と基準】**

課題レポートで評価する(100%)。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

必要に応じて情報処理室で演習を行う。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>

実証産業組織論、応用統計学

<研究テーマ>

構造推定を用いた市場分析

<主要研究業績>

1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, *International Economic Review*, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.
2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, *Journal of the Japanese and International Economies*, vol.48, pp.55-67, 2018.

**【Outline and objectives】**

This course provides advanced econometric tools to analyze economic micro data. Especially, structural data analysis approach used in recent empirical industrial economics are covered.

